

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ語基礎Ⅰ/Basic German Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	小川 和彦(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G710100
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 5, 火/Tue 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	小川 和彦(E-mail : og49-peterailonamkaz@docomo.ne.jp (携帯メールのみ))		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	大学生生活におけるドイツ人留学生やドイツ人講師との交流場面を通してドイツ語を学んでいく。話す・聞くのひととおりのコミュニケーションが成り立つ程度の基本的な語彙や文型を学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	ドイツ語の実用的側面を意識しつつ、会話能力の養成をねらいとします。この授業がきっかけとなって、履修者がドイツ語(外国語)学習を継続していく意欲を獲得してくれることになれば本授業の目的は達成されます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	ドイツ語圏の日常生活の様々な場面を語学を学んでゆく。同時に生活文化、伝統に興味を持ってもらう。		
前提とする知識/Prerequisites	高校までの英文法を前提とします。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業では、発音、テキストの朗読、練習問題の板書、ドイツ文聞取りと書取りが中心となります。残った問題は自由課題(提出自由)とします。教科書との関連から、ドイツ語圏の歴史、地理、文化を紹介します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 シラバスによるガイダンス。ドイツの暮しの紹介 第2回 「発音」 特にA(アー)B(ベー)C(ツェー)と挨拶、季節の表現 第3回 月、曜日、数字の言い方 第4回 ドイツ語の人称(=主語、英語で言うI, you, he, she等)と動詞の語尾変化。(英語I play, He plays etc.) 第5回 ドイツ語に訳す「あなたは何をしているのですか?」 第6回 sein(ザイン)=英語のbe 動詞の使い方。Haben(ハーベン)=英語のhave 名詞の性。1格=主語 4格=目的語 第7回 ドイツ語に訳す「君は、明日時間あるの?」 第8回 不規則動詞の現在人称変化、名詞の複数形と3格 第9回 会話文「君はいつベルリンに行くの?」 第10回 テーマ1聞き取り練習「こんにちは」、テーマ2パートナー練習「このカバンは、いくらですか?」 第11回 前置詞、副文、格変化(主語か目的語かで、英語のthe, a, my等がドイツ語変化すること) 第12回 ドイツ語に訳す「食事の後で、その学生は本を読む。」 第13回 人称代名詞の3、4格(英語で言うto me, me, to him, him等の形) 第14回 ドイツ語に訳す「マリアは母親と市場に行く。」聞き取り練習、「遠足」時間の言い方。パートナー練習 第15回 冠詞類について 第16回 学期末試験		
教科書・参考書等/Textbooks	朝日出版社「ドイツ語の時間」〈話すための文法〉清野智昭(せいのともあき)著ISBN978-4-255-25369-3 税別 ¥2,200円。 加えて、独和辞典を必ず持参してください。教科書は大学生協でのみ販売となります。参考書は不要です。		
成績評価の方法/Evaluation	小テストと練習問題等の板書と自由提出物(練習問題、ドイツ語の文)+定期試験 : 40%+60%=100% * 小テストとは授業中随時行うものを指します。読み、聞取り、作文等、練習問題など。		
学習上の助言/Learning Advice	各自ノートをお忘れなく。提出物以外の練習問題等についても、添削希望者には、添削します。 ドイツ語の発音と文字の書き取りが出来るようになるよう日頃から練習しましょう。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ語基礎Ⅰ / Basic German Ⅰ		
担当教員(所属) / Instructor	小川 和彦(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G710230
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 火 /Tue 9, 火 / Tue 10	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	小川 和彦(E-mail : og49-peterailonamkaz@docomo.ne.jp (携帯メールのみ))		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours			
授業の内容 / Course Description	大学生活におけるドイツ人留学生やドイツ人講師との交流場面を通してドイツ語を学んでいく。話す・聞くのひととおりのコミュニケーションが成り立つ程度の基本的な語彙や文型を学ぶ。		
授業の達成目標 / Course Goals	ドイツ語の実用的側面を意識しつつ、会話能力の養成をねらいとします。この授業がきっかけとなって、履修者がドイツ語(外国語)学習を継続していく意欲を獲得してくれることになれば本授業の目的は達成されます。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	ドイツ語圏の日常生活の様々な場面を語学を学んでゆく。同時に生活文化、伝統に興味を持ってもらう。		
前提とする知識 / Prerequisites	高校までの英文法を前提とします。		
関連科目 / Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	授業では、発音、テキストの朗読、練習問題の板書、ドイツ文聞き取りと書き取りが中心となります。残った問題は自由課題(提出自由)とします。教科書との関連から、ドイツ語圏の歴史、地理、文化を紹介します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1回 シラバスによるガイダンス。ドイツの暮しの紹介 第2回 「発音」 特にA(アー)B(ベー)C(ツェー)と挨拶、季節の表現 第3回 月、曜日、数字の言い方 第4回 ドイツ語の人称(=主語、英語で言うI, you, he, she等)と動詞の語尾変化。(英語I play, He plays etc.) 第5回 ドイツ語に訳す「あなたは何をしているのですか?」 第6回 sein(ザイン)=英語のbe動詞の使い方。Haben(ハーベン)=英語のhave 名詞の性。1格=主語 4格=目的語 第7回 ドイツ語に訳す「君は、明日時間あるの?」 第8回 不規則動詞の現在人称変化、名詞の複数形と3格 第9回 会話文「君はいつベルリンに行くの?」 第10回 テーマ1聞き取り練習「こんにちは」、テーマ2パートナー練習「このカバンは、いくらですか?」 第11回 前置詞、副文、格変化(主語か目的語かで、英語のthe, a, my等がドイツ語変化すること) 第12回 ドイツ語に訳す「食事の後で、その学生は本を読む。」 第13回 人称代名詞の3、4格(英語で言うto me, me, to him, him等の形) 第14回 ドイツ語に訳す「マリアは母親と市場に行く。」聞き取り練習、「遠足」時間の言い方。パートナー練習 第15回 冠詞類について 第16回 学期末試験		
教科書・参考書等 / Textbooks	朝日出版社「ドイツ語の時間」〈話すための文法〉清野智昭(せいのともあき)著ISBN978-4-255-25369-3 税別 ¥2,200円。 加えて、独和辞典を必ず持参してください。教科書は大学生協でのみ販売となります。参考書は不要です。		
成績評価の方法 / Evaluation	小テストと練習問題等の板書と自由提出物(練習問題、ドイツ語の文)+定期試験 : 40%+60%=100% * 小テストとは授業中随時行うものを指します。読み、聞き取り、作文等、練習問題など。		
学習上の助言 / Learning Advice	各自ノートをお忘れなく。提出物以外の練習問題等についても、添削希望者には、添削します。 ドイツ語の発音と文字の書き取りが出来るようになるよう日頃から練習しましょう。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ語基礎Ⅱ/Basic German II		
担当教員(所属)/Instructor	マルコス フランケ(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G710410
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 5, 火/Tue 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	マルコス フランケ(mf0001@plum.ocn.ne.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	大学生生活におけるドイツ人留学生やドイツ人講師との交流場面を通してドイツ語を学んでいく。話す・聞くのひととおりのコミュニケーションが成り立つ程度の基本的な語彙や文型を学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	ドイツ語の実用的側面を意識しつつ、会話能力の養成をねらいとします。この授業がきっかけとなって、履修者がドイツ語(外国語)学習を継続していく意欲を獲得してくれることになれば本授業の目的は達成されます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	ドイツ語圏の日常生活の様々な場面を語学を学んでゆく。同時に生活文化、伝統に興味を持ってもらう。		
前提とする知識/Prerequisites	ドイツ語に興味があり、基礎知識を持っていること。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	基本文型を覚え、隣り合った相手との対話練習へと広げていく過程で、さまざまな表現や、新しい単語などを紹介していく。本を中心に進めていくが、ビデオ教材を使ったり、ゲームを取り入れたりして、アクティブな授業にしていきたい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 道の教え方 第2週 住まい 第3週 町中で(1) 第4週 町中で(2) 第5週 約束 第6週 計画と願望 第7週 病気と健康(1) 第8週 病気と健康(2) 第9週 外見と性格 第10週 家事 第11週 規則 第12週 衣服 第13週 天気 第14週 祭りと祝い事 第15週 試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：“Menschen A1.2 Kursbuch”(Hueber Verlag)を使います。 参考書：独和辞典を持参すること。 教材：特にありません。		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験(受験には70%以上の出席が必要です。)		
学習上の助言/Learning Advice	会話中心の授業なので、受講者を40人に制限します。抽選は1回目の授業で行いますので、受講希望者は必ず出席して下さい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ語基礎Ⅱ/Basic German II		
担当教員(所属)/Instructor	マルコス フランケ(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G710430
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	マルコス フランケ(mf0001@plum.ocn.ne.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	大学生生活におけるドイツ人留学生やドイツ人講師との交流場面を通してドイツ語を学んでいく。話す・聞くのひととおりのコミュニケーションが成り立つ程度の基本的な語彙や文型を学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	ドイツ語の実用的側面を意識しつつ、会話能力の養成をねらいとします。この授業がきっかけとなって、履修者がドイツ語(外国語)学習を継続していく意欲を獲得してくれることになれば本授業の目的は達成されます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	ドイツ語圏の日常生活の様々な場면을語学を学んでゆく。同時に生活文化、伝統に興味を持ってもらう。		
前提とする知識/Prerequisites	ドイツ語に興味があり、基礎知識を持っていること。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	基本文型を覚え、隣り合った相手との対話練習へと広げていく過程で、さまざまな表現や、新しい単語などを紹介していく。本を中心に進めていくが、ビデオ教材を使ったり、ゲームを取り入れたりして、アクティブな授業にしていきたい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 道の教え方 第2週 住まい 第3週 町中で(1) 第4週 町中で(2) 第5週 約束 第6週 計画と願望 第7週 病気と健康(1) 第8週 病気と健康(2) 第9週 外見と性格 第10週 家事 第11週 規則 第12週 衣服 第13週 天気 第14週 祭りと祝い事 第15週 試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：“Menschen A1.2 Kursbuch”(Hueber Verlag)を使います。 参考書：独和辞典を持参すること。 教材：特にありません。		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験(受験には70%以上の出席が必要です。)		
学習上の助言/Learning Advice	会話中心の授業なので、受講者を40人に制限します。抽選は1回目の授業で行いますので、受講希望者は必ず出席して下さい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ語基礎Ⅲ/Basic German III		
担当教員(所属)/Instructor	渡邊 直樹(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G711563
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	渡邊 直樹(naokiw@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	渡邊 直樹(水曜日13時~14時)		
授業の内容/Course Description	1年次生対象科目としての「ドイツ語基礎Ⅲ」です。大学入学前にドイツ語を学習したことがない初習者を対象にドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」基礎的能力を養うことが目的です。ドイツ語圏諸国の学生生活や人々の日常生活がわかりやすい教材を使用します。後期開講の「ドイツ語基礎Ⅳ」とともに履修してください。		
授業の達成目標/Course Goals	前期・後期を合わせ1年間のドイツ語学習により基本文法の理解や簡単な会話、文章の読み書きができるようになることを目標とします。ドイツ語圏諸国の文化・社会について基礎的情報を合わせてお話しします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」を履修した学生、および「ドイツ語基礎Ⅲ、Ⅳ」を専門導入科目として履修した国際学部学生のために2年次に少しレベルアップした「ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ」が開講されています。春と秋に実施されているドイツ語技能検定試験によるドイツ語能力の資格取得を目指します。		
前提とする知識/Prerequisites	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」(前・後期)を履修することにより、基礎的ドイツ語力が身に付きます。「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」(前・後期)も並行して履修することによりドイツ語能力をさらに深化させることができます。国際学部学生は「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」「ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ」をワンセットとして修得することによりドイツ語力がかなり向上します。留学の基礎的準備が整います。		
関連科目/Related Courses	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」(前・後期)を履修することにより、基礎的ドイツ語力が身に付きます。「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」(前・後期)も並行して履修することによりドイツ語能力をさらに深化させることができます。国際学部学生は「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」「ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ」をワンセットとして修得することによりドイツ語力がかなり向上します。留学の基礎的準備が整います。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	文法事項の理解と簡単な文章の理解、挨拶などの簡単な会話を練習問題を中心に学びます。「ドイツ語」の基礎的能力の修得を目指します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週授業の説明 第2週アルファベットと発音 第3週動詞の現在人称変化(1) 第4週動詞の現在人称変化(2) 第5週名詞の性と格変化(1) 第6週名詞の性と格変化(2) 第7週人称代名詞 第8週前置詞の各支配 第9週名詞の複数形 第10週所有代名詞 第11週冠詞類の格変化 第12週形容詞の格変化(1) 第13週形容詞の格変化(2) 第14週命令形 第15週まとめ 第16週期末試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書:最初の時間に紹介します。宇都宮大学生協で販売予定です。 参考書:特にありません。要望があれば個別に紹介します。ただし、独和辞典は必携。 補助教材:必要に応じて、プリント等で配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	出席点(積極性、自主性、協力等を含む)50点と期末試験等の試験50点、計100点満点とし、80点以上の者に「優」、70点以上「良」、60点以上「可」を与えます。また、90点以上で特に優れた者には「秀」を与えることもあります。		

学習上の助言／Learning Advice	外国語は一朝一夕に身に付くものではありません。予習・復習を心がけてください。外国語の修得には根気が大切です。忍耐力と外国に対する興味が旺盛な人の積極的な参加を期待します。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ語基礎Ⅳ/Basic German IV		
担当教員(所属)/Instructor	渡邊 直樹(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G713459
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	渡邊 直樹(naokiw@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	渡邊 直樹(水曜日13時~14時)		
授業の内容/Course Description	「ドイツ語基礎Ⅳ」は「ドイツ語基礎Ⅲ」(前期)の継続的科目であり、教科書および授業方法は「ドイツ語Ⅲ」と同様です。また、「ドイツ語Ⅱ」も履修をお薦めします。週に4時間1年間ドイツ語を学修することによりドイツ語の基礎的能力が確実に身に付きます。		
授業の達成目標/Course Goals	1年間のドイツ語学修により基本文法の理解や簡単な会話、文章の読み書きができるようになることを目標とします。また、ドイツ語圏諸国の文化・社会について基礎情報を得ることを目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」あるいは「ドイツ語Ⅲ・Ⅳ」を専門導入科目として履修した国際学部学生のために、少しレベルアップした「ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ」が開講されています。留学を志望する学生の皆さんは是非履修してください。		
前提とする知識/Prerequisites	前期「ドイツ語基礎Ⅰ」「ドイツ語基礎Ⅲ」および後期「ドイツ語基礎Ⅱ」「ドイツ語基礎Ⅳ」を履修してほしい。国際学部学生は「ドイツ語基礎Ⅰ~Ⅳ」をワンセットとして学修することによりドイツ語能力のさらなる深化が期待できます。		
関連科目/Related Courses	「ドイツ語基礎Ⅰ」「ドイツ語基礎Ⅲ」および後期「ドイツ語基礎Ⅱ」「ドイツ語基礎Ⅳ」と関連します。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	「ドイツ語基礎Ⅲ」と同様に、文法事項の理解と読解、簡単な会話を練習問題中心に学びます。「ドイツ語基礎Ⅲ」の成果をさらに深めることを目指します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 複合動詞 (1) 第2週 複合動詞 (2) 第3週 再帰表現 第4週 話法の助動詞 第5週 動詞の三基本形 (1) 第6週 動詞の三基本形 (2) 第7週 完了形 第8週 受動文 第9週 関係文 第10週 接続法 第11週 zu 不定詞 第12週 比較表現 第13週 接続詞 第14週 まとめ (1) 第15週 まとめ (2) 第16週 期末試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：最初の時間に紹介します。宇都宮大学生協で販売予定です。 参考書：特にありません。要望があれば個別に紹介します。ただし、独和辞典は必携。 補助教材：必要に応じて、プリント等で配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	出席点(積極性、自主性、協力等を含む)50点と期末試験等の試験50点、計100点満点とし、80点以上の者に「優」、70点以上「良」、60点以上「可」を与えます。また、90点以上で、特に優れた者には「秀」を与えることもあります。		
学習上の助言/Learning Advice	外国語は一朝一夕には修得できません。外国語の修得には根気が大切です。とにかく何でも覚えてやろうという意欲の持ち主、またドイツ語圏諸国に対する興味が旺盛な人の積極的な参加を期待します。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ語応用Ⅰ/Intermediate German Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	渡邊 直樹(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G715236
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 3, 金/Fri 4	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	渡邊 直樹(naokiw@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	渡邊 直樹(水曜日13時~14時)		
授業の内容/Course Description	ドイツ語の基礎的能力の向上およびドイツ語の実践的表現力を養います。		
授業の達成目標/Course Goals	ドイツ語の実践を意識しつつ、「読み」「聴く」「話す」「書く」能力の向上を目指します。ドイツの大学へ留学するための基礎的準備を整えます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	ドイツ語を学修することは、日本語を勉強することでもあり、コミュニケーションの方法を身に付けることでもあり、教養を深めることでもあります。留学のための基礎的準備、ドイツ語技能検定試験の受験準備に役立つ授業内容とします。		
前提とする知識/Prerequisites	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」あるいは「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」の履修を前提します。		
関連科目/Related Courses	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」あるいは「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」の履修を前提します。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	ドイツ語の「読み」「書き」「聴く」「話す」能力のさらなる向上が目標です。ドイツ語技能検定試験4級を受験できる能力の獲得を目標とします。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	ドイツ語基礎を踏まえ、「読み」「書き」「話す」「聴く」総合的能力の向上を目指します。ドイツ語技能検定試験用のテキストを活用し、ドイツ語能力を基礎から応用へと高めていきます。 第1週 ガイダンス 第2週~第8週 ドイツ語技能検定試験5級およびその応用問題。 第9週~第15週 ドイツ語技能検定試験4級及びその他応用問題。 第16週試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書等使用する場合は、授業の開始時に紹介することとします。また、過去の問題のプリントを用意します。		
成績評価の方法/Evaluation	出席点(積極性、自主性、協力等を含む)50点と期末試験等の試験50点、計100点満点とし、80点以上の者に「優」、70点以上「良」、60点以上「可」を与えます。また、90点以上で、特に優れた者には「秀」を与えることもあります。		
学習上の助言/Learning Advice	外国語は一朝一夕には修得できません。外国語の修得には根気が大切です。とにかく何でも覚えてやろうという意欲の持ち主、またドイツ語圏諸国に対する興味が旺盛な人の積極的な参加を期待します。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ語応用Ⅱ/Intermediate German Ⅱ		
担当教員(所属)/Instructor	渡邊 直樹(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G717238
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 3, 金/Fri 4	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	渡邊 直樹(naokiw@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	渡邊 直樹(水曜日13時~14時)		
授業の内容/Course Description	ドイツ語の基礎的知識について復習しつつ実践的ドイツ語のトレーニングをします。		
授業の達成目標/Course Goals	ドイツ語の中級レベルの能力の獲得に努めます。ドイツ語技能検定試験4級・3級の受験資格および合格を目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	ドイツ語能力の向上のみならず、ドイツ語の学修を通して広くドイツ語圏の文化・社会についての知識を深化させることも目標とします。また、ドイツの大学へ留学するためのドイツ語能力の涵養に努めます。		
前提とする知識/Prerequisites	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」、「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」、「ドイツ語応用Ⅰ」と関連します。		
関連科目/Related Courses	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」、「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」、「ドイツ語応用Ⅰ」の履修を前提します。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	ドイツ語技能検定試験の4級あるいは3級の受験資格が得られるようドイツ語能力の向上に努めます。過去問題等を活用して実践力を養います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	ドイツ語技能検定試験の過去問題を活用して総合的なドイツ語能力を養います。 第1週 ガイダンス 第2週 ~ 第8週 検定試験4級の問題とその他応用問題を解答します。 第9週 ~ 第15週 検定試験3級の問題とその他応用問題を解答します。 第16週 期末試験		
教科書・参考書等/Textbooks	授業の開始時に紹介します。適宜プリントを配布し、教材とします。		
成績評価の方法/Evaluation	出席点(積極性、自主性、協力等を含む)50点と期末試験等の試験50点、計100点満点とし、80点以上の者に「優」、70点以上「良」、60点以上「可」を与えます。また、90点以上で、特に優れた者には「秀」を与えることもあります。		
学習上の助言/Learning Advice	外国語は一朝一夕には修得できません。外国語の修得には根気が大切です。ドイツ語圏諸国に対する好奇心と興味が旺盛な人の積極的な参加を期待します。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス語基礎Ⅰ/Basic French Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	小川 亮彦(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G720155
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 7, 金/Fri 8	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	フランス語に初めて接する者を対象として、フランス語の会話と読み書きのために最低限これだけは必要である、という要素を中心に、1年間でフランス語文法の基礎を徹底的に学習します。		
授業の達成目標/Course Goals	使用教科書は、フランス語検定に準拠した内容になっています。今年度秋季フランス語検定(5級及び4級)に合格する能力の育成を目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、宇都宮大学基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	英語学習で経験している文法概念を前提として授業を進めます。英語の得手、不得手は心配ありません。なお、ヨーロッパ文化(フランスでなくても良い)に関心を抱いていることが望まれます。		
関連科目/Related Courses	英語学習で経験している文法概念を前提として授業を進めます。英語の得手、不得手は心配ありません。なお、ヨーロッパ文化(フランスでなくても良い)に関心を抱いていることが望まれます。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業では毎回、教科書に沿って初級文法の解説を行ない、同時に基本的な文型の発話訓練も実施します。それが済んだら、辞書を用いて教科書の練習問題を解いてもらいます。皆さんの解答を確認した後、必要と思われる部分に関して、再度解説を施します。講義内容をノートにとることよりも、自分でフランス語の文を読み、自分でフランス語の文を書く演習が大切になります。A B Cの読み方から始まって、辞書の使い方などの初歩的なこともじっくり進めますので、安心して受講して下さい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週授業内容と参考教材の説明 第2週フランス語の書記法則と発音体系 第3週主語を形成する要素：名詞 第4週主語を形成する要素：形容詞 第5週主語を形成する要素：冠詞 第6週基本となる動詞 第7週高頻度不規則動詞 第8週否定形と疑問形の基礎 第9週否定形と疑問形の基礎 第10週指示代名詞 第11週所有形容詞 第12週前置詞とその縮約 第13週基本となる動詞：高頻度不規則動詞 第14週第一群規則動詞 第15週第二群規則動詞		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：『使って覚える実用フランス語』稲垣文雄著朝日出版社 辞書、参考書については、初回の授業の時に紹介します。		
成績評価の方法/Evaluation	学期末の筆記試験を80%、平素の授業における学習達成度(小テスト、その他)を20%として採点します。		
学習上の助言/Learning Advice	授業は毎回、ほとんどすべてが新出事項です。予習はそれほど必要ありませんが、復習にはある程度時間をかけて、毎時間ごとに習った項目を整理するように心掛けて下さい。あくまで、文法解説を中心とした授業ですが、受講者が退屈しないようにこちらも努めるつもりです。 なお、関連科目の「フランス語基礎Ⅲ」をできるだけ同時に履修して下さい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス語基礎Ⅰ / Basic French Ⅰ		
担当教員(所属) / Instructor	守永 直幹(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G720196
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 火 /Tue 5, 火 / Tue 6	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	守永 直幹(講義終了後対応します。)		
授業の内容 / Course Description	現代人は英語は当然のこと、ぜひとも第2外国語を学ばねばなりません。世界は流動化しつつありますが、それを引き起こしているのは欧米中心の価値観の変動です。フランス語を学び、ヨーロッパについて知らないことと今後の世界の動きに付いて行けません。アジアやアフリカで国際活動に携わろうとする者にもフランス語は必須です。この授業では、初めてフランス語に接する者を対象として、フランス語の文法の基礎を中心に学習します。		
授業の達成目標 / Course Goals	1年間でフランス語文法の基礎をひと通り眺めます。まず発音を正確にできるようになることが肝心です。次に重要なのが動詞の活用です。基礎的な動詞にかんしては何度となく反復練習と小テストをくりかえし徹底的に身につけてもらいます。これらの基礎を元に、より複雑な文法学習に取り組めます。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	この授業は、宇都宮大学基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	高校生程度の英語力があれば結構です。基礎Ⅰ(前期)・Ⅱ(後期)と分かれています。実際には通年の授業です。間違えないように。また基礎Ⅰ・Ⅱは文法中心の授業ですが、基礎Ⅲ・Ⅳは応用トレーニングで、できるだけ双方を合わせて受講するのが望ましい。		
関連科目 / Related Courses	高校生程度の英語力があれば結構です。基礎Ⅰ(前期)・Ⅱ(後期)と分かれています。実際には通年の授業です。間違えないように。また基礎Ⅰ・Ⅱは文法中心の授業ですが、基礎Ⅲ・Ⅳは応用トレーニングで、できるだけ双方を合わせて受講するのが望ましい。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	フランスのポップスを聴く機会を設けたいと思っています。セリーヌ・ディオンや、パトリシア・カースといった歌手の名曲を用意しています。また時にフランス映画を紹介することもあるでしょう。むしろ授業は文法知識の習得と、そのためのトレーニングが中心ですが、教科書にこだわらず、広くフランス文化にたいするイメージを養ってもらおうと思っています。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週 授業のオリエンテーション(授業計画、教科書、参考書等の紹介) 第2週 アルファベ、綴り字記号、発音の説明と練習 第3週 発音の練習 第4週 主語人称代名詞、名詞の性・数 第5週 不定冠詞・定冠詞 第6週 動詞 ?tre, avoir 第7週 第1群規則動詞 第8週 疑問文・否定文、部分冠詞 第9週 これまでの復習 第10週 動詞 aller, venir 第11週 前置詞と定冠詞の縮約 第12週 近接未来・近接過去 第13週 形容詞 第14週 指示形容詞、所有形容詞 第15週 第2群規則動詞 第16週 テスト		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書は『オ・パ・カマラッド!??足並みそろえて、フランス語』(駿河台出版社)を用います。フランスのポップスを聴きながら初級文法を学ぶ教材です。補助教材を適時、授業中に配付します。		
成績評価の方法 / Evaluation	学期末の筆記試験を80%、平素の授業における学習達成度(小テスト、その他)を20%として採点します。		
学習上の助言 / Learning Advice	1年間でフランス語文法をマスターするのは相当に難事です。こちらとしては学生の諸君に不当な要求をするつもりはありません。反復練習をくりかえしつつ、徐々にフランス語に慣れてもらい、いずれそれを有用な道具として使いこなせるようになってもらうことがこの授業の目標です。ですが、1年間の学習を終えた時点では「なるほど、フランス語の文法ってこうなっているのか」と実感できる苦です。		
キーワード / Keywords			

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス語基礎Ⅱ / Basic French II		
担当教員(所属) / Instructor	小川 亮彦(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G720255
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 金 / Fri 7, 金 / Fri 8	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours			
授業の内容 / Course Description	前期開講の「フランス語基礎Ⅰ」に引き続き、フランス語に初めて接する者を対象として、フランス語の会話と読み書きのために最低限これだけは必要である、という要素を中心に、1年間でフランス語文法の基礎を徹底的に学習します。		
授業の達成目標 / Course Goals	使用教科書は、フランス語検定に準拠した内容になっています。今年度秋季または来年度春季フランス語検定(5級及び4級)に合格する能力の育成を目標とします。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	この授業は、宇都宮大学基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	原則として、「フランス語基礎Ⅰ」の単位を取得していることを前提とします。		
関連科目 / Related Courses	原則として、「フランス語基礎Ⅰ」の単位を取得していることを前提とします。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	「フランス語基礎Ⅰ」と同様に、教科書に沿って初級文法の解説を行ない、同時に基本的な文型の発話訓練も実施します。それが済んだら、辞書を用いて教科書の練習問題を解いてもらいます。皆さんの解答を確認した後、必要と思われる部分に関して、再度解説を施します。授業の展開の仕方は、前期の「フランス語基礎Ⅰ」と同じ要領です。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週基本となる動詞：高頻度不規則動詞 第2週近接未来と近接過去 第3週人称代名詞 第4週人称代名詞 第5週比較の表現 第6週命令法、助動詞的動詞 第7週非人称構文 第8週様々な否定表現 第10週基本となる動詞：代名動詞 第11週未来の表現 第12週過去の表現：複合過去 第13週過去の表現：半過去 第14週条件法 第15週接続法		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書：『使って覚える実用フランス語』稲垣文雄著朝日出版社 辞書、参考書については、初回の授業の時に紹介します。		
成績評価の方法 / Evaluation	学期末の筆記試験を80%、平素の授業における学習達成度(小テスト、その他)を20%として採点します。		
学習上の助言 / Learning Advice	この授業は、前期の「フランス語基礎Ⅰ」をそのまま引き継ぎますので、この二つの授業を連続して履修して下さい。前期の「フランス語基礎Ⅰ」に比べて授業進捗がかなり速くなり、扱う文法も深化していきますので、家庭学習の時間を増やすことが必須になります。実際、ハードな授業ですが、1年間の学習を終えた時点では「なるほど、フランス語の文法ってこうなっているのか」と実感できる筈です。せっきくフランス語検定準拠の教材を使用していますので、力試しに11月実施の秋季フランス語検定受験をお勧めします。(本授業の単位取得に当たって、この検定の受験義務はありません。なお、関連科目の「フランス語基礎Ⅳ」をできるだけ同時に履修して下さい。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス語基礎Ⅱ/Basic French Ⅱ		
担当教員(所属)/Instructor	守永 直幹(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G720296
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 5, 火/Tue 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	守永 直幹(講義終了後対応します。)		
授業の内容/Course Description	現代人は英語は当然のこと、ぜひとも第2外国語を学ばねばなりません。世界は流動化しつつありますが、それを引き起こしているのは欧米中心の価値観の変動です。フランス語を学び、ヨーロッパについて知らないことと今後の世界の動きに付いて行けません。アジアやアフリカで国際活動に携わろうとする者にもフランス語は必須です。この授業では、初めてフランス語に接する者を対象として、フランス語の文法の基礎を中心に学習します。		
授業の達成目標/Course Goals	1年間でフランス語文法の基礎をひと通り眺めます。まず発音を正確にできるようになることが肝心です。次に重要なのが動詞の活用です。基礎的な動詞にかんしては何度となく反復練習と小テストをくりかえし徹底的に身につけてもらいます。これらの基礎を元に、より複雑な文法学習に取り組めます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、宇都宮大学基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	高校生程度の英語力があれば結構です。基礎Ⅰ(前期)・Ⅱ(後期)と分かれています。実際には通年の授業です。間違えないように。また基礎Ⅰ・Ⅱは文法中心の授業ですが、基礎Ⅲ・Ⅳは応用トレーニングで、できるだけ双方を合わせて受講するのが望ましい。		
関連科目/Related Courses	高校生程度の英語力があれば結構です。基礎Ⅰ(前期)・Ⅱ(後期)と分かれています。実際には通年の授業です。間違えないように。また基礎Ⅰ・Ⅱは文法中心の授業ですが、基礎Ⅲ・Ⅳは応用トレーニングで、できるだけ双方を合わせて受講するのが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	フランスのポップスを聴く機会を設けたいと思っています。セリーヌ・ディオンや、パトリシア・カースといった歌手の名曲を用意しています。また時にフランス映画を紹介することもあるでしょう。むしろ授業は文法知識の習得と、そのためのトレーニングが中心ですが、教科書にこだわらず、広くフランス文化にたいするイメージを養っていただこうと思っています。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週前期の復習 第2週疑問形容詞、命令法、 第3週非人称構文、受動態 第4週人称代名詞 第5週代名動詞 第6週単純未来 第7週比較・最上級 第8週複合過去 第9週半過去 第10週これまでの復習 第11週関係代名詞 第12週中性代名詞 第13週現在分詞・ジェロンディフ 第14週条件法 第15週接続法 第16週後期テスト		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は『オ・パ・カマラッド!??足並みそろえて、フランス語』(駿河台出版社)を用います。フランスのポップスを聴きながら初級文法を学ぶ教材です。補助教材を適時、授業中に配付します。		
成績評価の方法/Evaluation	学期末の筆記試験を80%、平素の授業における学習達成度(小テスト、その他)を20%として採点します。		

<p>学習上の助言／Learning Advice</p>	<p>1年間でフランス語文法をマスターするのは相当に難事です。こちらとしては学生の諸君に不当な要求をするつもりはありません。反復練習をくりかえしつつ、徐々にフランス語に慣れてもらい、いずれそれを有用な道具として使いこなせるようになってもらうことがこの授業の目標です。</p> <p>1年間の学習を終えた時点では「なるほど、フランス語の文法ってこうなっているのか」と実感できる筈です。</p> <p>せっかくフランス語検定準拠の教材を使用していますので、力試しに11月実施の秋季フランス語検定受験をお勧めします。（本授業の単位取得に当たって、この検定の受験義務はありません。</p> <p>なお、関連科目の「フランス語基礎Ⅳ」をできるだけ同時に履修して下さい。</p>
<p>キーワード／Keywords</p>	
<p>備考／Notes</p>	

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス語基礎Ⅲ/Basic French III		
担当教員(所属)/Instructor	大野 斉子(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G720315
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	大野 斉子(tokiko@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	大野 斉子(月曜日 12:00-12:40 (メールにて要予約))		
授業の内容/Course Description	フランス語を初めて学ぶ人を対象に、基本的なフランス語の会話表現を学びます。またそのために必要なフランス語文法の学習を並行して進めます。		
授業の達成目標/Course Goals	挨拶、自己紹介や数量の表現など、日常の様々なシチュエーションに応じた表現を習得します。発音練習や聞き取りを通じフランス語の表現に親しみ、フランス語の基礎文法の習得を目指します。また、専門課程をより深く学ぶための語学力・表現力を磨きます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育(国際学部)の達成目標、「読む」・「書く」・「話す」・「聴く」の基礎的能力を養うとともに、当該国(フランス)・地域の社会・文化に対する関心を喚起し、その基礎的理解を涵養すること」に相当します。		
前提とする知識/Prerequisites	英語・その他のヨーロッパ諸語の学習経験があることが望ましいです。		
関連科目/Related Courses	基盤教育で開講される他のフランス語科目をできるだけ一緒に履修してください。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	教科書と音声教材を使って進めます。 文法事項やスキットの解説の後、会話練習を行います。 受講者は毎回、必ず予習をしてきてください。 授業の最初に小テストを行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週ガイダンスアルファベと発音 第2-3週自己紹介をする?treの直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数 第4-5週知っているもの、存在するものを言う不定冠詞、定冠詞、Avoirの直説法現在形 第6-7週人物を形容する、家族について話す第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞 第8-9週予定を聞く・言う第二群規則動詞の活用、不規則動詞(faireとprendre)の活用、部分冠詞、疑問文の作り方 第10-11週最近のことを話す、目的地・出身地を言うAllerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去 第12-13週希望を聞く・言う、天気や時刻を聞く・言うPouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文 第14-15週一日の予定を立てる人称代名詞(直接目的・間接目的・強勢形)		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: ミシェル・サガズ、福田美雪、中里まき子『デビュー! フランス語初級』朝日出版社、2300円 辞書: 『クラウン仏和辞典』(三省堂)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『デュコ仏和辞典』(白水社)		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験70パーセント、小テスト30パーセント		
学習上の助言/Learning Advice	外国語に親しむ一番の近道は辞書を引くことです。動詞の活用を覚えるのも大事ですが、辞書を引いて、まずはフランス語の豊かな世界を楽しみましょう。教科書で疑問点にぶつかったらまず辞書を引く習慣を身につけましょう。		
キーワード/Keywords	フランス語、基礎		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス語基礎Ⅳ/Basic French Ⅳ		
担当教員(所属)/Instructor	大野 斉子(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G720335
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	大野 斉子(tokiko@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	大野 斉子(月曜日 12:00-12:40 (メールにて要予約))		
授業の内容/Course Description	フランス語を初めて学ぶ人を対象に、基本的なフランス語の会話表現を学びます。またそのために必要なフランス語文法の学習を並行して進めます。		
授業の達成目標/Course Goals	挨拶、自己紹介や数量の表現など、日常の様々なシチュエーションに応じた表現を習得します。 発音練習や聞き取りを通じフランス語の表現に親しむこと、またそれに対応したフランス語の基礎文法の習得を目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育(国際学部)の達成目標、「読む」・「書く」・「話す」・「聴く」の基礎的能力を養うとともに、当該国(フランス)・地域の社会・文化に対する関心を喚起し、その基礎的理解を涵養すること」に相当します。		
前提とする知識/Prerequisites	英語・その他のヨーロッパ諸語の学習経験があることが望ましいです。		
関連科目/Related Courses	基盤教育で開講される他のフランス語科目をできるだけ一緒に履修してください。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	教科書と音声教材を使って進めます。 文法事項やスキットの解説の後、会話練習を行います。 受講者は毎回、必ず予習をしてきてください。 授業の最初に小テストを行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週前期の復習まとめ1 第2週人を誘う、強く勧める非人称構文 第3週人を誘う、強く勧める命令法 第4週日常の行動を言う代名動詞 第5週日常の行動を言う関係代名詞 第6週過去のことを話す(1)過去形 第7週過去のことを話す(1)複合過去 第8週過去のことを話す(2)半過去 第9週過去のことを話す(2)受動態 第10週経験や希望を聞く中性代名詞 第11週経験や希望を聞く比較級、最上級 第12週経験や希望を聞く比較級、最上級 第13週未来のことを話す現在分詞 第14週まとめ2語彙のまとめ、時の表現 第15週後期の復習		
教科書・参考書等/Textbooks	ミシェル・サガズ、福田美雪、中里まき子著 『D?but!』(朝日出版社)		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験70パーセント、小テスト30パーセント		
学習上の助言/Learning Advice	語学はその言葉が好きであればあるほど上達します。フランスやフランス語に興味を持って、楽しく取り組みましょう。		
キーワード/Keywords	フランス語、基礎		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス語応用Ⅰ / Intermediate French Ⅰ		
担当教員(所属) / Instructor	田口 卓臣(国際学部)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G720953
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 火 /Tue 1, 火 / Tue 2	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	田口 卓臣(taguchi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	田口 卓臣(火曜日12:00~12:50)		
授業の内容 / Course Description	この授業は、フランス語の基礎知識を持つ者を対象とします。講義は原則としてフランス語で行います。教科書などの会話シーンをもとに、日常的な場面におけるフランス語の基本的な表現を学びます。会話のまね、聞き取り、自己紹介など、履修者の積極的な参加を求める授業です。		
授業の達成目標 / Course Goals	フランス語の基礎的な文法を確認しながら、フランス語による意思表示のための基礎的な力を習得します。フランス語講読との同時履修によって、1年を通して、フランス語検定試験3級に合格できるだけの実力を身につけてもらいます。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	この授業は、宇都宮大学基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。また、専門導入科目としては、国際学部の教育目標(C)の特に「上記の事柄に必要な外国語(…)」に習熟する」に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを修了していること。また、できるだけフランス語講読を同時に履修すること。国際学部専門科目「フランス語会話」(集中講義)の履修を予定している者は、必ずこの授業を履修したうえで夏休み前に特別指導を受けること。		
関連科目 / Related Courses	フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、フランス語会話		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	①フランス語で講義する(受講者が理解できているかどうか、そのつど確認する)②CDを聴いて、会話の流れをつかみます。③CDにしたがって発音をまねてみます。④文法事項を確認し、辞書を引きながら練習問題を解きます。⑤教科書を参考にしながら自分独自の会話文をつくってみます。⑥3~4回に1回の割合でフランスのシャンソンを鑑賞し、そのなかの会話の聞き取りの練習を行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	1. 授業についての説明。 2. 1課: 数字 3. 1課: 名詞の性と数 4. 2課: 挨拶 5. 2課: 自己紹介 6. シャンソンの聞き取り① 7. 3課: 国籍 8. 3課: 年齢、住所 9. 4課: 職業 10. 4課: 疑問文 11. シャンソンの聞き取り② 12. 5課: 好き嫌い 13. 5課: 代名動詞 14. 6課: 食べ物、飲み物 15. シャンソンの聞き取り③		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書: ベルトラン・ソゼド、細貝健司『ヴォカル コミュニケーションのためのフランス語』アシェット・ジャポン/フウヴェール出版、1800円。辞書: 『クラウン仏和辞典』(三省堂)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『ディコ仏和辞典』(白水社) 参考書: 『仏検公式問題集3級』(フランス語教育振興協会)		
成績評価の方法 / Evaluation	期末試験(70%)、小テスト(20%)、受講態度(10%)		
学習上の助言 / Learning Advice	フランス語での講義は、最初はついてくるのが辛いかもしれませんが、みなさんが理解できているかどうかをそのつどチェックしながら進めていくので安心してください。		
キーワード / Keywords	フランス語、日常会話、基礎文法		
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	フランス語応用Ⅱ / Intermediate French Ⅱ		
担当教員(所属) / Instructor	田口 卓臣(国際学部)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G721755
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 / Tue 1, 火 / Tue 2	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	田口 卓臣(taguchi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	田口 卓臣(火曜日12:00~12:50)		
授業の内容 / Course Description	フランス語応用Ⅰの修了者を対象とする授業です。前期にひきつづき、講義は原則としてフランス語で行います。教科書や映画などの会話のシーンをもとに、日常的な場面におけるフランス語の基本的な表現を学びます。会話のまね、聞き取り、自己紹介など、履修者の積極的な参加を求める授業です。		
授業の達成目標 / Course Goals	前期にひきつづき、フランス語の基礎的な文法を確認しながら、フランス語による意思表示のための基礎的な力を習得します。フランス語講読との同時履修によって、後期の終了時点で、フランス語検定試験3級に合格できるだけの実力を身につけてもらいます。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	この授業は、宇都宮大学基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。また、専門導入科目としては、国際学部の教育目標(C)の特に「上記の事柄に必要な外国語(…)」に習熟する」に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	前期にフランス語応用Ⅰを修了していること。また、できるだけフランス語講読を同時に履修すること。		
関連科目 / Related Courses	フランス語基礎Ⅰ, Ⅱ, Ⅲ, Ⅳ。フランス語会話		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	①フランス語で講義する(受講者が理解できているかどうか、そのつど確認する)②CDを聴いて、会話の流れをつかみます。③CDにしたがって発音をまねてみます。④文法事項を確認し、辞書を引きながら練習問題を解きます。⑤教科書を参考にしながら自分独自の会話文をつくってみます。⑥4~5回に1回の割合でフランス映画を鑑賞し、そのなかの会話の聞き取りの練習を行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	1. 前期のテストの返却と解説。前期の内容の復習。 2. 6課:理由 3. 7課:時間、食事 4. 8課:ものの位置 5. 9課:家族の紹介 6. 映画の会話の聞き取り①(「パリ空港の人々」) 7. 9課:数字(100まで) 8. 10課:過去 9. 11課:服装、色、体の部位 10. 12課: 11. 映画の会話の聞き取り②(「髪結いの亭主」) 12. 13課:余暇、数字100から1000まで 13. 14課:スケジュール、授業 14. 15課:道を尋ねる、教える 15. 全体の総括		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書:ベルトラン・ソゼド、細貝健司『ヴォカル コミュニケーションのためのフランス語』アシェット・ジャポン/フウヴェール出版、1800円。辞書:『クラウン仏和辞典』(三省堂)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『ディコ仏和辞典』(白水社)。参考書:『仏検公式問題集3級』(フランス語教育振興協会)		
成績評価の方法 / Evaluation	期末試験(70%)、小テスト(20%)、受講態度(10%)		
学習上の助言 / Learning Advice	フランス語での講義は、ついてくるのが辛いかもしれませんが。みなさんが理解できているかどうかをそのつどチェックしながら進めていくので安心してください。		
キーワード / Keywords	フランス語、日常会話、基礎文法		
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	スペイン語基礎Ⅰ / Basic Spanish Ⅰ		
担当教員(所属) / Instructor	飯田 敏彦(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G727212
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 火 /Tue 5, 火 / Tue 6	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	飯田 敏彦(toiida2222@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	飯田 敏彦(授業の前後にコンタクトをとること)		
授業の内容 / Course Description	動詞の使い方など、基本的な文法事項の説明が中心になりますが、毎回の授業内容と関連した会話文も読み解きます。さらには、テキストにある練習問題をやりながら、文法に関する理解を深めます。		
授業の達成目標 / Course Goals	スペイン語の基礎文法の習得を通じて、やさしいスペイン語の発話能力を養うことを目的に授業を進めます。英語に比べれば複雑に見える動詞活用を学び、その用法を習得することが中心課題となります。さらには、文章の中で使われる名詞、形容詞、副詞など各種の単語について、それぞれの正しい使い方と正しい発音の仕方を学びます。動詞を文章の中心に据えて、その前後に色々な単語を配置し良い文章を組み立てられるようにしますので、地道に語彙力をつけていく必要があります。スペイン語の辞書の使い方にも慣れてもらいたいと思います。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	本授業は基礎科目ですから、すべての学部・学科の学生が履修できます。初めてスペイン語を履修する方、これまでスペイン語を学んだ経験のない方は、まず当科目を履修してください。		
前提とする知識 / Prerequisites	英語と同じヨーロッパの言語ですから、スペイン語を学ぶためには、英語の知識が役に立ちます。英語の文法用語が全くわからないというのでは困りますが、英語があまり得意ではないという人でも、スペイン語圏の文化に興味・関心があれば、そんな「障害」はないに等しいでしょう。「情熱」こそが成功の鍵です。		
関連科目 / Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	教室ではテキストの録音テープやCDを再生して動詞の活用、例文、練習問題の発音を聞き、かつ音読します。文法事項の説明を行いながら、テキストの例文を読み、各文章の文法的な成り立ちや意味を確認します。受講生には、単語や文章の意味を調べてもらったり、主語を替えて文章を変換してもらったりします。各レッスンの最後には、テキストにある聞き取り(穴埋め)・和訳の問題を解きながら、文法の理解を確かなものにします。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. スペイン語とスペイン語の国々、授業の説明、アルファベットと発音、発音に注意すべきつづり、 2. 単語のアクセントの位置、名詞の性別、名詞の単数形と複数形、あいさつの言葉 3. 冠詞(不定冠詞と定冠詞)、疑問詞を含む疑問文 4. 主格人称代名詞、動詞 serの直説法現在の活用とその用法、国籍の名詞と職業名 5. 形容詞の位置と語尾変化、動詞estarの活用とその用法、ser, estar+形容詞 6. 動詞haberの存在文(hay+名詞)、基数詞(1~15) 7. 指示形容詞と指示代名詞、所有形容詞(弱勢形と強勢形) 8. 直説法現在の規則活用動詞(-ar動詞)、a+人(直接目的語)、基数詞(16~31) 9. 直説法現在の規則活用動詞(-er動詞と-ir動詞)、a+人(間接目的語)、時刻・日付・曜日 10. 直説法現在の不規則活用動詞〔その1〕 → 1人称単数形だけが不規則な動詞、目的格人称代名詞 11. 直説法現在の不規則活用動詞〔その2〕: 語根母音変化動詞 pensar, querer, volver, pedirなど、 12. 疑問詞を用いた疑問文、語根母音変化動詞の活用練習、主な動詞の用法の確認 13. 直説法現在の不規則活用動詞〔その3〕: tener, venir, decir, ir, oír → その活用と基本的な用法 14. gustar型動詞の用法、前置詞格人称代名詞、 15. 主な前置詞〔その1〕、主な不規則活用動詞の活用と用法の復習 		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書: 坂東省次・中川節子『スペイン語のABC』第三書房(定価2,000円+税)をテキストとして使用します。生協書籍部で購入してください。スペイン語の辞書: 『プログレッシブ・スペイン語辞典』小学館(定価3,500円)、あるいは『現代スペイン語辞典』白水社(定価4,200円)があれば、本科目の勉強レベルで困ることはありません。長く使える辞書としては、『クラウン西和辞典』三省堂(定価4,700円)、『プエルタ新スペイン語辞典』研究社(定価4,700円)、『西和中辞典(第2版)』小学館(定価6,930円)などをあげることができます。電子辞書に収められている辞書は、ほとんどが前掲の白水社のものです。参考書については、必要に応じて教室で指示します。		
成績評価の方法 / Evaluation	最後の授業日に行う期末試験(50%)、2回の小テスト(50%)の結果に基づいて評価します。欠席回数が授業回数の3分の1を超えるようだと、十分な語学力を身につけることは望めませんし、成績にも影響が出ますので、きちんと出席してください。評価方法の詳細は、初回授業の際に説明します。		
学習上の助言 / Learning Advice	予習・復習を日々心がけ、ただ「覚えた」というのではなく、「親しみ」運用力をつけることが大切です。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	スペイン語基礎Ⅱ / Basic Spanish II		
担当教員(所属) / Instructor	飯田 敏彦(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G727215
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 / Tue 5, 火 / Tue 6	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	飯田 敏彦(toiida2222@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	飯田 敏彦(授業の前後にコンタクトをとること)		
授業の内容 / Course Description	動詞の使い方など、基本的な文法事項の説明が中心になりますが、毎回の授業内容と関連した会話文も読み解きます。さらには、テキストにある練習問題をやりながら、文法に関する理解を深めます。		
授業の達成目標 / Course Goals	スペイン語の基礎文法の習得を通じて、やさしいスペイン語の発話能力を養うことを目的に授業を進めます。英語に比べれば複雑に見える動詞活用を学び、その用法を習得することが中心課題となります。さらには、文章の中で使われる名詞、形容詞、副詞など各種の単語について、それぞれの正しい使い方と正しい発音の仕方を学びます。動詞を文章の中心に据えて、その前後に色々な単語を配置し良い文章を組み立てられるようにしますので、地道に語彙力をつけていく必要があります。スペイン語の辞書の使い方にも慣れてもらいたいと思います。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	当科目を履修できるのは、これまで初級スペイン語を学んだ経験がある方、あるいは本学で前期開講のスペイン語基礎科目の単位を取得した方に限られます。スペイン語技能検定試験などの資格試験に合格している方は、担当者に相談してください。		
前提とする知識 / Prerequisites	英語と同じヨーロッパの言語ですから、スペイン語を学ぶためには、英語の知識が役に立ちます。英語の文法用語が全くわからないというのでは困りますが、英語があまり得意ではないという人でも、スペイン語圏の文化に興味・関心があれば、そんな「障害」はないに等しいでしょう。「情熱」こそが成功の鍵です。		
関連科目 / Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	教室ではテキストの録音テープやCDを再生して動詞の活用、例文、練習問題の発音を聞き、かつ音読します。文法事項の説明を行いながら、テキストの例文を読み、各文章の文法的な成り立ちや意味を確認します。受講生には、単語や文章の意味を調べてもらったり、主語を替えて文章を変換してもらったりします。各レッスンの最後には、テキストにある聞き取り(穴埋め)・和訳の問題を解きながら、文法の理解を確かなものにします。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. gustar型動詞の用法、前置詞格人称代名詞、主な前置詞【その1】の練習 2. 再帰動詞【その1】 → その活用と用法(直接再帰)、levantarse, sentarseなど 3. 再帰動詞【その1】 → その活用と用法(間接再帰と相互再帰) lavarse, limpiarse, quererseなど、 4. 再帰動詞【その2】 → その活用と用法(強意・転意、本来の再帰) irseなど、 5. 再帰動詞の活用練習、主な前置詞【その2】 6. 無人称文 → 天候の表現、時間の経過など、不定語と否定語 7. 過去分詞、直説法現在完了の活用と用法 8. 受身文(ser+過去分詞、se+3人称)、序数、 9. 動詞の活用: 直説法点過去【その1】 → 規則活用、点過去の用法、過去時制を表わす副詞と語句 10. 動詞の活用: 直説法点過去【その2】 → 不規則活用、規則活用の練習 11. 点過去不規則活用の練習、直説法線過去の活用と用法、接続詞 12. 点過去と線過去を使い分ける → 表現方法の違いの確認と表現練習 13. tú, vosotros, usted, ustedesに対する肯定命令 → 接続法現在の活用 14. 動詞の活用: 直説法未来の活用と用法 15. 動詞の活用: 直説法過去未来の活用と用法 		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書: 坂東省次・中川節子『スペイン語のABC』第三書房(定価2,000円+税)をテキストとして使用します。生協書籍部で購入してください。スペイン語の辞書: 『プログレッシブ・スペイン語辞典』小学館(定価3,500円)、あるいは『現代スペイン語辞典』白水社(定価4,200円)があれば、通常の大学時代の勉強レベルで困ることはありません。長く使える辞書としては、『クラウン西和辞典』三省堂(定価4,700円)、『プエルタ新スペイン語辞典』研究社(定価4,700円)、『西和中辞典(第2版)』小学館(定価6,930円)などをあげることができます。電子辞書に収められている辞書は、ほとんどが前掲の白水社のものです。参考書については、必要に応じて教室で指示します。		
成績評価の方法 / Evaluation	最後の授業日に行う期末試験(50%)、2回の小テスト(50%)の結果に基づいて評価します。欠席回数が授業回数の3分の1を超えるようだと、十分な語学力を身につけることは望めませんし、成績にも影響が出ますので、きちんと出席してください。評価方法の詳細は、初回授業の際に説明します。なお、学習目標の達成度によって秀(90%以上)、優(80%以上90%未満)、良(70%以上80%未満)、可(60%以上70%未満)、不可(60%未満)という5段階の成績評価がつきます。この評価が		

学習上の助言／Learning Advice	スペイン語とスペイン語諸国の文化に関心のある方々、スペイン語の学習を通じて、新しい自分を発見したいと思う方々を歓迎します。スペイン語は、これを公用語とする国が多いため国際交渉・交流の舞台で広く使われ、また音楽などの文化活動、観光、ビジネスの各分野でも重要度を増しつつあります。スペイン語は発音などの面で日本人には取りつきやすい、美しい言葉ですが、複雑な動詞の活用があったり、文章構造のなかに日本人にとって理解しにくいものがあったりして、理解し覚えるために時間と集中力を要することも多いのです。それだけに、欠席・遅刻しがちで教室ではノートをとらないという消極的な態度では、すぐに授業がわからなくなります。新しい外国語を習得するためには、日々の地道な勉強こそが大事ですから、家でも音読しながら勉強してください。また、教室では恥ずかしがらず、大きな声で発音してください。予習・復習を日々心がけ、ただ「覚えた」というのではなく、「親しみ」運用力をつけることが大切です。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	スペイン語基礎Ⅲ/Basic Spanish III		
担当教員(所属)/Instructor	飯田 敏彦(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G728292
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	飯田 敏彦(toiida2222@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	飯田 敏彦(授業の前後にコンタクトをとること)		
授業の内容/Course Description	テキストの各レッスンには7~8行程度の短い会話文があります。まず主な会話表現について、それぞれの意味と使い方を確認します。必要に応じて文法的な解説を行ったのち、会話文に関する応用問題、動詞活用の練習問題などを解いていきます。反復練習が必要な場合には、プリントを使って補足練習したり、受講生どうしが向き合って会話練習したりします。		
授業の達成目標/Course Goals	やさしいスペイン語の発話能力と語彙力を養うことを目的に授業を進めます。最大の目標は、基本動詞を正確に活用させて使えるようにすることです。これに加えて、本授業では語彙力を養うことも重要な課題になります。会話のテーマに沿った語彙の用意がないと、ごかつたんな会話でさえ成り立ちませんので、単語レベル、あるいは語句レベルでの準備をしつかりと行った上で、平易な文章を正確に作る練習を行います。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	国際学部的一年生でスペイン語を選択する方は、当科目に並行してスペイン語基礎Ⅰを今学期に履修してください。他の学部の学生で、初めてスペイン語を履修する方は、まずスペイン語基礎Ⅰを履修するか、この基礎Ⅰと当科目を同時に履修してください。図書館にある文法解説書を手取るなどして基礎文法を確認し、各レッスンを予習する意欲のある人ならば、参加していただけます。学習意欲のある人で、本科目だけ履修したいという方は、授業担当者に相談してみてください。		
前提とする知識/Prerequisites	英語と同じヨーロッパの言語ですから、スペイン語を学ぶためには、英語の知識やヨーロッパ諸国の文化に関する知識が役立ちます。スペイン語の学習経験、あるいはスペイン語圏への留学・滞在経験のある方、検定試験などの資格を取得済みの方は、担当者にその旨を伝えてください。		
関連科目/Related Courses	英語と同じヨーロッパの言語ですから、スペイン語を学ぶためには、英語の知識やヨーロッパ諸国の文化に関する知識が役立ちます。スペイン語の学習経験、あるいはスペイン語圏への留学・滞在経験のある方、検定試験などの資格を取得済みの方は、担当者にその旨を伝えてください。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	教室ではテキストの録音テープを再生して会話文や例文、練習問題の解答例などの発音を聞き、発音練習します。続けて、会話表現、単語・語句について意味と用法の確認を行います。この際に、必要に応じてかつたんな文法説明を加えます。さらには、テキストにある会話の応用問題、各種の練習問題を通じて、理解度の確認を行い、文章作成の力を養うとともに知識の定着に努めます。プリントを使って補足的な練習をしたり、受講生どうしが向き合って会話練習を繰り返したりすることもあります。最後には、授業担当者からの質問に口頭で答えるか、まとめの問題に答えて提出してもらいます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の説明、アルファベットと発音、色々な単語を読む、単語を聞き取る、単語のつづりを言う 2. アクセントの位置、あいさつの言葉、人を紹介する、疑問符と感嘆符、 3. 動詞serを用いて、国籍・職業を説明する、動詞 llamarse を使って名前をたずねる 4. 動詞vivir を使って、どこに住んでいるのかをたずねる、復習の練習問題 5. 動詞hay を用いて、「モノがある、ヒトがいる」と表現、所有を表わす動詞 tener (持つ) 6. ser de を用いて、出身地をたずね、出身地を説明する、動詞 estar を使って、どこにいるのかをたずねる 7. 曜日や時刻をたずね、曜日や時刻を言う、復習の練習問題 8. hay とestar の使い分け、名詞とともに形容詞を使う、モノの色をたずねる 9. モノやヒトの性質や状態を説明する → 形容詞をserとestar の補語として使う、復習の練習問題 10. 規則活用動詞の desayunar, comer, escribirなどを活用させて使う、「いっしょに食事しようか?」など 11. 一人で住んでいます、近くに住んでいます、友達に手紙を書く、復習の練習問題 12. 動詞 tener の基本的な用法 → 授業がある、兄弟がいる、~しなければならぬ 13. 君の電話番号は? 100までの数詞、疑問詞 cuál、年齢をたずねる 14. 誕生日はいつですか? → 曜日、日付の表現 → 色々な動詞と組み合わせて使う 15. 復習の練習問題 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: 木村琢也・泉水浩隆・高澤美由紀著『コンティーンゴ! 1』第三書房(定価2,300円+税)をテキストとして使用します。生協書籍部で購入してください。スペイン語の辞書: 辞書は必携です。長く使える辞書として、『クラウン西和辞典』三省堂(定価4,700円)、『プエルタ新スペイン語辞典』研究社(定価4,700円)、『西和辞典(第2版)』小学館(定価6,930円)を推奨します。その他、『プログレッシブ・スペイン語辞典』小学館(定価3,500円)、あるいは『現代スペイン語辞典』白水社(定価4,200円)は使いやすい、本科目の勉強レベルでは十分な内容を持っています。しかし、応用科目や講読の授業のレベルでは、「役不足」は否めません。電子辞書に収められている辞書は、ほとんどが前掲の白水社のもので、参考書については、必要に応じて教室で指示します。		

成績評価の方法／Evaluation	2回の小テスト（50％）および期末試験（50％）の結果に基づいて評価します。欠席回数が授業回数の3分の1を超えると、評価のマイナス要因となるので、きちんと出席してください。詳細は、初回授業の際に説明します。
学習上の助言／Learning Advice	教室では、恥ずかしがらずに大きな声で発音し、積極的に授業に参加してください。この授業では、簡単な文型でいいですから、スペインで表現する力をつけることが目標になります。基本的な知識は、確実に自分のものにしていく姿勢が求められます。辞書の助けを借りながら、文章の意味を確認するとともに、各種の練習を教室で楽しめるならば、長足の進歩は間違いなしです。高いレベルを目指すためには、予習・復習が欠かせません。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	スペイン語基礎Ⅳ/Basic Spanish IV		
担当教員(所属)/Instructor	飯田 敏彦(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G729292
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	飯田 敏彦(toiida2222@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	飯田 敏彦(授業の前後にコンタクトをとること)		
授業の内容/Course Description	テキストの各レッスンには7~8行程度の短い会話文があります。まず主な会話表現について、それぞれの意味と使い方を確認します。必要に応じて文法的な解説を行ったのち、会話文に関する応用問題、動詞活用の練習問題などを解いていきます。発音練習・反復練習が必要な場合には、受講生どうしが向き合って会話練習を行います。		
授業の達成目標/Course Goals	やさしいスペイン語の発音能力と語彙力を養うことを目的に授業を進めます。最大の目標は、基本動詞を正確に活用させて使えるようにすることです。これに加えて、本授業では語彙力を養うことも重要な課題になります。会話のテーマに沿った語彙の用意がないと、ごくかんたんな会話でさえ成り立ちませんので、単語レベル、あるいは語句レベルでの準備をしっかりと行った上で、平易な文章を正確に作る練習を行います。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	当科目を履修できるのは、これまで初級スペイン語を学んだ経験がある方、あるいは本学で前期開講のスペイン語基礎科目の単位を取得した方に限られます。スペイン語技能検定試験などの資格試験に合格している方は、担当者に相談してください。		
前提とする知識/Prerequisites	英語文法の知識に加えて、初歩的なスペイン語文法の知識が必要になります。スペイン語の辞書は必携です。		
関連科目/Related Courses	英語文法の知識に加えて、初歩的なスペイン語文法の知識が必要になります。スペイン語の辞書は必携です。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	教室ではテキストの録音テープを再生して会話文や例文、練習問題の解答例などの発音を聞き、発音練習します。続けて、会話表現、単語・語句について意味と用法の確認を行います。この際に、必要に応じてかんたんな文法説明を加えます。さらには、テキストにある会話の応用問題、各種の練習問題を通じて、理解度の確認を行い、知識の定着に努めます。プリントを使って補足的な練習をしたり、受講生どうしが向き合って会話練習を繰り返したりすることもあります。最後には、授業担当者からの質問に口頭で答えるか、まとめの問題に答えて提出してもらいます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の説明、レストランでの会話、直接目的格人称代名詞とともに動詞 esperar と llevar を使う 2. レストランで料理を注文する、3人称の直接目的格人称代名詞、動詞 invitar 3. 語根母音変化動詞 querer を用いて、レストランで飲み物を注文する、querer + 不定詞、動詞 pedir 4. 動詞 pagar、poder を使って飲食代金を支払う、動詞 jugar の用法、復習の練習問題 5. 動詞 ir(行く)と venir(来る)を使った表現、意味がよく似た動詞 saber と conocer を使い分ける 6. 間接目的格人称代名詞とともに動詞 dar を使う → 「あげます」と「もらえますか?」 7. 動詞 regalar、前置詞格人称代名詞、復習の練習問題 8. 趣味や好みをたずねる → gustar, encantar, interesar, doler の用法 9. 2種類の人称代名詞を同時に使って表現する、動詞 hacer の3人称単数形を使った天候の表現 10. 「半年前からスペイン語を勉強しています」→ 時間の経過を表す hace、復習の練習問題 11. 動詞 salir、poner、traer、今日の午後・明日の朝・毎朝などの表現を使う 12. 動詞 decir(言う)、oír(聞く)、ver(見る)の用法 → 「よく聞こえませんか」 13. 無人称の hay que → 「～しなければならない」、tener que+不定詞、deber + 不定詞 14. 再帰動詞 levantarse、acostarse の活用と用法 15. 復習の練習問題、再帰動詞 lavarse、ponerse を使う 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書： 木村琢也・泉水浩隆・高澤美由紀著『コンティエーゴ!1』第三書房(定価2,300円+税)をテキストとして使用します。生協書籍部で購入してください。スペイン語の辞書： 辞書は必携です。長く使える辞書として、『クラウン西和辞典』三省堂(定価4,700円)、『ペルタ新スペイン語辞典』研究社(定価4,700円)、『西和中辞典(第2版)』小学館(定価6,930円)を推奨します。この他、『プログレッシブ・スペイン語辞典』小学館(定価3,500円)、あるいは『現代スペイン語辞典』白水社(定価4,200円)は使いやすく、本科目の勉強レベルでは十分な内容を持っています。しかし、応用科目や講読の授業のレベルでは、「役不足」は否めません。電子辞書に収められている辞書は、ほとんどが前掲の白水社のものです。参考書については、必要に応じて教室で指示します。		
成績評価の方法/Evaluation	2回の小テスト(50%)および期末試験(50%)の結果に基づいて評価します。欠席回数が授業回数の3分の1を超えると、評価のマイナス要因となるので、きちんと出席してください。詳細は、初回授業の際に説明します。		
学習上の助言/Learning Advice	スペイン語入門1に続いて、スペイン語の表現練習をしましょう。教室では失敗を恐れずに大きな声で発音し、積極的に授業に参加するようにしてください。動詞だけのリストの作成、名詞、形容詞などの単語帳の作成をお勧めします。		
キーワード/Keywords			

授業科目名(英文名) /Course Title	スペイン語応用Ⅰ/Intermediate Spanish Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	スエヨシ アナ(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G729333
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	スエヨシ アナ(sueyoshi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	スエヨシ アナ(金曜日 8:50~10:20 メールや電話で予め連絡すれば、随時受け付けます。)		
授業の内容/Course Description	スペイン語圏への留学、旅行、就職など、日常生活の場面に応じた簡単に短い実用的な文章を読み、日常的な会話ができるように練習します。		
授業の達成目標/Course Goals	スペイン語応用Ⅰとスペイン語Ⅱを1年間受講することにより、毎年春、秋に行われるスペイン語検定試験の入門レベル(6~4級)か外国語としてのスペイン語検定試験(A1~A2)に合格できるような実力を養成します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本演習は専門導入科目であり、スペイン語圏地域について関心がある学生、あるいはスペイン語を学習したい学生を対象とします。		
前提とする知識/Prerequisites	スペイン語基礎Ⅰ スペイン語基礎ⅠⅠ スペイン語基礎ⅠⅠⅠ スペイン語基礎ⅠⅤ		
関連科目/Related Courses	スペイン語基礎Ⅰ スペイン語基礎ⅠⅠ スペイン語基礎ⅠⅠⅠ スペイン語基礎ⅠⅤ		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業では標準スペイン語を教える予定ですが、スペイン語は20か国以上の国々で話されている言語なので、国によって言葉使いが違います。よって、できるだけスペインとラテンアメリカの国々の様々な言語の異なる点を教えることにより、ラテンアメリカにおける特定の文化や国に興味がある学生が自分の関心のある地域におけるスペイン語の知見を得られるようにします。スペイン語を楽しく学習できるように文法を勉強しながら、その文法に関連づけて、スペインとラテンアメリカ文化を紹介します。このシラバスは授業の進捗状況(学生の理解状況)によって、調節のため学期内で変更する場合があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週授業の説明、発音、アルファベット、基本的な構文、名前、国籍 第2週挨拶、自己紹介、職業、電話番号、年齢、誕生日、祝日、女性名詞と男性名詞、単数名詞と複数名詞、冠詞 第3週住まいを描写、理想的な町、男性名詞と女性名詞、Ser動詞とEstar動詞 第4週Hay動詞vsEstar動詞、好き、行き方を聞く、前置詞 第5週時間の管理、時差、何時から何時まで、約束、再起動詞 第6週レジャー、断る、言い訳、頻度、出来る動詞 第7週中間まとめ 第8週食事、食べ物、注文、好き、嫌い 第9週レストランで、不規則動詞 第10週人・家族を描写、性格・外見の形容詞 第11週誰の、意見の表現 第12週気候、天気、買い物、直接目的語 第13週プレゼントをかう、服の色、形、素材、Muy vs. Mucho 第14週季節、似合う 第15週まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書+ワークブック: Rodríguez Martín, José Ramón y Miguel Angel García Guerra 著 「META ELE A1 Libro del alumno+Cuaderno de ejercicios+CD (メタ・エレ A1 教科書・ワークブック・CD付き) Curso de español de supervivencia」 Edelsa 出版社。定価2,450円(消費税込み)宇都宮大学生協で販売。授業の進行状況によって作成したプリントを使用。フラッシュカード、CD音楽、DVD映画、和西・西和辞書を使用。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加(積極性)(10%)、演習課題(30%)と学期末試験(60%)の結果を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	楽しくスペイン語を勉強しましょう。Nos vemos en clase.		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	スペイン語応用Ⅱ / Intermediate Spanish II		
担当教員(所属) / Instructor	スエヨシ アナ(国際学部)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G729355
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 金 / Fri 5, 金 / Fri 6	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	スエヨシ アナ(sueyoshi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	スエヨシ アナ(金曜日 8:50~10:20 メールや電話で予め連絡すれば、随時受け付けます。)		
授業の内容 / Course Description	スペイン語圏への留学、旅行、就職など、日常生活の場面に応じた簡単に短い実用的な文章を読み、日常的な会話ができるように練習します。		
授業の達成目標 / Course Goals	スペイン語を楽しく学習できるように文法を勉強しながら、その文法について、スペインとラテンアメリカ文化を紹介する。毎年春、秋に行われるスペイン語技能検定試験の入門レベル(6~4級)か外国語としてのスペイン語検定試験(A1~A2)に合格できるような実力を養成します。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	本演習は国際学部の専門導入語科目であり、スペイン語圏地域について関心がある学生、あるいはスペイン語を学習したい学生を対象とします。		
前提とする知識 / Prerequisites	スペイン語応用Ⅰ履修済みの学生を対象とします。		
関連科目 / Related Courses	スペイン語応用Ⅰ履修済みの学生を対象とします。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	授業では標準スペイン語を教える予定ですが、スペイン語は20か国以上の国々で話されている言語なので、国によって言葉使いが違います。よって、できるだけスペインとラテンアメリカの国々の様々な言語の異なる点を教えることにより、ラテンアメリカにおける特定の文化や国に興味がある学生が自分の関心のある地域におけるスペイン語の知見を得られるようにします。このシラバスは授業の進捗状況(学生の理解状況)によって、調節のため学期内で変更する場合があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週授業の進め方を説明、スペイン語応用Aのまとめ 第2週予約、ホテルで、情報を聞く、不規則動詞、前置詞 第3週お土産、習慣、誰の、場所の関係副詞 第4週計画、提案、現在完了 第5週比較、交渉、近い未来 第6週健康、診察、お薦め、命令 第7週中間まとめ 第8週情報を得る、情報手段、頻度、意見を言う 第9週インターネット、点過去 第10週就職活動、手紙を書く、履歴書、menteの副詞 第11週通信手段、現在分詞、線過去 第12週電話・携帯についての語彙 第13週同時に、過去について描写、点過去・線過去 第14週現在完了・点過去・線過去のまとめ 第15週まとめ		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書+ワークブック: Rodríguez Martín, José Ramón y Miguel Angel García Guerra 著「META ELE A1 Libro del alumno+Cuaderno de ejercicios+CD(メタ・エレ A1 教科書・ワークブック・CD付き) Curso de español de supervivencia」Edelsa 出版社。定価2,450円(消費税込み)宇都宮大学生協で販売。授業の進行状況によって作成したプリントを使用。フラッシュカード、CD音楽、DVD映画、和西・西和辞書を使用。		
成績評価の方法 / Evaluation	授業への参加(積極性)(10%)、演習課題(30%)と学期末試験(60%)の結果を総合して評価する。		
学習上の助言 / Learning Advice	楽しくスペイン語を勉強しましょう。Nos vemos en clase.		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中国語基礎Ⅰ / Basic Chinese Ⅰ		
担当教員(所属) / Instructor	景 慧(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G740156
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 火 /Tue 5, 火 / Tue 6	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	景 慧(hj13415@gmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	景 慧(事前の申し込みで時間を決める。)		
授業の内容 / Course Description	初心者を対象に中国語の発音からスタートし、やさしい挨拶と日常会話、また、初歩的な文法事項などを教えます。		
授業の達成目標 / Course Goals	中国語を学ぶ第一歩としての本授業は、前期15回の学習を通して、中国語の発音が正しく出来ること、簡単な会話や最も初歩的な文法を理解し応用できること、さらに、今の中国人と中国社会全般への関心と理解を持ち、中国に関する知識と教養を有することを目標とします。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	大学に入学する以前、学んだ経験のない中国語の学習を通じ、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことについての基礎的能力を養うとともに、東アジアや中国の文化への興味を喚起し、理解を深め、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性を醸成します。また、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎づくりを行い、現代社会に必要なリテラシーを身につけさせます。		
前提とする知識 / Prerequisites	特にありません。		
関連科目 / Related Courses	特にありません。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	毎回の最初の数分間はやさしい中国語で受講者の皆さんに話しかけます。分からなくてもいいですので、とにかく中国語のシャワーを浴びてもらいます。それが終わった後、発音と単語の学習、基礎文法の説明と応用などを分かり易く教えます。指導に当たっては、受講者各自の個性と理解の度合いに気を配りながら、やさしく丹念に導きます。映像教材も使いますし、中国映画の鑑賞も一回程度予定を組みます。テキストにそって進めますが、状況次第で変更することがあります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第一回中国と中国語について 第二回中国語の発音：声調と単母音 第三回中国語の発音：複合母音 第四回中国語の発音：子音 第五回発音の総合復習と挨拶用語の学習 第六回指示詞と「是」 第七回「是」の実践応用(会話形式) 第八回形容詞述語文 第九回数字量詞 第十回存現の表現：「有」と「在」 第十一回時刻と時量連動文 第十二回○1V+了○2了2 第十三回V+了1+・・・+了2 第十四回了の復習と応用 第十五回学習したものの纏めと総合練習		
教科書・参考書等 / Textbooks	『極める中国語(初級編)』(同学社)		
成績評価の方法 / Evaluation	定期試験80%、平常の単語テスト20%。		
学習上の助言 / Learning Advice	語学の勉強は繰り返しが大切です。よく復習しテキストに付いているCDを聞くように努力してください。 国際学部の受講者は「中国語基礎Ⅲ」と並行してとるようにしてください。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中国語基礎Ⅰ / Basic Chinese Ⅰ		
担当教員(所属) / Instructor	景 慧(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G740230
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 水 /Wed 5, 水 / Wed 6	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	景 慧(hj13415@gmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	景 慧(事前の申し込みで時間を決める。)		
授業の内容 / Course Description	初心者を対象に中国語の発音からスタートし、やさしい挨拶と日常会話、また、初歩的な文法事項などを教えます。		
授業の達成目標 / Course Goals	中国語を学ぶ第一歩としての本授業は、前期15回の学習を通して、中国語の発音が正しく出来ること、簡単な会話や最も初歩的な文法を理解し応用できること、さらに、今の中国人と中国社会全般への関心と理解を持ち、中国に関する知識と教養を有することを目標とします。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	大学に入学する以前、学んだ経験のない中国語の学習を通じ、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことについての基礎的能力を養うとともに、東アジアや中国の文化への興味を喚起し、理解を深め、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性を醸成します。また、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎づくりを行い、現代社会に必要なリテラシーを身につけさせます。		
前提とする知識 / Prerequisites	特にありません。		
関連科目 / Related Courses	特にありません。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	毎回の最初の数分間はやさしい中国語で受講者の皆さんに話しかけます。分からなくてもいいですので、とにかく中国語のシャワーを浴びてもらいます。それが終わった後、発音と単語の学習、基礎文法の説明と応用などを分かり易く教えます。指導に当たっては、受講者各自の個性と理解の度合いに気を配りながら、やさしく丹念に導きます。映像教材も使いますし、中国映画の鑑賞も一回程度予定を組みます。テキストにそって進めますが、状況次第で変更することがあります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第一回 中国と中国語について 第二回 中国語の発音：声調と単母音 第三回 中国語の発音：複合母音 第四回 中国語の発音：子音 第五回 発音の総合復習と挨拶用語の学習 第六回 指示詞と「是」 第七回 「是」の実践応用(会話形式) 第八回 形容詞述語文 第九回 数字量詞 第十回 存現の表現：「有」と「在」 第十一回 時刻と時量連動文 第十二回 ○1V+了○2了2 第十三回 V+了1+・・・+了2 第十四回 了の復習と応用 第十五回 学習したものの纏めと総合練習		
教科書・参考書等 / Textbooks	『極める中国語(初級編)』(同学社)		
成績評価の方法 / Evaluation	定期試験80%、平常の単語テスト20%。		
学習上の助言 / Learning Advice	語学の勉強は繰り返しが大切です。よく復習しテキストに付いているCDを聞くように努力してください。 国際学部の受講者は「中国語基礎Ⅲ」と並行してとるようにしてください。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中国語基礎Ⅰ / Basic Chinese Ⅰ		
担当教員(所属) / Instructor	景 慧(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G740237
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 水 / Wed 7, 水 / Wed 8	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	景 慧(hj13415@gmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	景 慧(事前の申し込みで時間を決める。)		
授業の内容 / Course Description	初心者を対象に中国語の発音からスタートし、やさしい挨拶と日常会話、また、初歩的な文法事項などを教えます。		
授業の達成目標 / Course Goals	中国語を学ぶ第一歩としての本授業は、前期15回の学習を通して、中国語の発音が正しく出来ること、簡単な会話や最も初歩的な文法を理解し応用できること、さらに、今の中国人と中国社会全般への関心と理解を持ち、中国に関する知識と教養を有することを目標とします。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	大学に入学する以前、学んだ経験のない中国語の学習を通じ、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことについての基礎的能力を養うとともに、東アジアや中国の文化への興味を喚起し、理解を深め、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性を醸成します。また、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎づくりを行い、現代社会に必要なリテラシーを身につけさせます。		
前提とする知識 / Prerequisites	特にありません。		
関連科目 / Related Courses	特にありません。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	毎回の最初の数分間はやさしい中国語で受講者の皆さんに話しかけます。分からなくてもいいですので、とにかく中国語のシャワーを浴びてもらいます。それが終わった後、発音と単語の学習、基礎文法の説明と応用などを分かり易く教えます。指導に当たっては、受講者各自の個性と理解の度合いに気を配りながら、やさしく丹念に導きます。映像教材も使いますし、中国映画の鑑賞も一回程度予定を組みます。テキストにそって進めますが、状況次第で変更することがあります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	<p>第一回 中国と中国語について</p> <p>第二回 中国語の発音：声調と単母音</p> <p>第三回 中国語の発音：複合母音</p> <p>第四回 中国語の発音：子音</p> <p>第五回 発音の総合復習と挨拶用語の学習</p> <p>第六回 指示詞と「是」</p> <p>第七回 「是」の実践応用(会話形式)</p> <p>第八回 形容詞述語文</p> <p>第九回 数字量詞</p> <p>第十回 存現の表現：「有」と「在」</p> <p>第十一回 時刻と時量連動文</p> <p>第十二回 ○1V+了○2了2</p> <p>第十三回 V+了1+・・・+了2</p> <p>第十四回 了の復習と応用</p> <p>第十五回 学習したものの纏めと総合練習</p>		
教科書・参考書等 / Textbooks	『極める中国語(初級編)』(同学社)		
成績評価の方法 / Evaluation	定期試験80%、平常の単語テスト20%。		
学習上の助言 / Learning Advice	語学の勉強は繰り返しが大切です。よく復習しテキストに付いているCDを聞くように努力してください。 国際学部の受講者は「中国語基礎Ⅲ」と並行してとるようにしてください。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中国語基礎Ⅱ / Basic Chinese II		
担当教員(所属) / Instructor	金 英花(基盤教育)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G740330
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 /Tue 5, 火 / Tue 6	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	金 英花(電話 : 028-649-5178 メール : kimyh@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	金 英花((水)16:30~17:30(研究室、5号館A棟1階))		
授業の内容 / Course Description	中国語基礎Ⅰを履修した学習者を対象に、中国語の基礎文法と基本表現を習う。文化的背景知識にも触れる。		
授業の達成目標 / Course Goals	中国語で自分の身のまわりの基本的な日常会話ができることを目指す。中国を知るための基礎的な土台を作る。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	中国語の基礎能力を養うとともに、中国文化へ興味を引き出し、中国地域への理解を深めるための動機を付与すること。		
前提とする知識 / Prerequisites	中国語基礎Ⅰを修了していること。または、同等の中国語の能力を持つこと。		
関連科目 / Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	毎回の授業で、新しく出てくるフレーズを文法とともに習得し、応用演習する。単語、本文の解釈と朗読を行い、聞く・話す・書く・読む基礎能力を身につける。聞き取りや単語テストは定期的に行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	*テキストに沿って進めるが、前期の進度などにより、内容の前後の変更の可能性あり 第1回 前期内容の復習、後期授業の進め方 第2回 「了」:完了・変化&到達・経験・語気助詞 第3回 同上 単語と本文 第4回 助動詞「会」、「能」、「可以」 様態補語 動詞の重畳 第5回 同上 単語と本文 第6回 「要」、「想」、助動詞「」「 第7回 前置詞「从・到・离・」、時点と時量の言い方 第8回 結果補語「動詞+結果補語」、「比」、「跟・·····」 第9回 中間復習・点検 第10回 方向補語、「要·····了」「快·····了」「就要·····了」「給」 第11回 動作の進行「正·在·呢」、動作の継続「·····着」、「是」 第12回 「是·····的」、把、怎么、「·····了」、不要 第13回 各種表現、「又」、「再」 第14回 使役、受け身表現、「一点儿」、「有点儿」 第15回 総まとめと復習		
教科書・参考書等 / Textbooks	『新しいキャンパス的中国語』(同学社)		
成績評価の方法 / Evaluation	定期試験80%、平常小テスト&授業参加20%		
学習上の助言 / Learning Advice	語学勉強には、繰り返し練習と継続こそが語学力を高める近道である。テキストのCDも活用しながら、文章表現を塊ごとに暗記するように心掛ける。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes	言葉を学ぶとは、新しい文化を学ぶということ、その文化を支える価値観や習慣も身に付けることでもある。		

授業科目名(英文名) /Course Title	中国語基礎Ⅲ/Basic Chinese III		
担当教員(所属)/Instructor	松金 公正(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G741401
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松金 公正(電話028-649-5216 電子メール matskane@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松金 公正(木曜日1~2時限、松金資料室(5号館A棟3階))		
授業の内容/Course Description	本授業は、はじめて中国語を学習する学生が正確な発音や基本文型の使い方を習得することを目的とした入門の講義です。現代中国語のやさしくかつ基本的な重要文法事項について解説を加えるのはもちろん、とくに基礎的会話能力醸成を重視します。このため、日本人の中国語学習者がもっとも苦手とする発音の訓練、及び日常的に使用する頻度の高い語彙の習得を授業の中心に据えることとなります。		
授業の達成目標/Course Goals	受講者には、本授業の受講後、中国語学習を進めていく上での基礎的知識を身につけていること、中国語学習の準備が完了していることを要求します。また、後期に開講される中国語入門基礎Ⅱとあわせ一年の学習を経た後、基礎的会話能力や聴解力を具備することを要求します(中国語検定准4級レベル)。また、テキスト学習の合間に近年の中国事情紹介も行う予定ですので、中国語という言葉だけではなく、その言葉が使用されている中国社会に興味をもってもらえればと思います。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	大学に入学する以前、学んだ経験のない中国語の学習を通じ、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことについての基礎的能力を養うとともに、東アジアや中国の文化への興味を喚起し、理解を深め、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性を醸成します。また、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎づくりを行い、現代社会に必要なリテラシーを身につけさせます。		
前提とする知識/Prerequisites	前提とする知識はありません。 なお、国際学部の学生で中国語を選択する学生は、当科目に並行して必ず中国語基礎Ⅰを今学期履修するようにしてください。また、後期は中国語基礎Ⅱと中国語基礎Ⅳを並行して履修するようにしてください。		
関連科目/Related Courses	前提とする知識はありません。 なお、国際学部の学生で中国語を選択する学生は、当科目に並行して必ず中国語基礎Ⅰを今学期履修するようにしてください。また、後期は中国語基礎Ⅱと中国語基礎Ⅳを並行して履修するようにしてください。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	1. 中国語上達のポイントは発音及び聴解力にあるため、カセットやCDなどを利用して繰り返し練習し、中国語を「聞く」「話す」習慣を身につけます。 2. 授業においては、「カルタもどき」などのゲームを取り入れたいと考えているので、積極的な姿勢で演習に参加してください。 3. 日本の漢字とは異なる簡体字、繁体字の表記を学習することにより、日本語、中国語間の文化的差異について理解を深める一助とします。		

<p>授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule</p>	<p>演習形式。 発音練習に時間をかけて進めます。 毎回、はじめの20分間は、前回の授業で学習した単語や短文を課題として覚えてきてもらい、「聴写」という確認小テストを行います。出席はその小テストを回収することによりとります。</p> <p>第1回 ガイダンス、中国語とは何か？ 第2回 発音（1）声調と短母音 第3回 発音（2）子音＋短母音 第4回 発音（3）複合母音 第5回 発音（4）鼻母音 第6回 発音（5）発音の確認テスト 第7回 数詞、指示代名詞、人称代名詞 第8回 「是」を用いる文、形容詞述語文 第9回 疑問詞疑問文、名詞の修飾語 第10回 所有を表す「有」 第11回 名量詞、お金の数え方 第12回 反復疑問文 第13回 存在文、動詞の重ね型 第14回 「想」の用法 第15回 復習 第16回 期末試験</p> <p>*なお、これに加えて中国の人物や地名、及び最近の社会の様子についても解説を加えます。そのため、その分量により、文法事項の説明は変更される可能性があります。</p>
<p>教科書・参考書等／Textbooks</p>	<p>三瀧正道ほか『たのしく話そう中国語』朝日出版社、2、100円（税別） *購入方法は最初の授業で説明します。</p>
<p>成績評価の方法／Evaluation</p>	<p>期末考査の成績（80％）に加え、授業参加の積極性や小テスト（「聴写」）の結果（20％）も加味して、総合的に評価します。</p>
<p>学習上の助言／Learning Advice</p>	<p>入門期における発音のレッスンは中国語のマスターにおいてとても重要な意味をもっていますので、付属のCDなどを利用して必ず予習・復習をしてください。</p>
<p>キーワード／Keywords</p>	
<p>備考／Notes</p>	

授業科目名(英文名) / Course Title	中国語基礎Ⅳ / Basic Chinese Ⅳ		
担当教員(所属) / Instructor	松金 公正(国際学部)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G742205
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 木 / Thu 3, 木 / Thu 4	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	松金 公正(電話028-649-5216 電子メール matskane@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	松金 公正(木曜日1~2時限、松金資料室(5号館A棟3階))		
授業の内容 / Course Description	本授業は、中国語基礎Ⅰ及びⅢを履修した学生が正確な発音や基本文型の使い方を習得することを目的とした入門の講義です。現代中国語のやさしくかつ基本的な重要文法事項について解説を加えるのはもちろん、とくに基礎的会話能力醸成を重視します。このため、日本人の中国語学習者がもっとも苦手とする発音の訓練、及び日常的に使用する頻度の高い語彙の習得を授業の中心に据えることとなります。		
授業の達成目標 / Course Goals	受講者には、前期に開講される中国語基礎Ⅲと合わせて一年の学習を経た後、挨拶や教室用語、日常生活で用いるような平易な中国語を聞き、話すことができるなど、中国語の基礎をマスターして欲しいと思います(中国語検定準4級レベル)。具体的には、簡体字とピンインを筆記でき、中日辞典を自力で引け、辞書があれば簡単な文章を読むことができ、日常生活での常用語500~1000語を使った単文の日本語訳と日本語の中国語訳ができるようになることを要求します。 また、テキスト学習の合間に近年の中国事情紹介も行う予定ですので、中国語という言葉だけではなく、その言葉が使用されている中国社会に興味をもってもらえればと思います。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	大学に入学する以前、学んだ経験のない中国語の学習を通じ、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことについての基礎的能力を養うとともに、東アジアや中国の文化への興味を喚起し、理解を深め、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性を醸成します。また、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎づくりを行い、現代社会に必要なリテラシーを身につけさせます。		
前提とする知識 / Prerequisites	国際学部学生で中国語を選択する学生は、本科目を受講する前に必ず前期開講の中国語基礎Ⅰ、Ⅲを受講し、当科目に平行して必ず中国語基礎Ⅱを今年度履修してください。		
関連科目 / Related Courses	国際学部学生で中国語を選択する学生は、本科目を受講する前に必ず前期開講の中国語基礎Ⅰ、Ⅲを受講し、当科目に平行して必ず中国語基礎Ⅱを今年度履修してください。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	1. 中国語上達のポイントは発音及び聴解力にあるため、カセットやCDなどを利用して繰り返し練習し、中国語を「聞く」「話す」習慣を身につけます。 2. 授業においては、「カルタもどき」などのゲームを取り入れたいと考えているので、積極的な姿勢で演習に参加してください。 3. 日本の漢字とは異なる簡体字、繁体字の表記を学習することにより、日本語、中国語間の文化的差異について理解を深める一助とします。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	演習形式。 発音練習に時間をかけて進めます。 毎回、はじめの20分間は、前回の授業で学習した単語や短文を課題として覚えてきてもらい、「聴写」という確認小テストを行います。出席はその小テストを回収することによりとります。 第1回 ガイダンス、中国語入門基礎Ⅰの内容の復習 第2回 所在文、方位詞、時刻と時間量 第3回 選択疑問文 第4回 日付の言い方 第5回 AからBまで 第6回 「就」の二つの用法 第7回 確認テスト 第8回 アスペクト助詞「了」 第9回 ふたつの「できる」(「会」と「能」) 第10回 動詞の修飾語 第11回 「可以」の用法、「了」の使い方 第12回 結果補語 第13回 「~したことがある」(経験) 第14回 「~しているところ」(進行) 第15回 確認と復習 第16回 期末試験 *なお、これに加えて、受講者の学習レベルによって最近の社会の様子についても解説を加えます。そのため、その分量により、文法事項の説明は変更される可能性があります。		
教科書・参考書等 / Textbooks	前期「中国語基礎Ⅲ」で使用した三浦正道ほか『たのしく話そう中国語』朝日出版社、2,100円(税別)を使用します。		
成績評価の方法 / Evaluation	期末考査の成績(80%)に加え、授業参加の積極性や小テスト(「聴写」)の結果(20%)も加味して総合的に判定します。		

学習上の助言／Learning Advice	入門期における発音のレッスンは中国語のマスターにおいてとても重要な意味をもっていますので、付属のCDなどを利用して必ず予習・復習をしてください。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) ／Course Title	中国語応用Ⅰ／Intermediate Chinese Ⅰ		
担当教員(所属)／Instructor	景 慧(その他)		
授業種別／Type of Class	演習	時間割コード／Registration Code	G745960
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	景 慧(hj13415@gmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	景 慧(事前の申し込みで時間を決める。)		
授業の内容／Course Description	中国語基礎Ⅰ～Ⅳを履修し、中国語の発音、初級文法を一通り習得した学習者を対象に、初歩文法を復習しながら、中級中国語への橋渡しをする授業です。		
授業の達成目標／Course Goals	文法を復習した上で、語彙や日常会話表現を増やし、表現力を高め、更に読解力を向上させることを目標とします。また、後期に開講される中国語応用Ⅱとあわせ、一年の学習を経た後、一定の会話能力や聴解力を具備することを要求します(中国語検定4級レベル)。また、テキスト学習の合間に近年の中国事情紹介も行う予定ですので、中国語という言葉だけではなく、その言葉が使用されている中国社会に興味をもってもらえればと思います。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	大学に入学する以前、学んだ経験のない中国語の学習を通じ、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことについての基礎的能力を養うとともに、東アジアや中国の文化への興味を喚起し、理解を深め、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性を醸成します。また、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎づくりを行い、現代社会に必要なリテラシーを身につけさせます。		
前提とする知識／Prerequisites	中国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを習得していること。		
関連科目／Related Courses	中国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを習得していること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	新しい語彙や文法事項を覚えることは勿論ですが、それより一年間履修した内容を再度学び直し完全に自分のものとして自由に表現できることに重点をおきます。読む、会話する、聞く、といった作業はどの時間においてもたっぷり行います。下記の授業計画通りにテキストに沿って進めますが、状況次第で変更することがあります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第一回中国人の朝ご飯(方向補語について) 第二回注文のやり取り(「了」の復習) 第三回タクシーを呼ぶ(結果補語について) 第四回中国の交通事情(「会」、「能」、「可以」の復習) 第五回映画に誘う(兼語文について) 第六回中国の娯楽事情(兼語文の応用) 第七回A A制とA B制(受け身表現) 第八回食事に誘う(受身身表現の応用、「?」の復習) 第九回中間復習 第十回病院にて(「是・・・的」について) 第十一回中国の病院事情(「是・・・的」の応用) 第十二回中国の季節(比較表現) 第十三回ネットショッピング(「一点儿」、「一会儿」、「一下」) 第十四回中国のネットショッピング事情(「想」の復習) 第十五回総合復習、纏め。		
教科書・参考書等／Textbooks	『中国語への道——浅きより深きへ——準中級編』(金星堂)		
成績評価の方法／Evaluation	定期試験80%、平常試験20%。		
学習上の助言／Learning Advice	テキストはどの課も会話文とそれとペアを成す短文があります。暗誦が表現力の向上に極めて有効でありますので、50字前後の短文を二月に一つ暗記するよう、心がけてください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中国語応用Ⅱ / Intermediate Chinese II		
担当教員(所属) / Instructor	金 英花(基盤教育)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G746962
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 /Tue 7, 火 / Tue 8	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	金 英花(電話 : 028-649-5178 メール : kimyh@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	金 英花((水)16:30~17:30(研究室、5号館A棟1階))		
授業の内容 / Course Description	中国語応用Ⅰを履修した学習者を対象に、中級中国語への橋渡しをする授業である。		
授業の達成目標 / Course Goals	中国語で基本的な会話ができることを目標とする。特に、話す、聞く力を身につけることを重視する。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	中国語の基礎能力を養うとともに、中国文化へ興味を喚起し、中国地域に対する理解を深め、視野を広げる。		
前提とする知識 / Prerequisites	中国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、 中国語応用Ⅰを取得していること。または、同等の中国語の能力を持つこと。		
関連科目 / Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	毎回の授業で、新しく出てきた文法、表現、フレーズを中心にスタートし、単語習得、文章全体の理解の順に授業を進める。繰り返し練習、復習、応用演習することで自分の言葉になれるように定着させる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	*テキストに沿って進めるが、前期の進度などにより、内容の前後の変更の可能性あり。 第1回 前期内容の復習、後期授業の進め方、 第2回 「乗男」、「乗女」とは (怎么、才) 第3回 同上 (着、了) 第4回 「大学生のアルバイト」事情 (一…就、～在、有～) 第5回 同上 (離合詞、除了～以外、要～了) 第6回 「感謝の習慣」 (再、又、只有～才) 第7回 同上 (二重目的語、動作量の表し方) 第8回 中間復習、中間テスト 第9回 「若者の就職」 (考、倍数と割引の表現) 第10回 同上 各種職業 (却、存現文) 第11回 「月光族」とは (可能補語、結果補語、方向補語) 第12回 同上 流行語：～族 (会、只要～就、疑問詞) 第13回 「海外で中国語に」 (いろいろな前置詞、文による目的語) 第14回 同上 (竟然) 第15回 総まとめと復習		
教科書・参考書等 / Textbooks	『中国語への道：浅きより深きへ 準中級編』(金星堂)		
成績評価の方法 / Evaluation	定期試験80%、平常小テスト&授業参加20%		
学習上の助言 / Learning Advice	語学は「繰り返し練習」と「良い文章表現の丸暗記」が表現力の向上につながる近道である。テキストの各課の50字前後の「短文」を暗記できるように心がける。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes	言葉を学ぶとは、新しい文化を学ぶということ、その文化を支える価値観や習慣も身に付けることでもある。		

授業科目名(英文名) /Course Title	タイ語基礎Ⅰ/Basic Thai Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	泉田 スジнда(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G750119
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 5, 火/Tue 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	泉田 スジнда(電話:090-4050-7929 e-mail:sujindai@hotmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	泉田 スジнда(水曜日の12時から12時45分 非常勤控え室)		
授業の内容/Course Description	タイ語を初めて学ぶ学生を対象にタイ語の基礎知識を学びます。具体的には、子音、母音、タイ語の特徴の声調、単語の構成と発音規則を習得するとともに、簡単な挨拶や自己紹介の表現を学びます。また、タイの生活、文化、伝統、経済、歴史を紹介します。		
授業の達成目標/Course Goals	タイ語を初学習者が、タイ語の基本である42子音、母音(短母音、長母音、二重母音)、声調(4の声調と5声調音)に関して「聞く」、「話す」、「読む」、「書く」の4点をマスターできることをめざします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	特にありません。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	タイ語の発音をマスターするため、発音練習を繰り返すとともに、教師との一対一の指導を通じて正確な発音を取得できるように授業を進めていきます。また書く力をつけるために、テキストの練習問題を繰り返すことも必要です。毎回宿題があります。また、いくつかの小テスト(Listening、書く、読む)を行う予定です。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. タイとタイ語について 2. 1-14番目の子音の発音・書き方・子音の種類(低子音、中子音、高子音) 一言の挨拶(1) 3. 15-29番目の子音の発音・書き方・子音の種類(低子音、中子音、高子音) 一言の挨拶(2) 4. 30-42番目の子音の発音・書き方・子音の種類(低子音、中子音、高子音) 一言の挨拶(3) 5. 基礎の短母音の文字、発音、書き方 一言の挨拶(4) 6. 基礎の長母音の文字、発音、書き方 一言の挨拶(5) 7. 基礎の二重母音の文字、発音、書き方 一言の自己紹介(6) 8. タイ語の声調、声調とは、声調記号 一言の自己紹介(7) 9. 中子音と声調のきまり 10. 高子音と声調のきまり 一言の自己紹介(8) 11. 低子音と声調のきまり 12. 末子音の単語 文字と発音 一言の自己紹介(9) 13. 末子音と母音の変化 14. (平音節と促音節)、 一言の自己紹介(1) 15. 前期の復習とまとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	授業中にプリントを配布。また教材「タイ文読み書きの基礎」(ウィライ・トーモラクン)を参考書として使用する。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加状況 15%、宿題の達成度 15%、小テスト 15%、および最終期末試験 55%		
学習上の助言/Learning Advice	新しい世界に挑戦する気持ちで勉強して下さい。今まで聞いたこともなく、alphabetでもなく、漢字でもなく、これまで発音したことも見たこともない言葉ですから、驚くかもしれませんが、とても刺激になると思います。またタイ語の発音は難しいといわれますが、是非、この授業を通して、自分の音感を磨いてください。タイ語の発音をマスターできればどんな言葉の発音にも対応できるでしょう。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	タイ語基礎Ⅱ / Basic Thai Ⅱ		
担当教員(所属) / Instructor	泉田 スジнда(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G750219
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 /Tue 5, 火 / Tue 6	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	泉田 スジнда(電話 : 090-4050-7929 e-mail : sujindai@hotmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	泉田 スジнда(水曜日の12時から12時45分 非常勤控え室)		
授業の内容 / Course Description	タイ語基礎Ⅰを学習した学生を対象に、日常的によく使われる単語、表現や基礎的文法を用い、簡単な会話や作文を学びます。また、授業では、タイの生活、文化、伝統、経済、歴史を紹介します。		
授業の達成目標 / Course Goals	1. 日常でよく使う単語を覚えて、書く、読む、聞くができる。 2. 簡単な日常会話ができる。 3. 簡単な文を作ることができる。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	この授業は、基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	「タイ語基礎Ⅰ」の履修を終了したことを受講の前提とします。		
関連科目 / Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	毎回基礎となる文型を学びます。またその文型によく使われる単語を練習します。文型の練習を先生との会話の形で繰り返し練習することになります。また毎回さまざまな小テスト(listening、書く、読む)を行います。冬休みには日記をタイ語で書く宿題があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 基礎のこと：子音、母音、声調の復習 2. 挨拶と自己紹介 3. 私は日本人です、タイ人ではありません、彼は中国人でしょう？ , , 4. 図書館はどこですか？ 前置詞 5. タイ料理は辛いけど、おいしいです。 形容詞の文型 6. 学生はタイ語を大学で勉強します。動詞の文型 7. タイにいったことがない、行きたいです。さまざまな助動詞 8. 時制：進行形 未来形 過去 9. 可能表現 10. 数字 タイの数字 11. 疑問詞疑問文、疑問助詞疑問文 12. 接続詞 13. 関係代名詞 14. 引用表現 15. 復習とまとめ 		
教科書・参考書等 / Textbooks	教材はプリントを配布 参考所：三上直光著『タイ語の基礎』白水社 2004年 ¥4,300 CD付		
成績評価の方法 / Evaluation	授業への参加状況 15 %、宿題の達成度 15 %、小テスト 15 %、および最終期末試験 55 %		
学習上の助言 / Learning Advice	この講義を通じて受講生はタイ語を話せる段階に入ると考えています。最初は、なかなか自信がもてず、話したいことが通じるか不安があると思います。是非、一歩勇気出して、進んで話してみてください。タイ語が通じた時の喜びを味わいましょう。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	タイ語基礎Ⅲ/Basic Thai III		
担当教員(所属)/Instructor	マリー・ケオマノータム(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G750319
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	マリー・ケオマノータム(malee@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	マリー・ケオマノータム(木曜日・金曜日12:05~12:45)		
授業の内容/Course Description	初めてタイ語を学ぶ受講者を対象に、タイ語の文字、単語の構成要素である子音、母音、声調規則を学び、読み書きでき、また正確に発音できるように訓練します。また、初歩の基本文法を学習することにより、簡単な文章の読解力を養います。		
授業の達成目標/Course Goals	タイ語の読みかたの規則を短期間で理解し、正確に読む力と発音を身につけることを目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	とくにありませんが、短期間でタイ語の読解力を身につけるために、併設の「タイ語基礎I」と進行をあわせ、その内容をもとに、発音と文字の練習を反復的にするので、「タイ語基礎I」と並行して受講するようにしてください		
関連科目/Related Courses	とくにありませんが、短期間でタイ語の読解力を身につけるために、併設の「タイ語基礎I」と進行をあわせ、その内容をもとに、発音と文字の練習を反復的にするので、「タイ語基礎I」と並行して受講するようにしてください		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	テキストにもとづいて、タイ語の読み書きを反復練習するとともに、基本文法を少しずつ覚えていきます。毎時間の予習・復習が重要です。授業のはじまりには、前回学習した内容の小テストを行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス:授業の内容、進め方等の説明 2. 子音について 3. 長母音について 4. 短母音について 5. 重母音について 6. 声調の規則(1) 7. 声調の規則(2) 8. 〈SVO型〉の語順、修飾関係(1) 9. 時制、述語としての形容詞 10. 修飾関係(2) 11. 修飾関係(3) 12. 《経験》と《意志》の助動詞 13. 《所有》と《存在》の動詞 14. 動詞連続 15. まとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書:野津幸治・佐藤博史・宮本マラシー『タイ語読解力養成講座』めこん、2,800円(税別)		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験(60%)と出席状況・授業態度・小テスト(40%)によって評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	初習外国語のため、難しいと感じるかもしれませんが、文字書きと発音の規則(ルール)がはっきりしているので、以外と簡単!必要なのは、あなたの挑戦と積極性です。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	タイ語基礎Ⅳ/Basic Thai IV		
担当教員(所属)/Instructor	マリー・ケオマノータム(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G750419
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	マリー・ケオマノータム(malee@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	マリー・ケオマノータム(木曜日・金曜日12:05~12:45)		
授業の内容/Course Description	「タイ語基礎Ⅰ」「タイ語基礎Ⅲ」を受講した学生を対象に、引き続きタイ語の表現や基本文法を学びます。タイ語の正確な発音を訓練するとともに、初級程度の文章の読解力と作文力を養成します。		
授業の達成目標/Course Goals	タイ語の初級基本文法を正確に理解し、読解力および作文力を身につけることを目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	「タイ語基礎Ⅰ」および「タイ語基礎Ⅲ」を履修済みであること。		
関連科目/Related Courses	「タイ語基礎Ⅰ」および「タイ語基礎Ⅲ」を履修済みであること。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	「タイ語基礎Ⅲ」のテキストを引き続き学習します。タイ語の読み書きを反復練習するとともに、より複雑な基本文法を覚えていきます。毎時間の予習・復習が重要です。授業のはじまりには、前回学習した内容の小テストを行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 接続詞、文末詞、命令文 2. 「～してきた」、「～してみる」 3. 因果関係文、「若干の～」 4. 希望・願望の表現、「ほとんど～」 5. 推量の表現、受身の表現 6. 「～のあと」、「～とわかる」 7. 時刻・時間の表現、否定詞 8. 指示代名詞、「しかし」 9. 引用の表現、「～すべき」 10. 「～したばかり」、「～であればあるほど～」 11. 依頼の表現、関係代名詞 12. 可能の表現、《完了》の助動詞 13. 義務・必要の表現、形容詞・動詞の名詞化 14. 条件・仮定の表現、「たとえ～ても」 15. まとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：野津幸治・佐藤博史・宮本マラシー『タイ語読解力養成講座』めこん、2,800円(税別)		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験(60%)と出席状況・授業態度・小テスト(40%)によって評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	日頃からタイ語の文章に親しむようにしてください。初習外国語のため、難しいと感じているかもしれませんが、単語や表現を積極的に覚えると読み書く力が着実に付いてきます。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	タイ語応用Ⅰ/Intermediate Thai Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	泉田 スジダ(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G750519
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	泉田 スジダ(電話:090-4050-7929 e-mail:sujindai@hotmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	泉田 スジダ(水曜日の12時から12時45分 非常勤控え室)		
授業の内容/Course Description	タイ語入門を学んだ者を対象に、タイ語の類別詞、形容詞、動詞連続、助動詞、依頼、比較などのさまざまな中級程度の文法を学びます		
授業の達成目標/Course Goals	1. 中級程度の文章を読解できるようになる。 2. 習得した表現や文法を用いて作文や簡単な翻訳ができるようになる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。また、国際学部外国語科目の教育目標「世界の各地域とその文化を現地の言語でより深く理解するための基礎学力を養成する」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	「タイ語入門Ⅰ」および「タイ語入門Ⅱ」を履修済みであること。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	毎回新しい文型を学びます。また文型の例文を通して文法の理解につなげるとともに新しい単語の取得を目指します。文型の練習を先生との会話の形で繰り返し練習します。授業中にはタイ語だけではなく、タイの文化、政治、食文化、タイ人の考え方、日本との共通点、違いなどを話すつもりです。タイについて知ると同時に、日本人の考え方や文化の特徴を捉え直すいい機会になると思います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1.基礎のこと:子音、母音、声調の復習 2.二重子音の単語 3.二重子音の単語 4.類別詞 5.類別詞と , , , , ' , 6.のさまざまな文型 '' '' 7.のさまざまな文型 8.依頼、勧誘、懇願表現 , , , , 9.中間テスト 10.比較表現 同等 11.比較表現 より、最も , 12.比較表現 ほど、疑問文 13.形容詞 14.形容詞 15.復習とまとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教材はプリントを配布 参考所:三上直光著『タイ語の基礎』白水社2004年 ¥4,300 CD付		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加状況 15 %、宿題の達成度 15 %、小テスト 15 %、および最終期末試験 55 %		
学習上の助言/Learning Advice	この講義の中では語彙を豊かにするとともに、より複雑な文型を使って表現することを学びます。たくさんのお話をタイ語で表現できるようになると思います。またタイの社会や文化についても学ぶこととなります。タイ語を通じ異文化にふれることができればいいですね。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	タイ語応用Ⅱ / Intermediate Thai Ⅱ		
担当教員(所属) / Instructor	泉田 スジダ(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G750619
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 /Tue 7, 火 / Tue 8	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可 (出願前面談有)		
連絡先 (研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	泉田 スジダ(電話 : 090-4050-7929 e-mail : sujindai@hotmail.com)		
オフィスアワー (自由質問時間) / Office Hours	泉田 スジダ(水曜日の12時から12時45分 非常勤控え室)		
授業の内容 / Course Description	タイ語の aspekto、助動詞、モダリティ、とさまざまな接続詞などの中級程度の文法を学びます。		
授業の達成目標 / Course Goals	1. 中級程度の文章を読解できるようになる。 2. 習得した表現や文法を用いてより複雑な作文や訳文ができるようになる。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	この授業は、基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。また、国際学部外国語科目の教育目標「世界の各地域とその文化を現地の言語でより深く理解するための基礎学力を養成する」に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	「タイ語入門Ⅰ」、「タイ語入門Ⅱ」および「タイ語応用Ⅰ」を履修済みであること。		
関連科目 / Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	毎回新しい文型を学びます。また文型の例文を通して文法の理解につなげるとともに、新しい単語の取得を目指します。毎回、学生が習った文型を使って自分で文章を作って、先生と会話形式で学習します。毎回の宿題でもっと理解していきます。		
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	1. 基礎のこと復習 2. 教科書の第34課 3. 第35課 4. 第36課 5. 第37課 6. 第37課 7. 第40か 8. 中間テスト 9. 第41課 10. 第41課 11. 第44課 12. 第44課 13. 第45課 14. 第46課 15. 復習とまとめ		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書 : 三上直光著『タイ語の基礎』白水社 2004年 ¥4,300 CD付		
成績評価の方法 / Evaluation	授業への参加状況 15 %、宿題の達成度 15 %、小テスト 15 %、および最終期末試験 55 %		
学習上の助言 / Learning Advice	この講義の中では語彙を豊かにするとともに、より複雑な文型を使って表現することを学びます。たくさんのお話をタイ語で表現できるようになると思います。またタイの社会や文化についても学ぶこととなります。タイ語を通じ異文化にふれることができればいいですね。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	朝鮮語基礎Ⅰ／Basic Korean Ⅰ		
担当教員(所属)／Instructor	筒井 真樹子(国際学部)		
授業種別／Type of Class	演習	時間割コード／Registration Code	G760155
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 火 /Tue 5, 火/Tue 6	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	筒井 真樹子(授業中にお知らせします。)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	筒井 真樹子(火曜日13:00~14:00(非常勤講師室))		
授業の内容／Course Description	朝鮮語の基礎を学びます。朝鮮語は世界の言語の中で日本語にもっとも近い言語です。語順が日本語と同じであり、助詞や漢字語も共通しています。ですから日本人にとってもっとも覚えやすい外国語なのです。授業では、そのような朝鮮語の文字・発音・文法を学ぶと同時に、その背景にある韓国の社会や文化などを紹介します。		
授業の達成目標／Course Goals	初習者向けとして朝鮮語の基礎能力を養います。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	基盤教育関係の初習外国語系科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識／Prerequisites	特にありません。		
関連科目／Related Courses	特にありません。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	①CDやプリントを活用して発音練習をします。 ②ハングル文字が正確に書けるように繰り返し練習します。 ③ 会話練習をします。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週教科書第1課「韓国語と文字」 第2週教科書第2課「基本母音字」 第3週教科書第3課「基本子音字①」 第4週教科書第4課「基本子音字②」 第5週教科書第5課「基本子音字③」 第6週教科書第6課「合成子音字」 第7週教科書第7課「合成母音字」 第8週教科書第8課「パッチム」 第9週教科書第9課「連音化」 第10週教科書第10課「私は学生です」 第11週教科書第11課「これは何ですか?」 第12週教科書第12課「この人は誰ですか?」 第13週教科書第13課復習 第14週教科書第14週「教室に何がありますか?」 第15週復習 第16週期末試験		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：李昌圭著『韓国語へ旅しよう初級』（朝日出版社）（宇大生協で販売） 参考書：特になし		
成績評価の方法／Evaluation	出席20%、授業への参加態度10%、単語テストの成績20%、期末試験の成績50%で、総合的に評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	1. できれば他の入門クラスと併せて取るようにしてください。 2. 授業を休まないようにしてください。 3. 授業に積極的に参加してください。 4. 予習・復習をしてください。 5. 語学上達のコツは「やる気・根気・暗記」の「三つのキ」だということを忘れないでください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	朝鮮語基礎Ⅰ／Basic Korean Ⅰ		
担当教員(所属)／Instructor	金 多希(その他)		
授業種別／Type of Class	演習	時間割コード／Registration Code	G760160
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	金 多希(開講時に教えます。)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	金 多希(火曜日:12:00~12:50(非常勤講師室))		
授業の内容／Course Description	朝鮮語と日本語は文法構造が非常に類似しています。そのため、日本人にとって大変馴染みやすく、覚えやすい外国語の一つです。このような朝鮮語の特徴を踏まえた上、本演習では、まず朝鮮語の文字と発音をしっかり身に付けます。そして、基本的な自己紹介や挨拶ができるように口頭演習を通して基礎会話を習得します。		
授業の達成目標／Course Goals	初習者向けとして朝鮮語の基礎能力を養います。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	基盤教育関係の初習外国語系科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識／Prerequisites	特に問いません。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	主に教科書を中心に進めますが、他に現在の生きた朝鮮語の表現にも触れます。まず、朝鮮語40文字の表記と発音に重点を置きます。とりわけ文字と発音は、毎週復習の機会を設け繰り返し覚えていきます。さらに、ワーク・シートを積極的に活用することで、朝鮮語の基礎を体系的且つ着実に身につけていきます。また、二つの副教材を用い、教科書の外側にある日常的な表現にも触れます。ここでは、K-POPの歌詞を読むことで、より自然な発音を練習します。次に、韓国ドラマ(もしくはコマーシャル)の台詞を拾いながら、口語表現やイントネーションを学習します。ならびに、現在の韓国事情にも関心を広げつつ、最新の流行や韓国文化も紹介します。授業は基本的に日本語で行いますが、言葉に慣れるように簡単な朝鮮語を交えながら進めます。 (学習者の状況によって、授業の進度を調節する場合があります。予めご了承ください。)		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 初回ガイダンス 第2週 基本母音字 第3週 基本子音字(1) 第4週 基本子音字(2) 第5週 激音と濃音 第6週 合成母音字 第7週 パッチム(1) 1文字パッチム 第8週 パッチム(2) 2文字パッチム 第9週 発音の規則(1) 連音化 — K-POP、読んで歌ってみよう 第10週 発音の規則(2) 2文字パッチムの連音化 — K-POP、読んで歌ってみよう 第11週 文字の読む練習 — ドラマやコマーシャルの台詞を読んでみよう 第12週 自己紹介 — 私は学生です。 第13週 指示代名詞 — これは何ですか? 第14週 家族の呼称と所有格 — この人は誰ですか? 第15週 総まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	李昌圭『韓国語へ旅しよう(初級)』朝日出版社(生協で販売)		
成績評価の方法／Evaluation	出席及び授業への参加態度(20%)、課題及び小テスト(20%)、期末試験(60%)		
学習上の助言／Learning Advice	外国語に興味のある方なら楽しく勉強できると思います。気軽に始められる外国語なので、緊張せず初回のガイダンスに参加してみてください。前期の授業が終わる頃には文字が自然に読めるようになります。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	朝鮮語基礎Ⅱ / Basic Korean Ⅱ		
担当教員(所属) / Instructor	金 多希(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G760265
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	金 多希(開講時に教えます。)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	金 多希(火曜日: 12:00~12:50 (非常勤講師室))		
授業の内容 / Course Description	朝鮮語と日本語は文法構造が非常に類似しています。そのため、日本人にとって大変馴染みやすく、覚えやすい外国語の一つです。このような朝鮮語の特徴を踏まえた上、本演習では前期に続き、基礎会話能力を向上させるための語彙、文法を中心に学習します。さらに言葉を支えている韓国の伝統文化や歴史、あるいは韓国事情など、多方面から朝鮮語の全体像を概観します。		
授業の達成目標 / Course Goals	前期に続き、初級者向けの『聞く・話す・読む・書く』4つの機能を磨きます。その上、基礎会話の運用能力と簡単な文章(メール、手紙、年賀状など)が書けるようにします。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	基盤教育関係の初習外国語系科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	「朝鮮語基礎Ⅰ」を履修した人、またはそれに相応する朝鮮語能力を有する人を対象とします。		
関連科目 / Related Courses	「朝鮮語基礎Ⅰ」を履修した人、またはそれに相応する朝鮮語能力を有する人を対象とします。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	本授業では、「朝鮮語基礎Ⅰ」の知識を踏まえ基礎会話の運用能力を養うために、初級文法を勉強しながら文型を学び、より正確なコミュニケーション能力の向上を図ります。毎回の復習を通して、文法や語彙を確認します。授業の進め方は、ペア・ワークを通して口頭演習を行ったり、直接文章を作成するなど演習形式を採ります。教科書を中心に進めますが、学習者が目と耳で楽しめるような内容も加え、多方面で朝鮮語を紹介します。最近の韓国映画やドラマ、K-POPなど、生の朝鮮語の表現や現在韓国で流行している文化などにも触れつつ、朝鮮語を話せる魅力を探求します。 (学習者の状況によって、授業の進度を調節する場合があります。予めご了承ください。)		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週 初回ガイダンス 第2週 前期の復習 — 自己紹介を話してみよう。書いてみよう 第3週 場所と位置を尋ねる — 教室に何がありますか? 第4週 動詞・形容詞の活用(—/—) — 何をしますか? 第5週 動詞・形容詞の否定(—)と曜日 第6週 敬語で話す — どこに行かれますか? 第7週 過去を話す — 昨日何をしましたか? 第8週 日付を話す — 試験はいつですか? 第9週 時間を聞く — いま何時ですか? 第10週 日付と曜日、時間の復習 第11週 買い物をする — いくらですか? 第12週 非格式体(—)の作り方 — 週末に何をしますか? 第13週 非格式体・尊敬形{—()}の作り方 — いま、何をしていますか? 第14週 誘いのことば、意思表示のことば — 何を食べましょうか? 第15週 総まとめ		
教科書・参考書等 / Textbooks	李昌圭『韓国語へ旅しよう(初級)』朝日出版社(生協で販売):前期と同様		
成績評価の方法 / Evaluation	出席及び授業への参加態度(20%)、課題及び小テスト(20%)、期末試験(60%)		
学習上の助言 / Learning Advice	一人一人の学習者の能力向上を図るために、繰り返し練習し、復習する演習形式の授業です。学習者の積極的な取り組みが望まれます。後期が終わる頃には簡単な会話ができるようになります。朝鮮語で話せる達成感をぜひ、味わってみてください。※初回のガイダンスには、なるべく出席してください。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	朝鮮語基礎Ⅲ/Basic Korean III		
担当教員(所属)/Instructor	金 英花(基盤教育)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G760333
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	金 英花(電話:028-649-5178 メール:kimyh@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	金 英花((水)16:30~17:30(研究室、5号館A棟1階))		
授業の内容/Course Description	朝鮮語は日本語に最も近い言語です。朝鮮語には日本語と同じく助詞や漢字語、尊敬語などがあるほか日本語と語順が一致しています。それゆえ、朝鮮語は日本人(日本語は韓国人)にとって最も学習しやすい言語の一つと言われています。本授業では、まず文字(基礎文字24+合成文字16=40文字)と、その発音をしっかりと学びます。1学期終了後には意味は分からなくても地下鉄のハングル表記やK-POP歌手のハングルの名前がすらすらと読めます。		
授業の達成目標/Course Goals	朝鮮語学習未経験者を対象に朝鮮語学習に基礎となる文字と発音の習得を目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育関係の初習外国語系科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	問いません。		
関連科目/Related Courses	問いません。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	毎回、副教材のトレーニング・ペーパーを4枚ほど配布して書く練習を行うとともに、毎回の授業の始めに前回習った文字の聞き取りの練習を行います。これを繰り返すことによって、○や□など、記号のように見えていたものが文字として目の前に浮かび上がってきます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1、ガイダンス:朝鮮語ってどんな言語? 2、基本母音:K-popを聞く(朝鮮語に触れる1) 3、基本子音:K-popを聞く(朝鮮語に触れる2) 4、基本子音:韓国のCMソングを聞く(朝鮮語に触れる3) 5、基本子音:韓国の歌曲を聴く(朝鮮語に触れる4) 6、合成子音:韓国の童謡を歌う(朝鮮語を試す) 7、合成子音:韓国の歌曲を歌う(朝鮮語を試す) 8、終声子音:K-popを歌う(朝鮮語を試す) 9、終声子音:K-popを歌う(朝鮮語を試す) 10、連音:ドラマを見る(朝鮮語に慣れる) 11、連音:ドラマを見る(朝鮮語に慣れる) 12、第1課:ドラマを見る(朝鮮語に慣れる) 13、第2課:ドラマを見る(朝鮮語に慣れる) 14、第3課:ドラマを見る(朝鮮語に慣れる) 15、まとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書:李昌圭『韓国語へ旅しよう初級』朝日出版社(宇大生協で販売)		
成績評価の方法/Evaluation	毎回の授業課題(60%)と期末試験(40%)の成績を総合して評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	★初回の授業にはなるべく出席するようにしましょう。 ★朝鮮語を確実にマスターしたいと思う学生は、併設されている『朝鮮語基礎Ⅰ』も一緒に受講してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	朝鮮語基礎Ⅳ/Basic Korean Ⅳ		
担当教員(所属)/Instructor	佐々木 史郎(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G760456
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	佐々木 史郎(sasakis@cc.utsunomiya-u.ac.jp 内線5222)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	佐々木 史郎(月曜日 12:10~13:10 峰町5号館A棟(国際学部A棟)2階 佐々木(史)資料室)		
授業の内容/Course Description	前期の『朝鮮語基礎Ⅲ』に引き続き、文字と発音に重点を置きながら基礎文法をマスターします。文法が分かっていくにつれて基礎的な韓国語の文章の構造が理解でき、自己紹介や簡単な会話ができるようになります。12月頃には韓国の留学生や韓流スターに韓国語でクリスマスカードや年賀状、e-mailを書くことができます。		
授業の達成目標/Course Goals	初級文法をマスターし、ハングル検定試験5級(韓国語検定試験1級)合格を目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育関係の初習外国語系科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	前期の『朝鮮語基礎Ⅰ』『朝鮮語基礎Ⅲ』を修了している者を対象とします。		
関連科目/Related Courses	前期の『朝鮮語基礎Ⅰ』『朝鮮語基礎Ⅲ』を修了している者を対象とします。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	1. 毎回、授業で学習した文法事項と表現を、トレーニング・ペーパーと聞き取り練習を通して理解・確認し、確実に力がつけるようにしていきます。 2. よく出てくる語彙の意味とその背後に広がる韓国文化の特徴や、また最近の日本における韓流現象と韓国における日流現象についても解説を行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1、ガイダンス:前期の確認 2、第12課 3、第13課 4、第14課 5、第15課 6、第16課:小テスト 7、第17課 8、第18課 9、第19課 10、第20課 11、第21課:小テスト 12、第22課 13、第23課 14、第24課 15、総まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書:李昌圭『韓国語へ旅しよう初級』朝日出版社(宇大生協で販売)		
成績評価の方法/Evaluation	毎回の授業課題(60%)と期末試験(40%)の成績を総合して評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	前期の『朝鮮語基礎Ⅲ』に比べて覚える文法事項や単語、表現が多く、授業もやや速くなります。毎回配布するトレーニング・ペーパーを欠かさず行うようにしましょう。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	朝鮮語応用Ⅰ／Intermediate Korean Ⅰ		
担当教員(所属)／Instructor	筒井 真樹子(国際学部)		
授業種別／Type of Class	演習	時間割コード／Registration Code	G762160
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	筒井 真樹子(授業中にお知らせします。)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	筒井 真樹子(火曜日13:00~14:00(非常勤講師室))		
授業の内容／Course Description	朝鮮語を学び始めて2年目の学習者用に中級の文法を学びます。さまざまな文法を学ぶことによって朝鮮語に慣れ、自信をつけます。言葉を学ぶと同時に韓国の文化や習慣にも触れ、楽しく学びます。		
授業の達成目標／Course Goals	①複雑な会話ができるようになります。 ②複雑な文章が書けるようになります。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	基盤教育関係の初習外国語系科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識／Prerequisites	「朝鮮語基礎Ⅰ」「朝鮮語基礎Ⅱ」「朝鮮語基礎Ⅲ」「朝鮮語基礎Ⅳ」の履修者を対象にします。		
関連科目／Related Courses	「朝鮮語基礎Ⅰ」「朝鮮語基礎Ⅱ」「朝鮮語基礎Ⅲ」「朝鮮語基礎Ⅳ」の履修者を対象にします。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	①少し複雑な文章を読んだり、書いたりします。 ②練習問題をやって応用力をつけます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週 オリエンテーション 第2週 教科書第1課「助詞のまとめ」 第3週 教科書第2課「銀行へ行こうと思います」 第4週 教科書第2課「銀行へ行こうと思います」 第5週 教科書第3課「明日、何をするつもりですか」 第6週 教科書第3課「明日、何をするつもりですか」 第7週 教科書第4課 復習 第8週 教科書第5課「キムチは辛いです」 第9週 教科書第5課「キムチは辛いです」 第10週 教科書第6課「どこで撮った写真ですか」 第11週 教科書第6課「どこで撮った写真ですか」 第12週 教科書第7課「歌を歌いました」 第13週 教科書第8課 復習 第14週 教科書第9課「お金を替えることができますか」 第15週 教科書第9課「お金を替えることができますか」 第16週 期末試験		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書：李昌圭著『やさしく仕組みがわかる 韓国語中級Ⅰ講義ノート』（白帝社）（宇大生協で販売） 参考書：特になし		
成績評価の方法／Evaluation	出席20%、授業への参加態度10%、単語テストの成績20%、期末試験の成績50%で、総合的に評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	1. 他の朝鮮語の科目も併せて取るようにしてください。 2. 授業を休まないようにしてください。 3. 授業に積極的に参加してください。 4. 予習・復習をしてください。 5. 語学上達のコツは「やる気・根気・暗記」の「三つのキ」だということを忘れないでください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	朝鮮語応用Ⅱ / Intermediate Korean Ⅱ		
担当教員(所属) / Instructor	筒井 真樹子(国際学部)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G762265
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 /Tue 7, 火 / Tue 8	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	筒井 真樹子(授業中にお知らせします。)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	筒井 真樹子(火曜日13:00~14:00(非常勤講師室))		
授業の内容 / Course Description	朝鮮語を学び始めて2年目の学習者を対象に、中級の文法を学びます。さまざまな文章を読んだり、書いたり、会話をしたりすることによって朝鮮語に慣れ、自信を深めるようにします。言葉だけではなく、その背景にある韓国の社会や文化についても触れ、楽しく学びます。		
授業の達成目標 / Course Goals	①複雑な会話ができるようになります。 ②複雑な文章が書けるようになります。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	基盤教育関係の初習外国語系科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	「朝鮮語基礎Ⅰ」「朝鮮語基礎Ⅱ」「朝鮮語基礎Ⅲ」「朝鮮語基礎Ⅳ」「朝鮮語応用Ⅰ」の履修者を対象とする。		
関連科目 / Related Courses	「朝鮮語基礎Ⅰ」「朝鮮語基礎Ⅱ」「朝鮮語基礎Ⅲ」「朝鮮語基礎Ⅳ」「朝鮮語応用Ⅰ」の履修者を対象とする。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	①少し複雑な文章を読んだり、書いたりします。 ②練習問題をやって応用力をつけます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週 オリエンテーション 第2週 教科書第10課 「到着したら電話します」 第3週 教科書第10課 「到着したら電話します」 第4週 教科書第11課 「雨が降っているようです」 第5週 教科書第12課 復習 第6週 教科書第13課 「窓が開いています」 第7週 教科書第14課 「写真を撮ってもいいですか」 第8週 教科書第15課 「何時までに行けばいいですか」 第9週 教科書第15課 「何時までに行けばいいですか」 第10週 教科書第16課 復習 第11週 教科書第17課 「ソウルへ行ったことがありますか」 第12週 教科書第17課 「ソウルへ行ったことがありますか」 第13週 教科書第18課 「心配しないでください」 第14週 教科書第18課 「心配しないでください」 第15週 教科書第20課 復習 第16週 期末試験		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書：李昌圭著『やさしく仕組みがわかる韓国語中級Ⅰ講義ノート』（白帝社）（宇大生協で販売） 参考書：特になし		
成績評価の方法 / Evaluation	出席20%、授業への参加態度10%、単語テストの成績20%、期末試験の成績50%で、総合的に評価します。		
学習上の助言 / Learning Advice	1. 他の朝鮮語の科目も併せて取るようにしてください。 2. 授業を休まないようにしてください。 3. 授業に積極的に参加してください。 4. 予習・復習をするようにしてください。 5. 語学が上達するコツは「やる気・根気・暗記」の「三つのキ」だということを忘れないでください。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	アカデミック・ジャパニーズ／Integrated Academic Japanese		
担当教員(所属)／Instructor	鎌田 美千子(留学生・国際交流センター)		
授業種別／Type of Class	演習	時間割コード／Registration Code	G896001
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	鎌田 美千子(kamada@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	鎌田 美千子(前期：水曜11:30-12:30, 後期：木曜11:30-12:30(研究室))		
授業の内容／Course Description	1年次の留学生を対象に、大学の勉学に必要な日本語能力を総合的に身につけます。大学生生活を想定した種々の日本語運用場面を取り上げるとともに、学術的な場面での話し言葉と書き言葉の違いについても学び、日本語能力の向上を図ります。		
授業の達成目標／Course Goals	大学での専門的な勉学の基本となる日本語能力の習得を目指します。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	基盤教育留学生日本語科目の達成目標に対応します。		
前提とする知識／Prerequisites	日本語能力試験N1合格程度の日本語能力が必要です。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	毎回、関連のプリントやテキストをもとに進めます。その他にも必要に応じて応用・発展練習を行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 授業ガイダンス 第2回 大学でのコミュニケーション1(質問する) 第3回 大学でのコミュニケーション2(相談する) 第4回 大学でのコミュニケーション3(伝える) 第5回 学術的な表現1(話し言葉と書き言葉) 第6回 学術的な表現2(和語と漢語) 第7回 学術的な表現3(名詞化) 第8回 学術的な表現4(ジャンルによる語の使い分け) 第9回 学術的な表現5(簡潔な表現) 第10回 ノートを文章にまとめる 第11回 論理的・抽象的な内容を聴き取る 第12回 スライドを見ながら内容を聴き取る 第13回 仕組みの説明を聴き取る 第14回 講義を聴き取る 第15回 試験問題の指示や形式を理解する・まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	鎌田美千子・仁科浩美『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク その他は、授業の中で指示します。		
成績評価の方法／Evaluation	授業への取り組み(50%)、課題・期末試験(50%)の結果を総合して評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	授業への積極的な取り組みを期待します。上達へのステップとなるよう大いに力を発揮してください。		
キーワード／Keywords	基盤教育		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	アカデミック・ジャパニーズ／Integrated Academic Japanese		
担当教員(所属)／Instructor	鎌田 美千子(留学生・国際交流センター)		
授業種別／Type of Class	演習	時間割コード／Registration Code	G896004
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 水 /Wed 9, 水/Wed 10	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	鎌田 美千子(kamada@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	鎌田 美千子(前期：水曜11:30-12:30, 後期：木曜11:30-12:30(研究室))		
授業の内容／Course Description	1年次の留学生を対象に、大学の勉学に必要な日本語能力を総合的に身につけます。大学生生活を想定した種々の日本語運用場面を取り上げるとともに、学術的な場面での話し言葉と書き言葉の違いについても学び、日本語能力の向上を図ります。		
授業の達成目標／Course Goals	大学での専門的な勉学の基本となる日本語能力の習得を目指します。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	基盤教育留学生日本語科目の達成目標に対応します。		
前提とする知識／Prerequisites	日本語能力試験N1合格程度の日本語能力が必要です。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	毎回、関連のプリントやテキストをもとに進めます。その他にも必要に応じて応用・発展練習を行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 授業ガイダンス 第2回 大学でのコミュニケーション1(質問する) 第3回 大学でのコミュニケーション2(相談する) 第4回 大学でのコミュニケーション3(伝える) 第5回 学術的な表現1(話し言葉と書き言葉) 第6回 学術的な表現2(和語と漢語) 第7回 学術的な表現3(名詞化) 第8回 学術的な表現4(ジャンルによる語の使い分け) 第9回 学術的な表現5(簡潔な表現) 第10回 ノートを文章にまとめる 第11回 論理的・抽象的な内容を聴き取る 第12回 スライドを見ながら内容を聴き取る 第13回 仕組みの説明を聴き取る 第14回 講義を聴き取る 第15回 試験問題の指示や形式を理解する・まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	鎌田美千子・仁科浩美『アカデミック・ライティングのためのパラフレーズ演習』スリーエーネットワーク その他は、授業の中で指示します。		
成績評価の方法／Evaluation	授業への取り組み(50%)、課題・期末試験(50%)の結果を総合して評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	授業への積極的な取り組みを期待します。上達へのステップとなるよう大いに力を発揮してください。		
キーワード／Keywords	基盤教育		
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日本語アカデミック・リーディングⅠ/Academic Japanese for Reading I		
担当教員(所属)/Instructor	石井 怜子(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G896050
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	石井 怜子(GCG01702@nifty.ne.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	石井 怜子(授業後に対応します。)		
授業の内容/Course Description	本授業では、学部1年次の留学生を対象とした上級レベルの日本語学習として、論説文を読み解く力を養います。また、関連する語彙や文法項目についても取り上げます。		
授業の達成目標/Course Goals	大学学部レベルでの勉学に必要な学術的な文章が読めるようになることを目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育留学生日本語科目の達成目標に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	上級レベル(日本語能力試験N1合格)程度の日本語能力が必要です。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	<ul style="list-style-type: none"> ・前の週までに次週の課題の文章を渡すので、単語調べなどの予習をしてくること。 ・授業では、正確な理解の上立って、相互に討論しながら内容を解釈します。 ・必要に応じ、その日の授業内容に基づいた課題を出します。 ・自分の読んだ文章を他の人に説明する活動を取り入れます。 ・必要に応じ、小テストを行います。 		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 授業概要説明 日本語能力チェック 第2回 正確に読む(1) 定義 第3回 正確に読む(2) 歴史的経過と因果 第4回 正確に読む(3) 制度と仕組み 第5回 正確に読む(4) 理論 第6回 正確に読む(5) 複雑な理論 第7回 正確に読む(6) 調査の方法と結果 第8回 正確に読む(7) 実験の方法と結果 第9回 文章の内容を説明する(1) 準備(内容理解) 第10回 文章の内容を説明する(2) 準備(発表のアウトライン作成) 第11回 文章の内容を説明する(3) 発表 第12回 正確に読む(8) 根拠と結論 第13回 批判的に読む(1) 批判的に読むとは 第14回 批判的に読む(2) 疑問点を見つける 第15回 批判的に読む(3) 内容を評価する		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書・教材は、授業において指示します。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への取り組み(40%)、発表及び課題と小テスト(20%)、期末試験(40%)の結果を総合して評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	目的を持って文章を読み、それを通して学術的な文章を読むための技術を身につけてください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日本語アカデミック・リーディングⅠ/Academic Japanese for Reading I		
担当教員(所属)/Instructor	石井 怜子(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G896053
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 5, 火/Tue 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	石井 怜子(GCG01702@nifty.ne.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	石井 怜子(授業後に対応します。)		
授業の内容/Course Description	本授業では、学部1年次の留学生を対象とした上級レベルの日本語学習として論説文を読み解く力を養います。また、関連する語彙や文法項目についても取り上げます。		
授業の達成目標/Course Goals	大学学部レベルでの勉学に必要な学術的な文章が読めるようになることを目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育留学生日本語科目の達成目標に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	上級レベル(日本語能力試験N1合格)程度の日本語能力が必要です。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	<ul style="list-style-type: none"> ・前の週までに次週の課題の文章を渡すので、単語調べなどの予習をしてくること。 ・授業では、正確な理解の上立って、相互に討論しながら内容を解釈します。 ・必要に応じ、その日の授業内容に基づいた課題を出します。 ・自分の読んだ文章を他の人に説明する活動を取り入れます。 ・必要に応じ、小テストを行います。 		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 授業概要説明 日本語能力チェック 第2回 正確に読む(1) 定義 第3回 正確に読む(2) 歴史的経過と因果 第4回 正確に読む(3) 制度と仕組み 第5回 正確に読む(4) 理論 第6回 正確に読む(5) 複雑な理論 第7回 正確に読む(6) 調査の方法と結果 第8回 正確に読む(7) 実験の方法と結果 第9回 文章の内容を説明する(1) 準備(内容理解) 第10回 文章の内容を説明する(2) 準備(発表のアウトライン作成) 第11回 文章の内容を説明する(3) 発表 第12回 正確に読む(8) 根拠と結論 第13回 批判的に読む(1) 批判的に読むとは 第14回 批判的に読む(2) 疑問点を見つける 第15回 批判的に読む(3) 内容を評価する		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書・教材は、授業において指示します。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への取り組み(40%)、発表及び課題と小テスト(20%)、期末試験(40%)の結果を総合して評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	目的を持って文章を読み、それを通して学術的な文章を読むための技術を身につけてください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日本語アカデミック・ライティング/Academic Japanese for Writing		
担当教員(所属)/Instructor	鎌田 美千子(留学生・国際交流センター)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G896101
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	鎌田 美千子(kamada@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	鎌田 美千子(前期:水曜11:30-12:30, 後期:木曜11:30-12:30(研究室))		
授業の内容/Course Description	大学で書くレポートや論文は、手紙や感想文、作文の文章とは異なり、事実や意見を客観的・論理的に述べる必要があります。この授業では、学術的な文章の書き方と日本語表現を学びます。1年次の留学生を対象にした授業です。		
授業の達成目標/Course Goals	大学で書くレポートや論文に必要な日本語力を身につけることを目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育留学生日本語科目の達成目標に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	日本語能力試験N1合格程度の日本語能力が必要です。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	各回の内容に入る前に、その回の学習の目的とポイントを示します。よく使われる文型・表現を確認した後、モデル文を参考に文章の書き方を学びます。ほぼ毎回の授業の最後に、授業内容に即した課題(400~800字程度)を課します。各回の授業内容によってはペアワークやグループワーク等の活動も取り入れる予定です。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 授業ガイダンス 第2回 レポート・論文に使われる文体・語・表現 第3回 文の基本 第4回 引用 第5回 段落 第6回 仕組みの説明 第7回 歴史的な経過の説明 第8回 分類 第9回 定義 第10回 要約1(基本) 第11回 要約2(応用) 第12回 比較・対照 第13回 論説文 第14回 資料の利用 第15回 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書:二通信子・佐藤不二子『改訂版留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク		
成績評価の方法/Evaluation	授業への取り組み(50%)、課題・期末試験(50%)の結果を総合して評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	各回の課題への取り組みにより着実に力がつきます。大いに力を発揮してください。		
キーワード/Keywords	基盤教育		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日本語アカデミック・ライティング/Academic Japanese for Writing		
担当教員(所属)/Instructor	鎌田 美千子(留学生・国際交流センター)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G896104
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 月 /Mon 7, 月/Mon 8	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	鎌田 美千子(kamada@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	鎌田 美千子(前期:水曜11:30-12:30, 後期:木曜11:30-12:30(研究室))		
授業の内容/Course Description	大学で書くレポートや論文は、手紙や感想文、作文の文章とは異なり、事実や意見を客観的・論理的に述べる必要があります。この授業では、学術的な文章の書き方と日本語表現を学びます。1年次の留学生を対象にした授業です。		
授業の達成目標/Course Goals	大学で書くレポートや論文に必要な日本語力を身につけることを目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育留学生日本語科目の達成目標に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	日本語能力試験N1合格程度の日本語能力が必要です。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	各回の内容に入る前に、その回の学習の目的とポイントを示します。よく使われる文型・表現を確認した後、モデル文を参考に文章の書き方を学びます。ほぼ毎回の授業の最後に、授業内容に即した課題(400~800字程度)を課します。各回の授業内容によってはペアワークやグループワーク等の活動も取り入れる予定です。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 授業ガイダンス 第2回 レポート・論文に使われる文体・語・表現 第3回 文の基本 第4回 引用 第5回 段落 第6回 仕組みの説明 第7回 歴史的な経過の説明 第8回 分類 第9回 定義 第10回 要約1(基本) 第11回 要約2(応用) 第12回 比較・対照 第13回 論述文 第14回 資料の利用 第15回 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書:二通信子・佐藤不二子著『改訂版留学生のための論理的な文章の書き方』スリーエーネットワーク		
成績評価の方法/Evaluation	授業への取り組み(50%)、課題・期末試験(50%)の結果を総合して評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	各回の課題への取り組みにより着実に力がつきます。大いに力を発揮してください。		
キーワード/Keywords	基盤教育		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	日本語アカデミック・リーディングⅡ／Academic Japanese for Reading II		
担当教員(所属)／Instructor	石井 怜子(その他)		
授業種別／Type of Class	演習	時間割コード／Registration Code	G896150
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 5, 水/Wed 6	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	石井 怜子(GCG01702@nifty.ne.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	石井 怜子(授業後に対応します。)		
授業の内容／Course Description	本授業では、大学学部レベルでの専門科目で扱うような専門性の高い文章の読解力を養います。また、レポート・論文の執筆に不可欠な「引用」のための読解についても学びます。関連する語彙や文法項目も取り上げます。		
授業の達成目標／Course Goals	(1) 大学学部レベルでの専門科目に必要な学術的な文章が読めるようになること、 (2) レポート・論文の引用ができるようになるための読解力を身につけることを目指します。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	基盤教育留学生日本語科目の達成目標に対応します。		
前提とする知識／Prerequisites	上級レベル(日本語能力試験N1合格)程度以上の日本語能力が必要です。		
関連科目／Related Courses			
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	<ul style="list-style-type: none"> ・構造が複雑な長文の文章を読み、文章の構成を把握します。発展として、同じテーマに関する複数の文章を読み、両者の共通点と相違点、相違点をもたらしている背景を考えます。 ・自身で能動的に読みに取り組み、相互討論しながら文章の理解を深めることを目指します。 ・自分が読んだ文章を他の人に説明したりレポートにまとめたりする活動を取り入れます。 ・必要に応じて、単語調べなどの予習、その日の学習に関連した課題、小テストを課することがあります。 		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1回 授業概要の説明 読解力チェック 第2回 学術的な文章の構成 第3回 理解に必要な背景知識を探る 第4回 検証型の文章(1) 調査に基づく文章 第5回 検証型の文章(2) 実験に基づく文章 第6回 論証型の文章(1) 構成と論点 第7回 論証型の文章(2) 根拠の構造の把握 第8回 論証型の文章(3) 根拠の前提を探る 第9回 複数の文章を比較検討しながら読む(1) 補完型 第10回 複数の文章を比較検討しながら読む(2) 対立型の論点 第11回 複数の文章を比較検討しながら読む(3) 論点の前提を探る 第12回 複数の文章を比較検討したレポート作成(1) 準備(内容理解) 第13回 複数の文章を比較検討したレポート作成(2) 準備(レポートのアウトライン) 第14回 複数の文章を比較検討したレポート作成(3) レポート作成 第15回 レポートの相互評価		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書・教材は、授業において指示します。		
成績評価の方法／Evaluation	授業への取り組み(35%)、課題および小テスト(35%)、期末試験(30%)の結果を総合して評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	未知の領域の長文であっても、恐れずに読む工夫を自ら積極的にして、またその工夫をお互いに学びあってほしいと思います。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日本語アカデミック・プレゼンテーション/Academic Japanese for Presentation		
担当教員(所属)/Instructor	鎌田 美千子(留学生・国際交流センター)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G896153
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 木 /Thu 7, 木/Thu 8	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	鎌田 美千子(kamada@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	鎌田 美千子(前期:水曜11:30-12:30, 後期:木曜11:30-12:30(研究室))		
授業の内容/Course Description	本授業では、大学のゼミや演習科目での発表場面を想定し、プレゼンテーション全般に必要なとなる日本語表現を総合的に学びます。日本語による文章表現と口頭表現の違いに留意しながら発表練習を行うとともに、発表レジュメやスライド資料の作成に必要な表現形式についても取り上げます。留学生を対象にした授業です。		
授業の達成目標/Course Goals	学術的なプレゼンテーションの場面に必要となる日本語表現が適切に使えるようになることを目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育留学生日本語科目の達成目標に関連します。		
前提とする知識/Prerequisites	上級レベル(日本語能力試験N1合格)以上の日本語能力が必要です。スピーチや討論が日本語のできることを前提に授業を進めます。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	各回の内容のポイントを説明した後、実践的な練習をくり返し行います。発表に向けた発音練習や、日本語表現を身につけるための問題演習も適宜行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 授業ガイダンス 第2回 プレゼンテーションとは 第3回 文章表現と口頭表現の違い 第4回 発表の流れを知る/発表のための基本的な表現を学ぶ 第5回 発表を準備する1(背景説明) 第6回 発表を準備する2(単一のデータの説明と解釈、箇条書き) 第7回 発表を準備する3(複数のデータの説明と解釈、資料の作成) 第8回 発表を準備する4(結論の提示、全体のまとめ、今後の課題) 第9回 質疑応答1(基本) 第10回 質疑応答2(応用) 第11回 発表する1(基本①) 第12回 発表する2(基本②) 第13回 発表する3(実践①) 第14回 発表する4(実践②) 第15回 まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書:犬養康弘『アカデミック・スキルを身につける聴解・発表ワークブック』スリーエーネットワーク 参考書:福沢健他『Practical日本語口頭表現編』おうふう		
成績評価の方法/Evaluation	授業への取り組み(50%)、課題・発表・レポート(50%)の結果を総合して評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	授業への積極的な取り組みを期待します。上達へのステップとなるように大いに力を発揮してください。		
キーワード/Keywords	基盤教育		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	人文社会系のための専門日本語/Academic Japanese for Human Science and Social Science		
担当教員(所属)/Instructor	谷 光生(教育学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G896159
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 1, 月/Mon 2	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	本授業では、人文社会系の分野で必要とされる日本語を総合的に学びます。人文社会に関連するトピックを取り上げ、日本語能力の向上を図ります。		
授業の達成目標/Course Goals	人文社会系留学生在が大学での専門的な勉学・研究に必要な日本語能力を身につけることを目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育留学生日本語科目の達成目標に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	上級レベル(日本語能力試験N1程度)以上の日本語能力を有することを前提に進めます。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	下記の授業計画(予定)にしたがって、授業を進めます。日本語に関して、「聞く・話す・読む・書く」の四つの技能の向上を図ります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>下は予定です。詳細は第1回目の授業で説明します。</p> <p>第1回 授業計画の説明 第2回 作文(自己紹介をしたもの)の検討 第3回 作文(自己紹介をしたもの)の検討(続き) 第4回 日本社会に関連した表現(その1, 日常生活) 第5回 日本社会に関連した表現(その2, 年中行事) 第6回 日本社会に関連した表現(その3, 地理) 第7回 日本社会に関連した表現(その4, 経済) 第8回 文学作品の購読(その1, 古典の名作) 第9回 文学作品の購読(その2, 古典の名作(続き)) 第10回 文学作品の購読(その1, 現代の名作) 第11回 文学作品の購読(その2, 現代の名作(続き)) 第12回 共通もしくは個別のテーマによる作文に向けて 第13回 共通もしくは個別のテーマによる作文のための議論 第14回 作文に対する講評 第15回 まとめと振り返り</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書はありません。こちらでハンドアウトを用意します。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への取り組み(60%)と課題(40%)を総合して評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	積極的に授業に参加して下さい。授業中の質問は大歓迎です。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	日本事情/Things Japanese		
担当教員(所属)/Instructor	バーバラ・モリソン(国際学部), バーバラ モリソン(国際学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G897040
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	This is a hands-on course through which we will be experiencing Japan. Be prepared to engage yourselves fully with Japanese culture.		
授業の達成目標/Course Goals	1. 日本の自然、社会・文化を概観し、2. 日本人の信念、感性、美観を理解して、3. 日本と日本人の特異性、伝統、奥義を体感する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	Students will begin to understand the ways in which culture constructs identity as well as the means whereby culture uses identity formation to inscribe specific world views in the process of building literacy with regard to Japanese culture.		
前提とする知識/Prerequisites	日本・日本人に興味があること。		
関連科目/Related Courses	日本・日本人に興味があること。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	The objective of this course is for students explore identity formation in the context of Japanese culture primarily through education and the arts. Students will participate in a series of experiences which include - but are not limited to - Tochigi Prefectural Office (県庁), brush-writing (書道), tea ceremony (茶道), Ashikaga (足利), Mashiko (益子) among others. Students will be asked to reflect on their experiences in the context of identity formation by producing a series of written assignments regarding their experiences as we explore what it means to be 'Japanese.'		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	Week 1: Introductions and Expectations Week 2: Tochigi Prefectural Office (県庁) Week 3: Brush-writing (書道) Week 4: Classroom Week 5: Ashikaga School (足利学校) Week 6: Classroom Week 7: Tea Ceremony (茶道) Week 8: Classroom Week 9: Classroom Week 10: Mashiko (益子) Week 11: Classroom Week 12: Nikko (日光) Week 13: Classroom Week 14: Sword Demonstration (現代日本刀考) Week 15: Classroom		
教科書・参考書等/Textbooks	必要に応じてプリントを配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	教室での学習活動をコース全体として総合的に判断する。秀 [100-90]、優 [90-80]、良 [80-70]、可 [70-60]、不可 [60-] で表記する。		
学習上の助言/Learning Advice	日本と日本人の奥義を発見してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	国際英語コミュニケーション／International English Communication		
担当教員(所属)／Instructor	湯澤 伸夫(国際学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G900000
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 後期／Second semester 水 /Wed 9, 水/Wed 10	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	英語を国際的に使用するために必要な知識を、言語学、言語学習、コミュニケーションの観点から学ぶ。学生は毎週テーマ別の発表を行う。授業は英語で行う。		
授業の達成目標／Course Goals	英語について様々な角度から学問的に考える態度を養う。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	言語は人間の重要な文化遺産であり、その理解は文化理解と密接に関連している。		
前提とする知識／Prerequisites	高校までに学習した英語の語彙、発音、文法の知識を前提とする。		
関連科目／Related Courses	高校までに学習した英語の語彙、発音、文法の知識を前提とする。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業計画に基づき、言語学、言語学習、コミュニケーションの観点から英語による講義を行う。学生は与えられたテーマに関する発表を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	Week 1: Orientation Week 2: Four Language Skills and Language Learning Strategies Week 3: World Englishes Week 4: Foreign Language Teaching and Languages in the US Week 5: British English Week 6: Bilingualism and Regional Varieties of Language Week 7: American English Week 8: Regional Varieties of Language Week 9: Varieties of English Week 10: Gender and Language Week 11: English Intonation Week 12: Cross-Cultural Communication Week 13: Learning English Week 14: First and Second Language Acquisition Week 15: Summary		
教科書・参考書等／Textbooks	特になし。毎回プリントを使用する。		
成績評価の方法／Evaluation	エッセー、小テスト、期末試験による。		
学習上の助言／Learning Advice	将来、国際社会で活躍するためにも、英語を日々学習し、インプット量を増やすことが大切です。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ語基礎Ⅲ/Basic German III		
担当教員(所属)/Instructor	渡邊 直樹(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G900101
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	渡邊 直樹(naokiw@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	渡邊 直樹(水曜日13時~14時)		
授業の内容/Course Description	1年次生対象科目としての「ドイツ語基礎Ⅲ」です。大学入学前にドイツ語を学習したことがない初習者を対象にドイツ語の「読む」「書く」「話す」「聴く」基礎的能力を養うことが目的です。ドイツ語圏諸国の学生生活や人々の日常生活がわかりやすい教材を使用します。後期開講の「ドイツ語基礎Ⅳ」とともに履修してください。		
授業の達成目標/Course Goals	前期・後期を合わせ1年間のドイツ語学習により基本文法の理解や簡単な会話、文章の読み書きができるようになることを目標とします。ドイツ語圏諸国の文化・社会について基礎的情報を合わせてお話しします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」を履修した学生、および「ドイツ語基礎Ⅲ、Ⅳ」を専門導入科目として履修した国際学部学生のために2年次に少しレベルアップした「ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ」が開講されています。春と秋に実施されているドイツ語技能検定試験によるドイツ語能力の資格取得を目指します。		
前提とする知識/Prerequisites	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」(前・後期)を履修することにより、基礎的ドイツ語力が身に付きます。「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」(前・後期)も並行して履修することによりドイツ語能力をさらに深化させることができます。国際学部学生は「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」「ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ」をワンセットとして修得することによりドイツ語力がかなり向上します。留学の基礎的準備が整います。		
関連科目/Related Courses	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」(前・後期)を履修することにより、基礎的ドイツ語力が身に付きます。「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」(前・後期)も並行して履修することによりドイツ語能力をさらに深化させることができます。国際学部学生は「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」「ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ」をワンセットとして修得することによりドイツ語力がかなり向上します。留学の基礎的準備が整います。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	文法事項の理解と簡単な文章の理解、挨拶などの簡単な会話を練習問題を中心に学びます。「ドイツ語」の基礎的能力の修得を目指します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 授業の説明 第2週 アルファベットと発音 第3週 動詞の現在人称変化(1) 第4週 動詞の現在人称変化(2) 第5週 名詞の性と格変化(1) 第6週 名詞の性と格変化(2) 第7週 人称代名詞 第8週 前置詞の各支配 第9週 名詞の複数形 第10週 所有代名詞 第11週 冠詞類の格変化 第12週 形容詞の格変化(1) 第13週 形容詞の格変化(2) 第14週 命令形 第15週 まとめ 第16週 期末試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：最初の時間に紹介します。宇都宮大学生協で販売予定です。 参考書：特にありません。要望があれば個別に紹介します。ただし、独和辞典は必携。 補助教材：必要に応じて、プリント等で配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	出席点(積極性、自主性、協力等を含む)50点と期末試験等の試験50点、計100点満点とし、80点以上の者に「優」、70点以上「良」、60点以上「可」を与えます。また、90点以上で特に優れた者には「秀」を与えることもあります。		
学習上の助言/Learning Advice	外国語は一朝一夕に身に付くものではありません。予習・復習を心がけてください。外国語の修得には根気が大切です。忍耐力と外国に対する興味が旺盛な人の積極的な参加を期待します。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	ドイツ語基礎Ⅳ/Basic German IV		
担当教員(所属)/Instructor	渡邊 直樹(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G900111
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	渡邊 直樹(naoki@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	渡邊 直樹(水曜日13時~14時)		
授業の内容/Course Description	「ドイツ語基礎Ⅳ」は「ドイツ語基礎Ⅲ」(前期)の継続的科目であり、教科書および授業方法は「ドイツ語Ⅲ」と同様です。また、「ドイツ語Ⅱ」も履修をお薦めします。週に4時間1年間ドイツ語を学修することによりドイツ語の基礎的能力が確実に身に付きます。		
授業の達成目標/Course Goals	1年間のドイツ語学修により基本文法の理解や簡単な会話、文章の読み書きができるようになることを目標とします。また、ドイツ語圏諸国の文化・社会について基礎情報を得ることを目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」あるいは「ドイツ語Ⅲ・Ⅳ」を専門導入科目として履修した国際学部学生のために、少しレベルアップした「ドイツ語応用Ⅰ・Ⅱ」が開講されています。留学を志望する学生の皆さんは是非履修してください。		
前提とする知識/Prerequisites	前期「ドイツ語基礎Ⅰ」「ドイツ語基礎Ⅲ」および後期「ドイツ語基礎Ⅱ」「ドイツ語基礎Ⅳ」を履修してほしい。国際学部学生は「ドイツ語基礎Ⅰ~Ⅳ」をワンセットとして学修することによりドイツ語能力のさらなる深化が期待できます。		
関連科目/Related Courses	前期「ドイツ語基礎Ⅰ」「ドイツ語基礎Ⅲ」および後期「ドイツ語基礎Ⅱ」「ドイツ語基礎Ⅳ」が関連します。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	「ドイツ語基礎Ⅲ」と同様に、文法事項の理解と読解、簡単な会話を練習問題中心に学びます。「ドイツ語基礎Ⅲ」の成果をさらに深めることを目指します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	【授業計画】 第1週 複合動詞 (1) 第2週 複合動詞 (2) 第3週 再帰表現 第4週 話法の助動詞 第5週 動詞の三基本形 (1) 第6週 動詞の三基本形 (2) 第7週 完了形 第8週 受動文 第9週 関係文 第10週 接続法 第11週 zu不定詞 第12週 比較表現 第13週 接続詞 第14週 まとめ (1) 第15週 まとめ (2) 第16週 期末試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：最初の時間に紹介します。宇都宮大学生協で販売予定です。 参考書：特にありません。要望があれば個別に紹介します。ただし、独和辞典は必携。 補助教材：必要に応じて、プリント等で配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	出席点(積極性、自主性、協力等を含む)50点と期末試験等の試験50点、計100点満点とし、80点以上の者に「優」、70点以上「良」、60点以上「可」を与えます。また、90点以上で、特に優れた者には「秀」を与えることもあります。		
学習上の助言/Learning Advice	外国語は一朝一夕には修得できません。外国語の修得には根気が大切です。とにかく何でも覚えてやろうという意欲の持ち主、またドイツ語圏諸国に対する興味が旺盛な人の積極的な参加を期待します。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ語応用Ⅰ/Intermediate German Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	渡邊 直樹(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G900121
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 3, 金/Fri 4	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	渡邊 直樹(naokiw@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	渡邊 直樹(水曜日13時~14時)		
授業の内容/Course Description	ドイツ語の基礎的能力の向上およびドイツ語の実践的表現力を養います。		
授業の達成目標/Course Goals	ドイツ語の実践を意識しつつ、「読み」「聴く」「話す」「書く」能力の向上を目指します。ドイツの大学へ留学するための基礎的準備を整えます。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	ドイツ語を学修することは、日本語を勉強することでもあり、コミュニケーションの方法を身に付けることでもあり、教養を深めることでもあります。留学のための基礎的準備、ドイツ語技能検定試験の受験準備に役立つ授業内容とします。		
前提とする知識/Prerequisites	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」あるいは「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」の履修を前提します。		
関連科目/Related Courses	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」あるいは「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」の履修を前提します		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	ドイツ語の「読み」「書き」「聴く」「話す」能力のさらなる向上が目標です。ドイツ語技能検定試験4級を受験できる能力の獲得を目標とします。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	ドイツ語基礎を踏まえ、「読み」「書き」「話す」「聴く」総合的能力の向上を目指します。ドイツ語技能検定試験用のテキストを活用し、ドイツ語能力を基礎から応用へと高めていきます。 第1週 ガイダンス 第2週~第8週 ドイツ語技能検定試験5級およびその応用問題。 第9週~第15週 ドイツ語技能検定試験4級及びその他応用問題。 第16週試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書等使用する場合は、授業の開始時に紹介することとします。また、過去の問題のプリントを用意します。		
成績評価の方法/Evaluation	出席点(積極性、自主性、協力等を含む)50点と期末試験等の試験50点、計100点満点とし、80点以上の者に「優」、70点以上「良」、60点以上「可」を与えます。また、90点以上で、特に優れた者には「秀」を与えることもあります。		
学習上の助言/Learning Advice	外国語は一朝一夕には修得できません。外国語の修得には根気が大切です。とにかく何でも覚えてやろうという意欲の持ち主、またドイツ語圏諸国に対する興味が旺盛な人の積極的な参加を期待します。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	ドイツ語応用Ⅱ/Intermediate German Ⅱ		
担当教員(所属)/Instructor	渡邊 直樹(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G900131
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 3, 金/Fri 4	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	渡邊 直樹(naokiw@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	渡邊 直樹(水曜日13時~14時)		
授業の内容/Course Description	ドイツ語の基礎的知識について復習しつつ実践的ドイツ語のトレーニングをします。		
授業の達成目標/Course Goals	ドイツ語の中級レベルの能力の獲得に努めます。ドイツ語技能検定試験4級・3級の受験資格および合格を目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	ドイツ語能力の向上のみならず、ドイツ語の学修を通して広くドイツ語圏の文化・社会についての知識を深化させることも目標とします。また、ドイツの大学へ留学するためのドイツ語能力の涵養に努めます。		
前提とする知識/Prerequisites	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」、「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」、「ドイツ語応用Ⅰ」の履修を前提します。		
関連科目/Related Courses	「ドイツ語基礎Ⅰ・Ⅱ」、「ドイツ語基礎Ⅲ・Ⅳ」、「ドイツ語応用Ⅰ」が関連する。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	ドイツ語技能検定試験の4級あるいは3級の受験資格が得られるようドイツ語能力の向上に努めます。過去問題等を活用して実践力を養います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	ドイツ語技能検定試験の過去問題を活用して総合的なドイツ語能力を養います。 第1週 ガイダンス 第2週 ~ 第8週 検定試験4級の問題とその他応用問題を解答します。 第9週 ~ 第15週 検定試験3級の問題とその他応用問題を解答します。 第16週 期末試験		
教科書・参考書等/Textbooks	授業の開始時に紹介します。適宜プリントを配布し、教材とします。		
成績評価の方法/Evaluation	出席点(積極性、自主性、協力等を含む)50点と期末試験等の試験50点、計100点満点とし、80点以上の者に「優」、70点以上「良」、60点以上「可」を与えます。また、90点以上で、特に優れた者には「秀」を与えることもあります。		
学習上の助言/Learning Advice	外国語は一朝一夕には修得できません。外国語の修得には根気が大切です。ドイツ語圏諸国に対する好奇心と興味が旺盛な人の積極的な参加を期待します。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	フランス語基礎Ⅲ / Basic French III		
担当教員(所属) / Instructor	大野 斉子(国際学部)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G900200
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 金 / Fri 5, 金 / Fri 6	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	大野 斉子(tokiko@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	大野 斉子(月曜日 12:00-12:40 (メールにて要予約))		
授業の内容 / Course Description	フランス語を初めて学ぶ人を対象に、基本的なフランス語の会話表現を学びます。またそのために必要なフランス語文法の学習を並行して進めます。		
授業の達成目標 / Course Goals	挨拶、自己紹介や数量の表現など、日常の様々なシチュエーションに応じた表現を習得します。発音練習や聞き取りを通じフランス語の表現に親しみ、フランス語の基礎文法の習得を目指します。また、専門課程をより深く学ぶための語学力・表現力を磨きます。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	基盤教育(国際学部)の達成目標、「読む」・「書く」・「話す」・「聴く」の基礎的能力を養うとともに、当該国(フランス)・地域の社会・文化に対する関心を喚起し、その基礎的理解を涵養すること」に相当します。		
前提とする知識 / Prerequisites	英語・その他のヨーロッパ諸語の学習経験があることが望ましいです。		
関連科目 / Related Courses	基盤教育で開講される他のフランス語科目をできるだけ一緒に履修してください。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	教科書と音声教材を使って進めます。 文法事項やスキットの解説の後、会話練習を行います。 受講者は毎回、必ず予習をしてきてください。 授業の最初に小テストを行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週ガイダンスアルファベと発音 第2-3週自己紹介をする?treの直説法現在形、主語人称代名詞、名詞の性と数 第4-5週知っているもの、存在するものを言う不定冠詞、定冠詞、Avoirの直説法現在形 第6-7週人物を形容する、家族について話す第一群規則動詞の活用、指示形容詞、所有形容詞、品質形容詞 第8-9週予定を聞く・言う第二群規則動詞の活用、不規則動詞(faireとprendre)の活用、部分冠詞、疑問文の作り方 第10-11週最近のことを話す、目的地・出身地を言うAllerとvenirの活用、前置詞の縮約、近接未来、近接過去 第12-13週希望を聞く・言う、天気や時刻を聞く・言うPouvoirとvouloirの活用、疑問形容詞、非人称構文 第14-15週一日の予定を立てる人称代名詞(直接目的・間接目的・強勢形)		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書: ミシェル・サガズ、福田美雪、中里まき子『デビュー! フランス語初級』朝日出版社、2300円 辞書: 『クラウン仏和辞典』(三省堂)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『デュコ仏和辞典』(白水社)		
成績評価の方法 / Evaluation	期末試験70パーセント、小テスト30パーセント		
学習上の助言 / Learning Advice	外国語に親しむ一番の近道は辞書を引くことです。動詞の活用を覚えるのも大事ですが、辞書を引いて、まずはフランス語の豊かな世界を楽しみましょう。教科書で疑問点にぶつかったらまず辞書を引く習慣を身につけましょう。		
キーワード / Keywords	フランス語、基礎		
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス語基礎Ⅳ/Basic French Ⅳ		
担当教員(所属)/Instructor	大野 斉子(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G900210
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	大野 斉子(tokiko@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	大野 斉子(月曜日 12:00-12:40 (メールにて要予約))		
授業の内容/Course Description	フランス語を初めて学ぶ人を対象に、基本的なフランス語の会話表現を学びます。またそのために必要なフランス語文法の学習を並行して進めます。		
授業の達成目標/Course Goals	挨拶、自己紹介や数量の表現など、日常の様々なシチュエーションに応じた表現を習得します。発音練習や聞き取りを通じフランス語の表現に親しむこと、またそれに対応したフランス語の基礎文法の習得を目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育(国際学部)の達成目標、「読む」・「書く」・「話す」・「聴く」の基礎的能力を養うとともに、当該国(フランス)・地域の社会・文化に対する関心を喚起し、その基礎的理解を涵養すること」に相当します。		
前提とする知識/Prerequisites	英語・その他のヨーロッパ諸語の学習経験があることが望ましいです。		
関連科目/Related Courses	基盤教育で開講される他のフランス語科目をできるだけ一緒に履修してください。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	教科書と音声教材を使って進めます。文法事項やスキットの解説の後、会話練習を行います。受講者は毎回、必ず予習をしてきてください。授業の最初に小テストを行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週前期の復習まとめ1 第2週人を誘う、強く勧める非人称構文 第3週人を誘う、強く勧める命令法 第4週日常の行動を言う代名動詞 第5週日常の行動を言う関係代名詞 第6週過去のことを話す(1)過去形 第7週過去のことを話す(1)複合過去 第8週過去のことを話す(2)半過去 第9週過去のことを話す(2)受動態 第10週経験や希望を聞く中性代名詞 第11週経験や希望を聞く比較級、最上級 第12週経験や希望を聞く比較級、最上級 第13週未来のことを話す現在分詞 第14週まとめ2語彙のまとめ、時の表現 第15週後期の復習		
教科書・参考書等/Textbooks	ミシェル・サガズ、福田美雪、中里まき子著 『D?but !』(朝日出版社)		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験70パーセント、小テスト30パーセント		
学習上の助言/Learning Advice	語学はその言葉が好きであればあるほど上達します。フランスやフランス語に興味を持って、楽しく取り組みましょう。		
キーワード/Keywords	フランス語、基礎		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	フランス語応用Ⅰ / Intermediate French Ⅰ		
担当教員(所属) / Instructor	田口 卓臣(国際学部)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G900220
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 火 /Tue 1, 火 / Tue 2	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	田口 卓臣(taguchi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	田口 卓臣(火曜日12:00~12:50)		
授業の内容 / Course Description	この授業は、フランス語の基礎知識を持つ者を対象とします。講義は原則としてフランス語で行います。教科書などの会話シーンをもとに、日常的な場面におけるフランス語の基本的な表現を学びます。会話のまね、聞き取り、自己紹介など、履修者の積極的な参加を求める授業です。		
授業の達成目標 / Course Goals	フランス語の基礎的な文法を確認しながら、フランス語による意思表示のための基礎的な力を習得します。フランス語講読との同時履修によって、1年を通して、フランス語検定試験3級に合格できるだけの実力を身につけてもらいます。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	この授業は、宇都宮大学基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。また、専門導入科目としては、国際学部の教育目標(C)の特に「上記の事柄に必要な外国語(…)」に習熟する」に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳを修了していること。また、できるだけフランス語講読を同時に履修すること。国際学部専門科目「フランス語会話」(集中講義)の履修を予定している者は、必ずこの授業を履修したうえで夏休み前に特別指導を受けること。		
関連科目 / Related Courses	フランス語基礎Ⅰ・Ⅱ・Ⅲ・Ⅳ、フランス語会話。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	①フランス語で講義する(受講者が理解できているかどうか、そのつど確認する)②CDを聴いて、会話の流れをつかみます。③CDにしたがって発音をまねてみます。④文法事項を確認し、辞書を引きながら練習問題を解きます。⑤教科書を参考にしながら自分独自の会話文をつくってみます。⑥3~4回に1回の割合でフランスのシャンソンを鑑賞し、そのなかの会話の聞き取りの練習を行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	1. 授業についての説明。 2. 1課: 数字 3. 1課: 名詞の性と数 4. 2課: 挨拶 5. 2課: 自己紹介 6. シャンソンの聞き取り① 7. 3課: 国籍 8. 3課: 年齢、住所 9. 4課: 職業 10. 4課: 疑問文 11. シャンソンの聞き取り② 12. 5課: 好き嫌い 13. 5課: 代名動詞 14. 6課: 食べ物、飲み物 15. シャンソンの聞き取り③		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書: ベルトラン・ソゼド、細貝健司『ヴォカル コミュニケーションのためのフランス語』アシェット・ジャボン/フヴエール出版、1800円。辞書: 『クラウン仏和辞典』(三省堂)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『デイコ仏和辞典』(白水社)参考書: 『仏検公式問題集3級』(フランス語教育振興協会)		
成績評価の方法 / Evaluation	期末試験(70%)、小テスト(20%)、受講態度(10%)		
学習上の助言 / Learning Advice	フランス語での講義は、最初はついてくるのが辛いかもしれませんが、みなさんが理解できているかどうかをそのつどチェックしながら進めていくので安心してください。		
キーワード / Keywords	フランス語、日常会話、基礎文法		
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	フランス語応用Ⅱ / Intermediate French Ⅱ		
担当教員(所属) / Instructor	田口 卓臣(国際学部)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G900230
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 / Tue 1, 火 / Tue 2	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	田口 卓臣(taguchi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	田口 卓臣(火曜日12:00~12:50)		
授業の内容 / Course Description	フランス語応用Ⅰの修了者を対象とする授業です。前期にひきつづき、講義は原則としてフランス語で行います。教科書や映画などの会話のシーンをもとに、日常的な場面におけるフランス語の基本的な表現を学びます。会話のまね、聞き取り、自己紹介など、履修者の積極的な参加を求める授業です。		
授業の達成目標 / Course Goals	前期にひきつづき、フランス語の基礎的な文法を確認しながら、フランス語による意思表示のための基礎的な力を習得します。フランス語講読との同時履修によって、後期の終了時点で、フランス語検定試験3級に合格できるだけの実力を身につけてもらいます。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	この授業は、宇都宮大学基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。また、専門導入科目としては、国際学部の教育目標(C)の特に「上記の事柄に必要な外国語(…)」に習熟する」に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	前期にフランス語応用Ⅰを修了していること。また、できるだけフランス語講読を同時に履修すること。		
関連科目 / Related Courses	フランス語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ。フランス語応用Ⅰ。フランス語会話		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	①フランス語で講義する(受講者が理解できているかどうか、そのつど確認する)②CDを聴いて、会話の流れをつかみます。③CDにしたがって発音をまねてみます。④文法事項を確認し、辞書を引きながら練習問題を解きます。⑤教科書を参考にしながら自分独自の会話文をつくってみます。⑥4~5回に1回の割合でフランス映画を鑑賞し、そのなかの会話の聞き取りの練習を行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	1. 前期のテストの返却と解説。前期の内容の復習。 2. 6課:理由 3. 7課:時間、食事 4. 8課:ものの位置 5. 9課:家族の紹介 6. 映画の会話の聞き取り①(「パリ空港の人々」) 7. 9課:数字(100まで) 8. 10課:過去 9. 11課:服装、色、体の部位 10. 12課: 11. 映画の会話の聞き取り②(「髪結いの亭主」) 12. 13課:余暇、数字100から1000まで 13. 14課:スケジュール、授業 14. 15課:道を尋ねる、教える 15. 全体の総括		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書:ベルトラン・ソゼド、細貝健司『ヴォカル コミュニケーションのためのフランス語』アシェット・ジャポン/フウヴェール出版、1800円。辞書:『クラウン仏和辞典』(三省堂)、『プチ・ロワイヤル仏和辞典』(旺文社)、『ディコ仏和辞典』(白水社)。参考書:『仏検公式問題集3級』(フランス語教育振興協会)		
成績評価の方法 / Evaluation	期末試験(70%)、小テスト(20%)、受講態度(10%)		
学習上の助言 / Learning Advice	フランス語での講義は、ついてくるのが辛いかもしれませんが。みなさんが理解できているかどうかをそのつどチェックしながら進めていくので安心してください。		
キーワード / Keywords	フランス語、日常会話、基礎文法		
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	スペイン語基礎Ⅲ / Basic Spanish III		
担当教員(所属) / Instructor	飯田 敏彦(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G900301
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 前期 / First semester 火 /Tue 7, 火 / Tue 8	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	飯田 敏彦(toiida2222@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	飯田 敏彦(授業の前後にコンタクトをとること)		
授業の内容 / Course Description	テキストの各レッスンには7~8行程度の短い会話文があります。まず主な会話表現について、それぞれの意味と使い方を確認します。必要に応じて文法的な解説を行ったのち、会話文に関する応用問題、動詞活用の練習問題などを解いていきます。反復練習が必要な場合には、プリントを使って補足練習したり、受講生どうしが向き合って会話練習したりします。		
授業の達成目標 / Course Goals	やさしいスペイン語の発話能力と語彙力を養うことを目的に授業を進めます。最大の目標は、基本動詞を正確に活用させて使えるようにすることです。これに加えて、本授業では語彙力を養うことも重要な課題になります。会話のテーマに沿った語彙の用意がないと、ごかつたんな会話でさえ成り立ちませんので、単語レベル、あるいは語句レベルでの準備をしつかりと行った上で、平易な文章を正確に作る練習を行います。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	国際学部的一年生でスペイン語を選択する方は、当科目に並行してスペイン語基礎Ⅰを今学期に履修してください。他の学部の学生で、初めてスペイン語を履修する方は、まずスペイン語基礎Ⅰを履修するか、この基礎Ⅰと当科目を同時に履修してください。図書館にある文法解説書を手取るなどして基礎文法を確認し、各レッスンを予習する意欲のある人ならば、参加していただけます。学習意欲のある人で、本科目だけ履修したいという方は、授業担当者に相談してみてください。		
前提とする知識 / Prerequisites	英語と同じヨーロッパの言語ですから、スペイン語を学ぶためには、英語の知識やヨーロッパ諸国の文化に関する知識が役立ちます。スペイン語の学習経験、あるいはスペイン語圏への留学・滞在経験のある方、検定試験などの資格を取得済みの方は、担当者にその旨を伝えてください。		
関連科目 / Related Courses	英語と同じヨーロッパの言語ですから、スペイン語を学ぶためには、英語の知識やヨーロッパ諸国の文化に関する知識が役立ちます。スペイン語の学習経験、あるいはスペイン語圏への留学・滞在経験のある方、検定試験などの資格を取得済みの方は、担当者にその旨を伝えてください。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	教室ではテキストの録音テープを再生して会話文や例文、練習問題の解答例などの発音を聞き、発音練習します。続けて、会話表現、単語・語句について意味と用法の確認を行います。この際に、必要に応じてかつたんな文法説明を加えます。さらには、テキストにある会話の応用問題、各種の練習問題を通じて、理解度の確認を行い、文章作成の力を養うとともに知識の定着に努めます。プリントを使って補足的な練習をしたり、受講生どうしが向き合って会話練習を繰り返したりすることもあります。最後には、授業担当者からの質問に口頭で答えるか、まとめの問題に答えて提出してもらいます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の説明、アルファベットと発音、色々な単語を読む、単語を聞き取る、単語のつづりを言う 2. アクセントの位置、あいさつの言葉、人を紹介する、疑問符と感嘆符、 3. 動詞serを用いて、国籍・職業を説明する、動詞 llamarse を使って名前をたずねる 4. 動詞vivir を使って、どこに住んでいるのかをたずねる、復習の練習問題 5. 動詞hay を用いて、「モノがある、ヒトがいる」と表現、所有を表わす動詞 tener (持つ) 6. ser de を用いて、出身地をたずね、出身地を説明する、動詞 estar を使って、どこにいるのかをたずねる 7. 曜日や時刻をたずね、曜日や時刻を言う、復習の練習問題 8. hay とestar の使い分け、名詞とともに形容詞を使う、モノの色をたずねる 9. モノやヒトの性質や状態を説明する → 形容詞をserとestar の補語として使う、復習の練習問題 10. 規則活用動詞の desayunar, comer, escribirなどを活用させて使う、「いっしょに食事しようか?」など 11. 一人で住んでいます、近くに住んでいます、友達に手紙を書く、復習の練習問題 12. 動詞 tener の基本的な用法 → 授業がある、兄弟がいる、~しなければならぬ 13. 君の電話番号は? 100までの数詞、疑問詞 cuál、年齢をたずねる 14. 誕生日はいつですか? → 曜日、日付の表現 → 色々な動詞と組み合わせる 15. 復習の練習問題 		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書: 木村琢也・泉水浩隆・高澤美由紀著『コンティーンゴ! 1』第三書房(定価2,300円+税)をテキストとして使用します。生協書籍部で購入してください。スペイン語の辞書: 辞書は必携です。長く使える辞書として、『クラウン西和辞典』三省堂(定価4,700円)、『プエルタ新スペイン語辞典』研究社(定価4,700円)、『西和辞典(第2版)』小学館(定価6,930円)を推奨します。その他、『プログレッシブ・スペイン語辞典』小学館(定価3,500円)、あるいは『現代スペイン語辞典』白水社(定価4,200円)は使いやすい、本科目の勉強レベルでは十分な内容を持っています。しかし、応用科目や講読の授業のレベルでは、「役不足」は認めません。電子辞書に収められている辞書は、ほとんどが前掲の白水社のもので、参考書については、必要に応じて教室で指示します。		

成績評価の方法／Evaluation	2回の小テスト（50％）および期末試験（50％）の結果に基づいて評価します。欠席回数が授業回数の3分の1を超えると、評価のマイナス要因となるので、きちんと出席してください。詳細は、初回授業の際に説明します。
学習上の助言／Learning Advice	教室では、恥ずかしがらずに大きな声で発音し、積極的に授業に参加してください。この授業では、簡単な文型でいいですから、スペインで表現する力をつけることが目標になります。基本的な知識は、確実に自分のものにしていく姿勢が求められます。辞書の助けを借りながら、文章の意味を確認するとともに、各種の練習を教室で楽しめるならば、長足の進歩は間違いなしです。高いレベルを目指すためには、予習・復習が欠かせません。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	スペイン語基礎Ⅳ/Basic Spanish IV		
担当教員(所属)/Instructor	飯田 敏彦(その他)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G900311
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	飯田 敏彦(toiida2222@yahoo.co.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	飯田 敏彦(授業の前後にコンタクトをとること)		
授業の内容/Course Description	テキストの各レッスンには7~8行程度の短い会話文があります。まず主な会話表現について、それぞれの意味と使い方を確認します。必要に応じて文法的な解説を行ったのち、会話文に関する応用問題、動詞活用の練習問題などを解いていきます。発音練習・反復練習が必要な場合には、受講生どうしが向き合って会話練習を行います。		
授業の達成目標/Course Goals	やさしいスペイン語の発音能力と語彙力を養うことを目的に授業を進めます。最大の目標は、基本動詞を正確に活用させて使えるようにすることです。これに加えて、本授業では語彙力を養うことも重要な課題になります。会話のテーマに沿った語彙の用意がないと、ごくかんたんな会話でさえ成り立ちませんので、単語レベル、あるいは語句レベルでの準備をしっかりと行った上で、平易な文章を正確に作る練習を行います。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	当科目を履修できるのは、これまで初級スペイン語を学んだ経験がある方、あるいは本学で前期開講のスペイン語基礎科目の単位を取得した方に限られます。スペイン語技能検定試験などの資格試験に合格している方は、担当者に相談してください。		
前提とする知識/Prerequisites	英語文法の知識に加えて、初歩的なスペイン語文法の知識が必要になります。スペイン語の辞書は必携です。		
関連科目/Related Courses	英語文法の知識に加えて、初歩的なスペイン語文法の知識が必要になります。スペイン語の辞書は必携です。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	教室ではテキストの録音テープを再生して会話文や例文、練習問題の解答例などの発音を聞き、発音練習します。続けて、会話表現、単語・語句について意味と用法の確認を行います。この際に、必要に応じてかんたんな文法説明を加えます。さらには、テキストにある会話の応用問題、各種の練習問題を通じて、理解度の確認を行い、知識の定着に努めます。プリントを使って補足的な練習をしたり、受講生どうしが向き合って会話練習を繰り返したりすることもあります。最後には、授業担当者からの質問に口頭で答えるか、まとめの問題に答えて提出してもらいます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 授業の説明、レストランでの会話、直接目的格人称代名詞とともに動詞 esperar と llevar を使う 2. レストランで料理を注文する、3人称の直接目的格人称代名詞、動詞 invitar 3. 語根母音変化動詞 querer を用いて、レストランで飲み物を注文する、querer + 不定詞、動詞 pedir 4. 動詞 pagar、poder を使って飲食代金を支払う、動詞 jugar の用法、復習の練習問題 5. 動詞 ir(行く)と venir(来る)を使った表現、意味がよく似た動詞 saber と conocer を使い分ける 6. 間接目的格人称代名詞とともに動詞 dar を使う → 「あげます」と「もらえますか?」 7. 動詞 regalar、前置詞格人称代名詞、復習の練習問題 8. 趣味や好みをたずねる → gustar, encantar, interesar, doler の用法 9. 2種類の人称代名詞を同時に使って表現する、動詞 hacer の3人称単数形を使った天候の表現 10. 「半年前からスペイン語を勉強しています」→ 時間の経過を表す hace、復習の練習問題 11. 動詞 salir、poner、traer、今日の午後・明日の朝・毎朝などの表現を使う 12. 動詞 decir(言う)、oír(聞く)、ver(見る)の用法 → 「よく聞こえませんか」 13. 無人称の hay que → 「～しなければならない」、tener que+不定詞、deber + 不定詞 14. 再帰動詞 levantarse、acostarse の活用と用法 15. 復習の練習問題、再帰動詞 lavarse、ponerse を使う 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書： 木村琢也・泉水浩隆・高澤美由紀著『コンティエーゴ! 1』第三書房(定価2,300円+税)をテキストとして使用します。生協書籍部で購入してください。スペイン語の辞書： 辞書は必携です。長く使える辞書として、『クラウン西和辞典』三省堂(定価4,700円)、『ペルタ新スペイン語辞典』研究社(定価4,700円)、『西和中辞典(第2版)』小学館(定価6,930円)を推奨します。その他、『プログレッシブ・スペイン語辞典』小学館(定価3,500円)、あるいは『現代スペイン語辞典』白水社(定価4,200円)は使いやすく、本科目の勉強レベルでは十分な内容を持っています。しかし、応用科目や講読の授業のレベルでは、「役不足」は否めません。電子辞書に収められている辞書は、ほとんどが前掲の白水社のものです。参考書については、必要に応じて教室で指示します。		
成績評価の方法/Evaluation	2回の小テスト(50%)および期末試験(50%)の結果に基づいて評価します。欠席回数が授業回数の3分の1を超えると、評価のマイナス要因となるので、きちんと出席してください。詳細は、初回授業の際に説明します。		
学習上の助言/Learning Advice	スペイン語入門Ⅰに続いて、スペイン語の表現練習をしましょう。教室では失敗を恐れずに大きな声で発音し、積極的に授業に参加するようにしてください。動詞だけのリストの作成、名詞、形容詞などの単語帳の作成をお勧めします。		
キーワード/Keywords			

授業科目名(英文名) /Course Title	スペイン語応用Ⅰ/Intermediate Spanish Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	スエヨシ アナ(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G900321
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	スエヨシ アナ(sueyoshi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	スエヨシ アナ(金曜日 8:50~10:20 メールや電話で予め連絡すれば、随時受け付けます。)		
授業の内容/Course Description	スペイン語圏への留学、旅行、就職など、日常生活の場面に応じた簡単に短い実用的な文章を読み、日常的な会話ができるように練習します。		
授業の達成目標/Course Goals	スペイン語応用Ⅰとスペイン語Ⅱを1年間受講することにより、毎年春、秋に行われるスペイン語検定試験の入門レベル(6~4級)か外国語としてのスペイン語検定試験(A1~A2)に合格できるような実力を養成します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本演習は専門導入科目であり、スペイン語圏地域について関心がある学生、あるいはスペイン語を学習したい学生を対象とします。		
前提とする知識/Prerequisites	スペイン語基礎Ⅰ スペイン語基礎ⅠⅠ スペイン語基礎ⅠⅠⅠ スペイン語基礎ⅠⅤ		
関連科目/Related Courses	スペイン語基礎Ⅰ スペイン語基礎ⅠⅠ スペイン語基礎ⅠⅠⅠ スペイン語基礎ⅠⅤ		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業では標準スペイン語を教える予定ですが、スペイン語は20か国以上の国々で話されている言語なので、国によって言葉使いが違います。よって、できるだけスペインとラテンアメリカの国々の様々な言語の異なる点を教えることにより、ラテンアメリカにおける特定の文化や国に興味がある学生が自分の関心のある地域におけるスペイン語の知見を得られるようにします。スペイン語を楽しく学習できるように文法を勉強しながら、その文法に関連づけて、スペインとラテンアメリカ文化を紹介します。このシラバスは授業の進捗状況(学生の理解状況)によって、調節のため学期内で変更する場合があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週授業の説明、発音、アルファベット、基本的な構文、名前、国籍 第2週挨拶、自己紹介、職業、電話番号、年齢、誕生日、祝日、女性名詞と男性名詞、単数名詞と複数名詞、冠詞 第3週住まいを描写、理想的な町、男性名詞と女性名詞、Ser動詞とEstar動詞 第4週Hay動詞vsEstar動詞、好き、行き方を聞く、前置詞 第5週時間の管理、時差、何時から何時まで、約束、再起動詞 第6週レジャー、断る、言い訳、頻度、出来る動詞 第7週中間まとめ 第8週食事、食べ物、注文、好き、嫌い 第9週レストランで、不規則動詞 第10週人・家族を描写、性格・外見の形容詞 第11週誰の、意見の表現 第12週気候、天気、買い物、直接目的語 第13週プレゼントをかう、服の色、形、素材、Muy vs. Mucho 第14週季節、似合う 第15週まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書+ワークブック: Rodríguez Martín, José Ramón y Miguel Angel García Guerra 著 「META ELE A1 Libro del alumno+Cuaderno de ejercicios+CD (メタ・エレ A1 教科書・ワークブック・CD付き) Curso de español de supervivencia」 Edelsa 出版社。定価2,450円(消費税込み)宇都宮大学生協で販売。授業の進行状況によって作成したプリントを使用。フラッシュカード、CD音楽、DVD映画、和西・西和辞書を使用。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加(積極性)(10%)、演習課題(30%)と学期末試験(60%)の結果を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	楽しくスペイン語を勉強しましょう。Nos vemos en clase.		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	スペイン語応用Ⅱ/Intermediate Spanish II		
担当教員(所属)/Instructor	スエヨシ アナ(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G900331
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	スエヨシ アナ(sueyoshi@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	スエヨシ アナ(金曜日 8:50~10:20 メールや電話で予め連絡すれば、随時受け付けます。)		
授業の内容/Course Description	スペイン語圏への留学、旅行、就職など、日常生活の場面に応じた簡単で短い実用的な文章を読み、日常的な会話ができるように練習します。		
授業の達成目標/Course Goals	スペイン語を楽しく学習できるように文法を勉強しながら、その文法について、スペインとラテンアメリカ文化を紹介する。毎年春、秋に行われるスペイン語技能検定試験の入門レベル(6~4級)か外国語としてのスペイン語検定試験(A1~A2)に合格できるような実力を養成します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本演習は国際学部の専門導入語科目であり、スペイン語圏地域について関心がある学生、あるいはスペイン語を学習したい学生を対象とします。		
前提とする知識/Prerequisites	スペイン語応用Ⅰ履修済みの学生を対象とします。		
関連科目/Related Courses	スペイン語応用Ⅰ履修済みの学生を対象とします。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業では標準スペイン語を教える予定ですが、スペイン語は20か国以上の国々で話されている言語なので、国によって言葉使いが違います。よって、できるだけスペインとラテンアメリカの国々の様々な言語の異なる点を教えることにより、ラテンアメリカにおける特定の文化や国に興味がある学生が自分の関心のある地域におけるスペイン語の知見を得られるようにします。このシラバスは授業の進捗状況(学生の理解状況)によって、調節のため学期内で変更する場合があります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週授業の進め方を説明、スペイン語応用Aのまとめ 第2週予約、ホテルで、情報を聞く、不規則動詞、前置詞 第3週お土産、習慣、誰の、場所の関係副詞 第4週計画、提案、現在完了 第5週比較、交渉、近い未来 第6週健康、診察、お薦め、命令 第7週中間まとめ 第8週情報を得る、情報手段、頻度、意見を言う 第9週インターネット、点過去 第10週就職活動、手紙を書く、履歴書、menteの副詞 第11週通信手段、現在分詞、線過去 第12週電話・携帯についての語彙 第13週同時に、過去について描写、点過去・線過去 第14週現在完了・点過去・線過去のまとめ 第15週まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書+ワークブック:Rodriguez Martín, José Ramón y Miguel Angel García Guerra 著「META ELE A1 Libro del alumno+Cuaderno de ejercicios+CD(メタ・エレ A1 教科書・ワークブック・CD付き) Curso de español de supervivencia」Edelsa 出版社。定価2,450円(消費税込み)宇都宮大学生協で販売。授業の進行状況によって作成したプリントを使用。フラッシュカード、CD音楽、DVD映画、和西・西和辞書を使用。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加(積極性)(10%)、演習課題(30%)と学期末試験(60%)の結果を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	楽しくスペイン語を勉強しましょう。Nos vemos en clase.		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中国語基礎Ⅲ/Basic Chinese III		
担当教員(所属)/Instructor	松金 公正(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G900400
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松金 公正(電話028-649-5216 電子メール matskane@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松金 公正(木曜日1~2時限、松金資料室(5号館A棟3階))		
授業の内容/Course Description	本授業は、はじめて中国語を学習する学生が正確な発音や基本文型の使い方を習得することを目的とした入門の講義です。現代中国語のやさしくかつ基本的な重要文法事項について解説を加えるのはもちろん、とくに基礎的会話能力醸成を重視します。このため、日本人の中国語学習者がもっとも苦手とする発音の訓練、及び日常的に使用する頻度の高い語彙の習得を授業の中心に据えることとなります。		
授業の達成目標/Course Goals	受講者には、本授業の受講後、中国語学習を進めていく上での基礎的知識を身につけていること、中国語学習の準備が完了していることを要求します。また、後期に開講される中国語入門基礎Ⅱとあわせ一年の学習を経た後、基礎的会話能力や聴解力を具備することを要求します(中国語検定准4級レベル)。また、テキスト学習の合間に近年の中国事情紹介も行う予定ですので、中国語という言葉だけではなく、その言葉が使用されている中国社会に興味をもってもらえればと思います。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	現代社会に必要なリテラシーとしての中国語学習を進めていく上での基礎知識を身につけるとともに、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけることを目的とし、異文化理解のひとつとして、言語学習を通じた中国理解にいかなる技能や能力、前提となる知識が必要であるかを理解させる。		
前提とする知識/Prerequisites	前提とする知識はありません。 なお、国際学部の学生で中国語を選択する学生は、当科目に並行して必ず中国語基礎Ⅰを今学期履修するようにしてください。また、後期は中国語基礎Ⅱと中国語基礎Ⅳを並行して履修するようにしてください。		
関連科目/Related Courses	前提とする知識はありません。 なお、国際学部の学生で中国語を選択する学生は、当科目に並行して必ず中国語基礎Ⅰを今学期履修するようにしてください。また、後期は中国語基礎Ⅱと中国語基礎Ⅳを並行して履修するようにしてください。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	1. 中国語上達のポイントは発音及び聴解力にあるため、カセットやCDなどを利用して繰り返し練習し、中国語を「聞く」「話す」習慣を身につけます。 2. 授業においては、「カルタもどき」などのゲームを取り入れたいと考えているので、積極的な姿勢で演習に参加してください。 3. 日本の漢字とは異なる簡体字、繁体字の表記を学習することにより、日本語、中国語間の文化的差異について理解を深める一助とします。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	演習形式。 発音練習に時間をかけて進めます。 毎回、はじめの20分間は、前回の授業で学習した単語や短文を課題として覚えてきてもらい、「聴写」という確認小テストを行います。出席はその小テストを回収することによりとります。 第1回 ガイダンス、中国語とは何か？ 第2回 発音 (1) 声調と短母音 第3回 発音 (2) 子音+短母音 第4回 発音 (3) 複合母音 第5回 発音 (4) 鼻母音 第6回 発音 (5) 発音の確認テスト 第7回 数詞、指示代名詞、人称代名詞 第8回 「是」を用いる文、形容詞述語文 第9回 疑問詞疑問文、名詞の修飾語 第10回 所有を表す「有」 第11回 名量詞、お金の数え方 第12回 反復疑問文 第13回 存在文、動詞の重ね型 第14回 「想」の用法 第15回 復習 第16回 期末試験 *なお、これに加えて中国の人物や地名、及び最近の社会の様子についても解説を加えます。そのため、その分量により、文法事項の説明は変更される可能性があります。		
教科書・参考書等/Textbooks	三浦正道ほか『たのしく話そう中国語』朝日出版社、2、100円(税別) *購入方法は最初の授業で説明します。		

成績評価の方法／Evaluation	期末考査の成績（80％）に加え、授業参加の積極性や小テスト（「聴写」）の結果（20％）も加味して、総合的に評価します。
学習上の助言／Learning Advice	入門期における発音のレッスンは中国語のマスターにおいてとても重要な意味をもっていますので、付属のCDなどを利用して必ず予習・復習をしてください。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) / Course Title	中国語基礎Ⅳ / Basic Chinese Ⅳ		
担当教員(所属) / Instructor	松金 公正(国際学部)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G900410
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 木 / Thu 3, 木 / Thu 4	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	松金 公正(電話028-649-5216 電子メール matskane@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	松金 公正(木曜日1~2時限、松金資料室(5号館A棟3階))		
授業の内容 / Course Description	本授業は、中国語基礎Ⅰ及びⅢを履修した学生が正確な発音や基本文型の使い方を習得することを目的とした入門の講義です。現代中国語のやさしくかつ基本的な重要文法事項について解説を加えるのはもちろん、とくに基礎的会話能力醸成を重視します。このため、日本人の中国語学習者がもっとも苦手とする発音の訓練、及び日常的に使用する頻度の高い語彙の習得を授業の中心に据えることとなります。		
授業の達成目標 / Course Goals	受講者には、前期に開講される中国語基礎Ⅲと合わせて一年の学習を経た後、挨拶や教室用語、日常生活で用いるような平易な中国語を聞き、話すことができるなど、中国語の基礎をマスターして欲しいと思います(中国語検定准4級レベル)。具体的には、簡体字とピンインを筆記でき、中日辞典を自力で引け、辞書があれば簡単な文章を読むことができ、日常生活での常用語500~1000語を使った単文の日本語訳と日本語の中国語訳ができるようになることを要求します。 また、テキスト学習の合間に近年の中国事情紹介も行う予定ですので、中国語という言葉だけではなく、その言葉が使用されている中国社会に興味をもってもらえればと思います。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	現代社会に必要なリテラシーとしての中国語学習を進めていく上での基礎知識を身につけるとともに、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけることを目的とし、異文化理解のひとつとして、言語学習を通じた中国理解にいかなる技能や能力、前提となる知識が必要であることを理解させる。		
前提とする知識 / Prerequisites	国際学部学生で中国語を選択する学生は、本科目を受講する前に必ず前期開講の中国語基礎Ⅰ、Ⅲを受講し、当科目に平行して必ず中国語基礎Ⅱを今年度履修してください。		
関連科目 / Related Courses	国際学部学生で中国語を選択する学生は、本科目を受講する前に必ず前期開講の中国語基礎Ⅰ、Ⅲを受講し、当科目に平行して必ず中国語基礎Ⅱを今年度履修してください。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	1. 中国語上達のポイントは発音及び聴解力にあるため、カセットやCDなどを利用して繰り返し練習し、中国語を「聞く」「話す」習慣を身につけます。 2. 授業においては、「カルタもどき」などのゲームを取り入れたいと考えているので、積極的な姿勢で演習に参加してください。 3. 日本の漢字とは異なる簡体字、繁体字の表記を学習することにより、日本語、中国語間の文化的差異について理解を深める一助とします。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	演習形式。 発音練習に時間をかけて進めます。 毎回、はじめの20分間は、前回の授業で学習した単語や短文を課題として覚えてきてもらい、「聴写」という確認小テストを行います。出席はその小テストを回収することによりとります。 第1回 ガイダンス、中国語入門基礎Ⅰの内容の復習 第2回 所在文、方位詞、時刻と時間量 第3回 選択疑問文 第4回 日付の言い方 第5回 AからBまで 第6回 「就」の二つの用法 第7回 確認テスト 第8回 アスペクト助詞「了」 第9回 ふたつの「できる」(「会」と「能」) 第10回 動詞の修飾語 第11回 「可以」の用法、「了」の使い方 第12回 結果補語 第13回 「~したことがある」(経験) 第14回 「~しているところ」(進行) 第15回 確認と復習 第16回 期末試験 *なお、これに加えて、受講者の学習レベルによって最近の社会の様子についても解説を加えます。そのため、その分量により、文法事項の説明は変更される可能性があります。		
教科書・参考書等 / Textbooks	前期「中国語基礎Ⅲ」で使用した三浦正道ほか『たのしく話そう中国語』朝日出版社、2,100円(税別)を使用します。		
成績評価の方法 / Evaluation	期末考査の成績(80%)に加え、授業参加の積極性や小テスト(「聴写」)の結果(20%)も加味して総合的に判定します。		

学習上の助言／Learning Advice	入門期における発音のレッスンは中国語のマスターにおいてとても重要な意味をもっていますので、付属のCDなどを利用して必ず予習・復習をしてください。
キーワード／Keywords	
備考／Notes	

授業科目名(英文名) ／Course Title	中国語応用Ⅰ／Intermediate Chinese Ⅰ		
担当教員(所属)／Instructor	景 慧(その他)		
授業種別／Type of Class	演習	時間割コード／Registration Code	G900420
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数／Credits	1単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact	景 慧(hj13415@gmail.com)		
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours	景 慧(事前の申し込みで時間を決める。)		
授業の内容／Course Description	中国語基礎Ⅰ～Ⅳを履修し、中国語の発音、初級文法を一通り習得した学習者を対象に、初歩文法を復習しながら、中級中国語への橋渡しをする授業です。		
授業の達成目標／Course Goals	文法を復習した上で、語彙や日常会話表現を増やし、表現力を高め、更に読解力を向上させることを目標とします。また、後期に開講される中国語応用Ⅱとあわせ、一年の学習を経た後、一定の会話能力や聴解力を具備することを要求します(中国語検定4級レベル)。また、テキスト学習の合間に近年の中国事情紹介も行う予定ですので、中国語という言葉だけではなく、その言葉が使用されている中国社会に興味をもってもらえればと思います。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	大学に入学する以前、学んだ経験のない中国語の学習を通じ、「読む」、「書く」、「話す」、「聴く」ことについての基礎的能力を養うとともに、東アジアや中国の文化への興味を喚起し、理解を深め、地域的な視野を踏まえた幅広く深い教養と豊かな人間性を醸成します。また、語学学習を通じた自律的な大学での学びの基礎づくりを行い、現代社会に必要なリテラシーを身につけさせます。		
前提とする知識／Prerequisites	中国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを習得していること。		
関連科目／Related Courses	中国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳを習得していること。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	新しい語彙や文法事項を覚えることは勿論ですが、それより一年間履修した内容を再度学び直し完全に自分のものとして自由に表現できることに重点をおきます。読む、会話する、聞く、といった作業はどの時間においてもたっぷり行います。下記の授業計画通りにテキストに沿って進めますが、状況次第で変更することがあります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<p>第一回 中国人の朝ご飯(方向補語について)</p> <p>第二回 注文のやり取り(「了」の復習)</p> <p>第三回 タクシを呼ぶ(結果補語について)</p> <p>第四回 中国の交通事情(「会」、「能」、「可以」の復習)</p> <p>第五回 映画に誘う(兼語文について)</p> <p>第六回 中国の娯楽事情(兼語文の応用)</p> <p>第七回 A A制とA B制(受け身表現)</p> <p>第八回 食事に誘う(受身身表現の応用、「?」の復習)</p> <p>第九回 中間復習</p> <p>第十回 病院にて(「是・・・的」について)</p> <p>第十一回 中国の病院事情(「是・・・的」の応用)</p> <p>第十二回 中国の季節(比較表現)</p> <p>第十三回 ネットショッピング(「一点儿」、「一会儿」、「一下」)</p> <p>第十四回 中国のネットショッピング事情(「想」の復習)</p> <p>第十五回 総合復習、纏め。</p>		
教科書・参考書等／Textbooks	『中国語への道——浅きより深きへ——準中級編』(金星堂)		
成績評価の方法／Evaluation	定期試験80%、平常試験20%。		
学習上の助言／Learning Advice	テキストはどの課も会話文とそれとペアを成す短文があります。暗誦が表現力の向上に極めて有効でありますので、50字前後の短文を二月に一つ暗記するよう、心がけてください。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	中国語応用Ⅱ / Intermediate Chinese II		
担当教員(所属) / Instructor	金 英花(基盤教育)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G900430
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 /Tue 7, 火 / Tue 8	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	金 英花(電話 : 028-649-5178 メール : kimyh@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	金 英花((水)16:30~17:30(研究室、5号館A棟1階))		
授業の内容 / Course Description	中国語応用Ⅰを履修した学習者を対象に、中級中国語への橋渡しをする授業である。		
授業の達成目標 / Course Goals	中国語で基本的な会話ができることを目標とする。特に、話す、聞く力を身につけることを重視する。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	中国語の基礎能力を養うとともに、中国文化へ興味を喚起し、中国地域に対する理解を深め、視野を広げる。		
前提とする知識 / Prerequisites	中国語基礎Ⅰ、Ⅱ、Ⅲ、Ⅳ、 中国語応用Ⅰを取得していること。または、同等の中国語の能力を持つこと。		
関連科目 / Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	毎回の授業で、新しく出てきた文法、表現、フレーズを中心にスタートし、単語習得、文章全体の理解の順に授業を進める。繰り返し練習、復習、応用演習することで自分の言葉になれるように定着させる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	*テキストに沿って進めるが、前期の進度などにより、内容の前後の変更の可能性あり。 第1回 前期内容の復習、後期授業の進め方、 第2回 「乗男」、「乗女」とは (怎么、才) 第3回 同上 (着、了) 第4回 「大学生のアルバイト」事情 (一…就、～在、有～) 第5回 同上 (離合詞、除了～以外、要～了) 第6回 「感謝の習慣」 (再、又、只有～才) 第7回 同上 (二重目的語、動作量の表し方) 第8回 中間復習、中間テスト 第9回 「若者の就職」 (考、倍数と割引の表現) 第10回 同上 各種職業 (却、存現文) 第11回 「月光族」とは (可能補語、結果補語、方向補語) 第12回 同上 流行語：～族 (会、只要～就、疑問詞) 第13回 「海外で中国語に」 (いろいろな前置詞、文による目的語) 第14回 同上 (竟然) 第15回 総まとめと復習		
教科書・参考書等 / Textbooks	『中国語への道：浅きより深きへ 準中級編』(金星堂)		
成績評価の方法 / Evaluation	定期試験80%、平常小テスト&授業参加20%		
学習上の助言 / Learning Advice	語学は「繰り返し練習」と「良い文章表現の丸暗記」が表現力の向上につながる近道である。テキストの各課の50字前後の「短文」を暗記できるように心がける。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes	言葉を学ぶとは、新しい文化を学ぶということ、その文化を支える価値観や習慣も身に付けることでもある。		

授業科目名(英文名) /Course Title	タイ語基礎Ⅲ/Basic Thai III		
担当教員(所属)/Instructor	マリー・ケオマノータム(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G900501
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	マリー・ケオマノータム(malee@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	マリー・ケオマノータム(木曜日・金曜日12:05~12:45)		
授業の内容/Course Description	初めてタイ語を学ぶ受講者を対象に、タイ語の文字、単語の構成要素である子音、母音、声調規則を学び、読み書きでき、また正確に発音できるように訓練します。また、初歩の基本文法を学習することにより、簡単な文章の読解力を養います。		
授業の達成目標/Course Goals	タイ語の読みかたの規則を短期間で理解し、正確に読む力と発音を身につけることを目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	とくにありませんが、短期間でタイ語の読解力を身につけるために、併設の「タイ語基礎I」と進行をあわせ、その内容をもとに、発音と文字の練習を反復的にするので、「タイ語基礎I」と並行して受講するようにしてください。		
関連科目/Related Courses	とくにありませんが、短期間でタイ語の読解力を身につけるために、併設の「タイ語基礎I」と進行をあわせ、その内容をもとに、発音と文字の練習を反復的にするので、「タイ語基礎I」と並行して受講するようにしてください。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	テキストにもとづいて、タイ語の読み書きを反復練習するとともに、基本文法を少しずつ覚えていきます。毎時間の予習・復習が重要です。授業のはじめには、前回学習した内容の小テストを行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス:授業の内容、進め方等の説明 2. 子音について 3. 長母音について 4. 短母音について 5. 重母音について 6. 声調の規則(1) 7. 声調の規則(2) 8. 〈SVO型〉の語順、修飾関係(1) 9. 時制、述語としての形容詞 10. 修飾関係(2) 11. 修飾関係(3) 12. 《経験》と《意志》の助動詞 13. 《所有》と《存在》の動詞 14. 動詞連続 15. まとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書:野津幸治・佐藤博史・宮本マラシー『タイ語読解力養成講座』めこん、2,800円(税別)		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験(60%)と出席状況・授業態度・小テスト(40%)によって評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	初習外国語のため、難しいと感じるかもしれませんが、文字書きと発音の規則(ルール)がはっきりしているので、以外と簡単!必要なのは、あなたの挑戦と積極性です。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	タイ語基礎Ⅳ/Basic Thai Ⅳ		
担当教員(所属)/Instructor	マリー・ケオマノータム(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G900511
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	マリー・ケオマノータム(malee@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	マリー・ケオマノータム(木曜日・金曜日12:05~12:45)		
授業の内容/Course Description	「タイ語基礎Ⅰ」「タイ語基礎Ⅲ」を受講した学生を対象に、引き続きタイ語の表現や基本文法を学びます。タイ語の正確な発音を訓練するとともに、初級程度の文章の読解力と作文力を養成します。		
授業の達成目標/Course Goals	タイ語の初級基本文法を正確に理解し、読解力および作文力を身につけることを目標とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この授業は、基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	「タイ語基礎Ⅰ」および「タイ語基礎Ⅲ」を履修済みであること。		
関連科目/Related Courses	「タイ語基礎Ⅰ」および「タイ語基礎Ⅲ」を履修済みであること。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	「タイ語基礎Ⅲ」のテキストを引き続き学習します。タイ語の読み書きを反復練習するとともに、より複雑な基本文法を覚えていきます。毎時間の予習・復習が重要です。授業のはじまりには、前回学習した内容の小テストを行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 接続詞、文末詞、命令文 2. 「～してきた」、「～してみる」 3. 因果関係文、「若干の～」 4. 希望・願望の表現、「ほとんど～」 5. 推量の表現、受身の表現 6. 「～のあと」、「～とわかる」 7. 時刻・時間の表現、否定詞 8. 指示代名詞、「しかし」 9. 引用の表現、「～すべき」 10. 「～したばかり」、「～であればあるほど～」 11. 依頼の表現、関係代名詞 12. 可能の表現、「完了」の助動詞 13. 義務・必要の表現、形容詞・動詞の名詞化 14. 条件・仮定の表現、「たとえ～ても」 15. まとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：野津幸治・佐藤博史・宮本マラシー『タイ語読解力養成講座』めこん、2,800円(税別)		
成績評価の方法/Evaluation	期末試験(60%)と出席状況・授業態度・小テスト(40%)によって評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	日頃からタイ語の文章に親しむようにしてください。初習外国語のため、難しいと感じているかもしれませんが、単語や表現を積極的に覚えると読み書く力が着実に付いてきます。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	タイ語応用Ⅱ / Intermediate Thai Ⅱ		
担当教員(所属) / Instructor	泉田 スジダ(その他)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G900531
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 / Tue 7, 火 / Tue 8	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可 (出願前面談有)		
連絡先 (研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	泉田 スジダ(電話 : 090-4050-7929 e-mail : sujindai@hotmail.com)		
オフィスアワー (自由質問時間) / Office Hours	泉田 スジダ(水曜日の12時から12時45分 非常勤控え室)		
授業の内容 / Course Description	タイ語の aspekto、助動詞、モダリティ、とさまざまな接続詞などの中級程度の文法を学びます。		
授業の達成目標 / Course Goals	1. 中級程度の文章を読解できるようになる。 2. 習得した表現や文法を用いてより複雑な作文や訳文ができるようになる。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	この授業は、基盤教育の教育目標1「現代社会に必要なリテラシー、幅広く深い教養と豊かな人間性を身につけるための教養教育を行います」に対応します。また、国際学部の外国語科目の教育目標「世界の各地域とその文化を現地の言語でより深く理解するための基礎学力を養成する」に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	「タイ語入門Ⅰ」、「タイ語入門Ⅱ」および「タイ語応用Ⅰ」を履修済みであること。		
関連科目 / Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	毎回新しい文型を学びます。また文型の例文を通して文法の理解につなげるとともに、新しい単語の取得を目指します。毎回、学生が習った文型を使って自分で文章を作って、先生と会話形式で学習します。毎回の宿題でもっと理解していきます。		
授業計画 (授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	1. 基礎のこと復習 2. 教科書の第34課 3. 第35課 4. 第36課 5. 第37課 6. 第37課 7. 第40か 8. 中間テスト 9. 第41課 10. 第41課 11. 第44課 12. 第44課 13. 第45課 14. 第46課 15. 復習とまとめ		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書 : 三上直光著『タイ語の基礎』白水社 2004年 ¥4,300 CD付		
成績評価の方法 / Evaluation	授業への参加状況 15 %、宿題の達成度 15 %、小テスト 15 %、および最終期末試験 55 %		
学習上の助言 / Learning Advice	この講義の中では語彙を豊かにするとともに、より複雑な文型を使って表現することを学びます。たくさんのお話をタイ語で表現できるようになると思います。またタイの社会や文化についても学ぶこととなります。タイ語を通じ異文化にふれることができればいいですね。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	朝鮮語基礎Ⅲ/Basic Korean III		
担当教員(所属)/Instructor	金 英花(基盤教育)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G900600
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	金 英花(電話:028-649-5178 メール:kimyh@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	金 英花((水)16:30~17:30(研究室、5号館A棟1階))		
授業の内容/Course Description	朝鮮語は日本語に最も近い言語です。朝鮮語には日本語と同じく助詞や漢字語、尊敬語などがあるほか、日本語と語順が一致しています。それゆえ、朝鮮語は日本人(日本語は韓国人)にとって最も学習しやすい言語の中の一つとされています。本授業ではその事実を確かめます。そのためには、まず文字(基礎文字24+合成文字16=40文字)と、その発音をしっかりと学びます。1学期終了後には意味は分からなくても地下鉄のハングル表記やk-popの歌手の名前のハングル表記がすらすらと読めます。		
授業の達成目標/Course Goals	朝鮮語学習未経験者を対象に朝鮮語学習に基礎となる文字と発音の習得を目指します。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育関係の初習外国語系科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	問いません。		
関連科目/Related Courses	問いません。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	毎回、副教材のトレーニング・ペーパーを4枚ほど配布して書く練習を行うとともに、毎回の授業の始めに前回習った文字の聞き取りの練習を行います。これを繰り返すことによって、○や□など、記号のように見えていたものが文字として目の前に浮かび上がってきます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1、ガイダンス:朝鮮語ってどんな言語? 2、基本母音:K-popを聞く(朝鮮語に触れる1) 3、基本子音:K-popを聞く(朝鮮語に触れる2) 4、基本子音:韓国のCMソングを聞く(朝鮮語に触れる3) 5、基本子音:韓国の歌曲を聴く(朝鮮語に触れる4) 6、合成子音:韓国の童謡を歌う(朝鮮語を試す) 7、合成子音:韓国の歌曲を歌う(朝鮮語を試す) 8、終声子音:K-popを歌う(朝鮮語を試す) 9、終声子音:K-popを歌う(朝鮮語を試す) 10、連音:ドラマを見る(朝鮮語に慣れる) 11、連音:ドラマを見る(朝鮮語に慣れる) 12、第1課:ドラマを見る(朝鮮語に慣れる) 13、第2課:ドラマを見る(朝鮮語に慣れる) 14、第3課:ドラマを見る(朝鮮語に慣れる) 15、まとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書:李昌圭『韓国語へ旅しよう初級』朝日出版社(宇大生協で販売)		
成績評価の方法/Evaluation	毎回の授業課題(60%)と期末試験(40%)の成績を総合して評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	★初回の授業にはなるべく出席するようにしましょう。 ★朝鮮語を確実にマスターしたいと思う方は、併設されている『朝鮮語基礎Ⅰ』も一緒に受講してください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	朝鮮語基礎Ⅳ / Basic Korean IV		
担当教員(所属) / Instructor	佐々木 史郎(国際学部)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G900610
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 木 / Thu 3, 木 / Thu 4	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可 (出願前面談有)		
連絡先 (研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	佐々木 史郎(sasakis@cc.utsunomiya-u.ac.jp 内線5222)		
オフィスアワー (自由質問時間) / Office Hours	佐々木 史郎(月曜日 12:10~13:10 峰町5号館A棟(国際学部A棟)2階 佐々木(史)資料室)		
授業の内容 / Course Description	前期の『朝鮮語基礎Ⅲ』に引き続き、文字と発音に重点を置きながら基礎文法をマスターします。文法が分かっていくにつれて基礎的な朝鮮語の文章の構造が理解でき、自己紹介や簡単な会話ができるようになります。12月頃には韓国の留学生や韓流スターに韓国語でクリスマスカードや年賀状、e-mailを書くことができます。		
授業の達成目標 / Course Goals	初級文法をマスターし、ハングル検定試験5級(韓国語検定試験1級)合格を目指します。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	基盤教育関係の初習外国系科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	前期の『朝鮮語基礎Ⅰ』『朝鮮語基礎Ⅲ』を修了している者を対象とします。		
関連科目 / Related Courses	前期の『朝鮮語基礎Ⅰ』『朝鮮語基礎Ⅲ』を修了している者を対象とします。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	1. 毎回、授業で学習した文法事項と表現を、トレーニング・ペーパーと聞き取り練習を通して理解・確認し、確実に力をつけるようにしていきます。 2. よく出てくる語彙の意味とその背後に広がる韓国文化の特徴や、また最近の日本における韓流現象と韓国における日流現象についても解説を行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	1、ガイダンス: 前期の確認 2、第12課 3、第13課 4、第14課 5、第15課 6、第16課: 小テスト 7、第17課 8、第18課 9、第19課 10、第20課 11、第21課: 小テスト 12、第22課 13、第23課 14、第24課 15、総まとめ		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書: 李昌圭『韓国語へ旅しよう初級』朝日出版社		
成績評価の方法 / Evaluation	毎回の授業課題(60%)と期末試験(40%)の成績を総合して評価します。		
学習上の助言 / Learning Advice	前期の『朝鮮語基礎Ⅲ』に比べて覚える文法事項や単語、表現が多く、授業もやや速くなります。毎回配布するトレーニング・ペーパーを欠かさず行うようにしましょう。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	朝鮮語応用Ⅰ/Intermediate Korean Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	筒井 真樹子(国際学部)		
授業種別/Type of Class	演習	時間割コード/Registration Code	G900620
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 7, 火/Tue 8	単位数/Credits	1単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	筒井 真樹子(授業中にお知らせします。)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	筒井 真樹子(火曜日13:00~14:00(非常勤講師室))		
授業の内容/Course Description	朝鮮語を学び始めて2年目の学習者用に中級の文法を学びます。さまざまな文法を学ぶことによって朝鮮語に慣れ、自信をつけます。言葉を学ぶと同時に韓国の文化や習慣にも触れ、楽しく学びます。		
授業の達成目標/Course Goals	①複雑な会話ができるようになります。 ②複雑な文章が書けるようになります。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育関係の初習外国語系科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識/Prerequisites	「朝鮮語基礎Ⅰ」「朝鮮語基礎Ⅱ」「朝鮮語基礎Ⅲ」「朝鮮語基礎Ⅳ」の履修者を対象にします。		
関連科目/Related Courses	「朝鮮語基礎Ⅰ」「朝鮮語基礎Ⅱ」「朝鮮語基礎Ⅲ」「朝鮮語基礎Ⅳ」の履修者を対象にします。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	①少し複雑な文章を読んだり、書いたりします。 ②練習問題をやって応用力をつけます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 オリエンテーション 第2週 教科書第1課「助詞のまとめ」 第3週 教科書第2課「銀行へ行こうと思います」 第4週 教科書第2課「銀行へ行こうと思います」 第5週 教科書第3課「明日、何をするつもりですか」 第6週 教科書第3課「明日、何をするつもりですか」 第7週 教科書第4課 復習 第8週 教科書第5課「キムチは辛いです」 第9週 教科書第5課「キムチは辛いです」 第10週 教科書第6課「どこで撮った写真ですか」 第11週 教科書第6課「どこで撮った写真ですか」 第12週 教科書第7課「歌を歌いました」 第13週 教科書第8課 復習 第14週 教科書第9課「お金を替えることができますか」 第15週 教科書第9課「お金を替えることができますか」 第16週 期末試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：李昌圭著『やさしく仕組みがわかる 韓国語中級Ⅰ講義ノート』（白帝社）（宇大生協で販売） 参考書：特になし		
成績評価の方法/Evaluation	出席20%、授業への参加態度10%、単語テストの成績20%、期末試験の成績50%で、総合的に評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	1. 他の朝鮮語の科目も併せて取るようにしてください。 2. 授業を休まないようにしてください。 3. 授業に積極的に参加してください。 4. 予習・復習をしてください。 5. 語学上達のコツは「やる気・根気・暗記」の「三つのキ」だということを忘れないでください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	朝鮮語応用Ⅱ / Intermediate Korean Ⅱ		
担当教員(所属) / Instructor	筒井 真樹子(国際学部)		
授業種別 / Type of Class	演習	時間割コード / Registration Code	G900630
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 火 /Tue 7, 火 / Tue 8	単位数 / Credits	1単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	筒井 真樹子(授業中にお知らせします。)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours	筒井 真樹子(火曜日13:00~14:00(非常勤講師室))		
授業の内容 / Course Description	朝鮮語を学び始めて2年目の学習者を対象に、中級の文法を学びます。さまざまな文章を読んだり、書いたり、会話をしたりすることによって朝鮮語に慣れ、自信を深めるようにします。言葉だけではなく、その背景にある韓国の社会や文化についても触れ、楽しく学びます。		
授業の達成目標 / Course Goals	①複雑な会話ができるようになります。 ②複雑な文章が書けるようになります。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	基盤教育関係の初習外国語系科目の教育目標に対応します。		
前提とする知識 / Prerequisites	「朝鮮語基礎Ⅰ」「朝鮮語基礎Ⅱ」「朝鮮語基礎Ⅲ」「朝鮮語基礎Ⅳ」「朝鮮語応用Ⅰ」の履修者を対象とする。		
関連科目 / Related Courses	「朝鮮語基礎Ⅰ」「朝鮮語基礎Ⅱ」「朝鮮語基礎Ⅲ」「朝鮮語基礎Ⅳ」「朝鮮語応用Ⅰ」の履修者を対象とする。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	①少し複雑な文章を読んだり、書いたりします。 ②練習問題をやって応用力をつけます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1週 オリエンテーション 第2週 教科書第10課 「到着したら電話します」 第3週 教科書第10課 「到着したら電話します」 第4週 教科書第11課 「雨が降っているようです」 第5週 教科書第12課 復習 第6週 教科書第13課 「窓が開いています」 第7週 教科書第14課 「写真を撮ってもいいですか」 第8週 教科書第15課 「何時までに行けばいいですか」 第9週 教科書第15課 「何時までに行けばいいですか」 第10週 教科書第16課 復習 第11週 教科書第17課 「ソウルへ行ったことがありますか」 第12週 教科書第17課 「ソウルへ行ったことがありますか」 第13週 教科書第18課 「心配しないでください」 第14週 教科書第18課 「心配しないでください」 第15週 教科書第20課 復習 第16週 期末試験		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書：李昌圭著『やさしく仕組みがわかる韓国語中級Ⅰ講義ノート』（白帝社）（宇大生協で販売） 参考書：特になし		
成績評価の方法 / Evaluation	出席20%、授業への参加態度10%、単語テストの成績20%、期末試験の成績50%で、総合的に評価します。		
学習上の助言 / Learning Advice	1. 他の朝鮮語の科目も併せて取るようにしてください。 2. 授業を休まないようにしてください。 3. 授業に積極的に参加してください。 4. 予習・復習をするようにしてください。 5. 語学が上達するコツは「やる気・根気・暗記」の「三つのキ」だということを忘れないでください。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	教育原論／Principles of Education		
担当教員(所属)／Instructor	上原 秀一(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	G901000
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	我が国の教育制度を成り立たせている基本的な論理と、その国際的・歴史的な特徴について、基礎的な知識を修得する。		
授業の達成目標／Course Goals	我が国の教育制度を成り立たせている基本的な論理と、その国際的・歴史的な特徴を理解することを到達目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	「基盤教育科目」の教育学部「専門導入科目」の必修科目である。教員免許を取得するための必修科目である。		
前提とする知識／Prerequisites	特になし。高等学校の世界史(近現代史)と公民(「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」)を復習すれば授業内容がよりよく理解できる。		
関連科目／Related Courses	特になし。高等学校の世界史(近現代史)と公民(「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」)を復習すれば授業内容がよりよく理解できる。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	授業計画に従い授業を行う。毎回、小レポートを課す。随時、小レポートに代えて、ノートを回収・評価する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	第1週ガイダンス 第2週教育法規の基本構造 第3週教育基本法の改正1 第4週教育基本法の改正2 第5週教育基本法の改正3 第6週学習指導と生徒指導 第7週諸外国の教育1(初等中等教育) 第8週諸外国の教育2(高等教育) 第9週諸外国の教育3(国際教育統計の読み方・使い方) 第10週近代西洋教育思想史1(学習論:ロックとルソー) 第11週近代西洋教育思想史2(公教育論:コンドルセとルペルチエ) 第12週近代西洋教育思想史3(学校教育論:ヘルバルトとデューイ) 第13週我が国の教育の歴史1(近代学校制度の成立と展開) 第14週我が国の教育の歴史2(大正自由教育) 第15週まとめ		
教科書・参考書等／Textbooks	教科書は、田中智志・橋本美保編『教育の理念・歴史』(一藝社、2013年)。参考書は、必要に応じて指定する。教材は、必要に応じて配布する。		
成績評価の方法／Evaluation	小レポート(42%)と最終試験(58%)で評価する。小レポートと最終試験の合計点が60点以上で「可」、70点以上で「良」、80点以上で「優」、95点以上で「秀」とする。		
学習上の助言／Learning Advice	初回に必ずB5判のノートを用意すること。リングノートは避けること。ルーズリーフやレポート用紙は不可。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	教育原論/Principles of Education		
担当教員(所属)/Instructor	上原 秀一(教育学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	G901015
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 集中/Intensive 他/Oth.	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	我が国の教育制度を成り立たせている基本的な論理と、その国際的・歴史的な特徴について、基礎的な知識を修得する。		
授業の達成目標/Course Goals	我が国の教育制度を成り立たせている基本的な論理と、その国際的・歴史的な特徴を理解することを到達目標とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	「基盤教育科目」の教育学部「専門導入科目」の必修科目である。教員免許を取得するための必修科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし。高等学校の世界史(近現代史)と公民(「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」)を復習すれば授業内容がよりよく理解できる。		
関連科目/Related Courses	特になし。高等学校の世界史(近現代史)と公民(「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」)を復習すれば授業内容がよりよく理解できる。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業計画に従い授業を行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週ガイダンス 第2週教育法規の基本構造 第3週教育基本法の改正1 第4週教育基本法の改正2 第5週教育基本法の改正3 第6週学習指導と生徒指導 第7週諸外国の教育1(初等中等教育) 第8週諸外国の教育2(高等教育) 第9週諸外国の教育3(国際教育統計の読み方・使い方) 第10週近代西洋教育思想史1(学習論:ロックとルソー) 第11週近代西洋教育思想史2(公教育論:コンドルセとルペルチエ) 第12週近代西洋教育思想史3(学校教育論:ヘルバルトとデューイ) 第13週我が国の教育の歴史1(近代学校制度の成立と展開) 第14週我が国の教育の歴史2(大正自由教育) 第15週まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は、田中智志・橋本美保編『教育の理念・歴史』(一藝社、2013年)。参考書は、必要に応じて指定する。教材は、必要に応じて配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	レポートで評価する。レポートの点数が60点以上で「可」、70点以上で「良」、80点以上で「優」、95点以上で「秀」とする。		
学習上の助言/Learning Advice	初回に必ずB5判のノートを用意すること。リングノートは避けること。ルーズリーフやレポート用紙は不可。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes	履修登録申込期間(4/21-8/19) 基盤教育事務室にて受付中!		

授業科目名(英文名) /Course Title	教育原論/Principles of Education		
担当教員(所属)/Instructor	和井内 良樹(教育学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	G901023
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	和井内 良樹(【和井内良樹】Mail:wainai@cc.utsunomiya-u.ac.jp TEL:028-649-5335)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	我が国の教育制度を成り立たせている基本的な論理と、その国際的・歴史的な特徴について、基礎的な知識を修得する。		
授業の達成目標/Course Goals	我が国の教育制度を成り立たせている基本的な論理と、その国際的・歴史的な特徴を理解することを到達目標とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	「基盤教育科目」の教育学部「専門導入科目」の必修科目である。教員免許を取得するための必修科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし。高等学校の世界史(近現代史)と公民(「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」)を復習すれば授業内容がよりよく理解できる。		
関連科目/Related Courses	特になし。高等学校の世界史(近現代史)と公民(「現代社会」又は「倫理」・「政治・経済」)を復習すれば授業内容がよりよく理解できる。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業計画に従い講義を行う。DVD等、映像資料を用いて講義を進める場合がある。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週ガイダンス 第2週教育とは何かⅠ 第3週教育とは何かⅡ 第4週学校とは何かⅠ 第5週学校とは何かⅡ 第6週近代西洋教育思想史Ⅰ(学習論:ロックとルソー) 第7週近代西洋教育思想史Ⅱ(公教育論:コンドルセとルペルチエ) 第8週近代西洋教育思想史Ⅲ学校教育論:ヘルバルトとデューイ) 第9週我が国の教育の歴史Ⅰ(近代学校制度の成立と展開) 第10週我が国の教育の歴史Ⅱ(大正自由教育) 第11週教育基本法と学校教育 第12週学習と教育評価 第13週授業と授業改善 第14週教師の仕事 第15週まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書は、必要に応じて紹介する。教材は、必要に応じて配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	中間レポート(40%)、最終試験(60%)で評価する。		
学習上の助言/Learning Advice			
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) / Course Title	教育心理学 / Educational Psychology		
担当教員(所属) / Instructor	橘川 真彦(教育学部)		
授業種別 / Type of Class		時間割コード / Registration Code	G901112
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数 / Credits	2単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact			
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours			
授業の内容 / Course Description	教育心理学の主要な内容である幼児・児童・生徒(障がいをもつ者を含む)の成長と発達、学習と学習指導、パーソナリティと適応、測定と評価について、講義する。		
授業の達成目標 / Course Goals	教育心理学の基礎的知識や研究法を学習して、幼児・児童生徒を理解するために必要な教員としての最低限の資質・能力を身に付けることを到達目標とする。		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	小・中・高等学校・幼稚園の教育職員免許状を取得するための必修科目である。幼児・児童・生徒(障がいをもつ者を含む)の心身の発達と学習、指導方法についての原理と法則について基礎的な理解を深める。		
前提とする知識 / Prerequisites	特に求めません。		
関連科目 / Related Courses	特に求めません。		
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	講義が中心となります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学とは 2. 発達とは 3. 発達の諸相 4. 学習とは 5. 学習のプロセス 6. 障害のある幼児・児童および生徒の発達と学習(1)心身の発達 7. 障害のある幼児・児童および生徒の発達と学習(2)学習の過程 8. 学習指導の方法 9. 知能の心理学 10. 動機づけの心理学 11. パーソナリティの心理学 12. 適応の心理学 13. 学級集団と学習指導 14. 測定・教育評価の心理学 15. 問題行動の心理学 		
教科書・参考書等 / Textbooks	特に指定はしません。		
成績評価の方法 / Evaluation	出席状況(20%)及び期末試験(80%)を総合評価する。		
学習上の助言 / Learning Advice	この授業は、教育学部1年生学校教育教員養成課程クラスFGHIJクラス・2年生以上の総合人間形成課程、地域デザイン科学部、国際学部、農学部、その他の学生用の授業です。教師になるための心構えを持って受講されたい。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	教育心理学／Educational Psychology		
担当教員(所属)／Instructor	橘川 眞彦(教育学部)		
授業種別／Type of Class		時間割コード／Registration Code	G901124
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	教育心理学の主要な内容である幼児・児童・生徒(障がいをもつ者を含む)の成長と発達、学習と学習指導、パーソナリティと適応、測定と評価について、講義する。		
授業の達成目標／Course Goals	教育心理学の基礎的知識や研究法を学習して、幼児・児童生徒を理解するために必要な教員としての最低限の資質・能力を身に付けることを到達目標とする。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	小・中・高等学校・幼稚園の教育職員免許状を取得するための必修科目である。幼児・児童・生徒(障がいをもつ者を含む)の心身の発達と学習、指導方法についての原理と法則について基礎的な理解を深める。		
前提とする知識／Prerequisites	特に求めません。		
関連科目／Related Courses	特に求めません。		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	講義が中心となります。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学とは 2. 発達とは 3. 発達の諸相 4. 学習とは 5. 学習のプロセス 6. 障害のある幼児・児童および生徒の発達と学習(1): 心身の発達 7. 障害のある幼児・児童および生徒の発達と学習(2): 学習の過程 8. 学習指導の方法 9. 知能の心理学 10. 動機づけの心理学 11. パーソナリティの心理学 12. 適応の心理学 13. 学級集団と学習指導 14. 測定・教育評価の心理学 15. 問題行動の心理学 		
教科書・参考書等／Textbooks	特に指定はしません。		
成績評価の方法／Evaluation	出席状況(20%)及び期末試験(80%)を総合評価する。		
学習上の助言／Learning Advice	この授業は、教育学部1年生学校教育教員養成課程ABCDEクラス、2年生以上の総合人間形成課程、地域デザイン科学部、国際学部、農学部、その他の学生用の授業です。教師になるための心構えを持って受講されたい。		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	教育課程及び方法・技術(情報機器及び教材の活用を含む)/School Curriculum and Educational Methodology		
担当教員(所属)/Instructor	丸山 剛史(教育学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	G901130
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 1, 木/Thu 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	授業では、①教育課程・方法の意義、②歴史的背景、③現状、④論点について講義を行う。		
授業の達成目標/Course Goals	(1) 教育課程とは、学校による子どもの人格形成設計ないしは子どもの人格と学力の統一的発達のプログラムであることがわかる。 (2) 教育方法は、子どもの実態の指導の方向性により創造されるものであることがわかる。 (3) 情報機器の教育的利用の意義を理解し、的確に利用することができる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	「基盤教育科目」の中の教育学部「専門導入科目」の必修科目であり、教員免許を取得するための必修科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	「教育原論」を受講済みであることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	「教育原論」を受講済みであることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	下記の授業計画にもとづき、講義を基本として授業を進める。講義の途中で質問や意見発表を求めることがある。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ul style="list-style-type: none"> (1) ガイダンス: 授業概要の説明 (2) 入社式及び2つの義務教育 (3) 日本における学校教育の誕生 (4) 戦前日本の学校制度とその学科課程・教科課程 (5) 戦後日本の学校制度とその教育課程 (6) 学力論 (7) 生活綴方教育 (8) 水道方式と仮説実験授業 (9) 集団づくりの技法 (10) 世界の職業教育訓練 (11) 授業づくりの理論・学習指導案の書き方 (12) 教育評価の方法 (13) 模擬授業・学習指導案の検討 (14) 情報機器の教育的利用 (15) まとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は指定しない。授業において必要に応じて資料を配付したり、文献を紹介します。『小学校学習指導要領』、『中学校学習指導要領』は購入して所持すること。		
成績評価の方法/Evaluation	成績評価は、定期試験等(100%)の結果にもとづいて行います。試験における採点においては、①要点が的確に理解されているか、②授業の内容に関して学習が行われたか、をみます。		
学習上の助言/Learning Advice	(1) 黒板に書かれたことを筆記することよりも、話を聴き、自分の頭で考えることを大切にしてください。 (2) 教職指導という点では、「(12) 授業づくりの理論・学習指導案の書き方」は必ず聴いてほしいと考えています。		
キーワード/Keywords	教育課程、教育方法、コンピュータの教育的利用、授業づくり、学習指導案		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	教育課程及び方法・技術（情報機器及び教材の活用を含む）/School Curriculum and Educational Methodology		
担当教員(所属)/Instructor	青柳 宏(教育学部),川島 芳昭(教育学部)		
授業種別/Type of Class		時間割コード/Registration Code	G901131
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 木 /Thu 1, 木/Thu 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先（研究室、電話番号、電子メールなど）/Contact			
オフィスアワー（自由質問時間）/Office Hours			
授業の内容/Course Description	グローバル化する世界における内外の学校改革の動向を検討することを通じて、望ましい教育課程・教育方法のあり方について、また教育課程の編成の方法及び教材の活用の仕方（情報機器の活用を含む）について考察していく。		
授業の達成目標/Course Goals	教育の目的との関係性において教育課程のあり方とその意義を理解し、さらに教育課程の編成の方法について理解する。また教育課程を実現するための教育方法の望ましいあり方を理解する。さらに教材の活用の仕方、情報機器の活用の仕方について理解する。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	「基盤教育科目」の中の教育学部「専門導入科目」の必修科目であり、教員免許を取得するための必修科目である。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし。		
関連科目/Related Courses	特になし。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	毎回、前回の授業内容に関する何人かの学生の意見を提示し、その意見を検討するとともに、新たな課題を提示し、検討をおこなっていく。		
授業計画（授業の形式、スケジュール等） /Class Schedule	第1回 グローバル化する世界の中で、改めて教育の目的とは何か（青柳） 第2回 世界学力調査（PISA）から見た日本の「学力」について（青柳） 第3回 「キー・コンピテンシー」と「リテラシー」（青柳） 第4回 フィンランドの授業について（青柳） 第5回 学習指導要領（小学校・中学校・高等学校）の変遷について（青柳） 第6回 現行学習指導要領（小学校・中学校・高等学校）について：「言語活動の充実」と教育課程（青柳） 第7回 教材の作成及び活用の方法（小学校・中学校・高等学校）：「言語活動」の視点から（青柳） 第8回 教育課程の編成の方法（1）小学校の教育課程について（青柳） 第9回 教育課程の編成の方法（2）中学校・高等学校の教育課程について（青柳） 第10回教育課程の編成の方法（3）幼保小連携の視点からの教育課程の編成（青柳） 第11回教育方法・技術の検討（1）プロジェクト・メソッド（単元学習）の方法について（青柳） 第12回教育方法・技術の検討（2）「協同的な学び」とは（青柳） 第13回教育方法・技術の検討（3）授業における情報機器の活用について（石川） 第14回「学力格差」問題と教育課程・教育方法（青柳） 第15回平和主義、民主主義、平等主義の視点からの教育課程・教育方法を構想する。（青柳）		
教科書・参考書等/Textbooks	特になし（授業時に毎回配布）		
成績評価の方法/Evaluation	試験による。		
学習上の助言/Learning Advice	是非、「考えること」を楽しんで欲しいと思います。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	特別支援教育基礎論/Introduction to special needs education		
担当教員(所属)/Instructor	岡澤 慎一(教育学部), 司城 紀代美(教育学部), 石川 由美子(教育学部), 池本 喜代正(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G901209
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 1, 月/Mon 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	岡澤 慎一(028-649-5350 okazawa@cc.utsunomiya-u.ac.jp) 石川 由美子(ym_ishikawa@cc.utsunomiya.ac.jp 教育学部B409)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	岡澤 慎一(月曜9:00~10:00, 12:10~12:40) 石川 由美子(前期 金曜日7-8時限 後期 水曜日 11時30分~12時30分)		
授業の内容/Course Description	本授業では、主として初めて特別支援教育を学ぶ人を対象に、障害の捉え方、障害を有する子ども達の特性と教育の基礎的な事項について概説し、特別支援教育についての基本的知識と関心を深めることを目的としている。本授業は、これから特別支援教育の専門科目を学ぶための入門編となる内容であるとともに、特別支援学校での介護等体験に参加する学生にとっては、障害を有する子ども達に対する基本的な理解を深めるための事前指導(事後指導)となるよう留意しているものである。		
授業の達成目標/Course Goals	特別支援教育に関する基本的枠組みを自身のうちに形成することを目標とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育教養科目社会科学系科目の達成目標に対応する。		
前提とする知識/Prerequisites	特にないが、様々な条件を抱えた子どもとの教育的係わり合いの実際について強い関心があることが望ましい。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	基本的には、教員から配布する資料にしたがって進行する。講義資料に対応するスライドおよび映像資料を使用し、講義内容に関する具体的、実際的理解の促進を図りたい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第 1 週 障害の概念(池本) 第 2 週 障害を有する子ども達に対する特別支援教育(池本) 第 3 週 障害を有する人の生き方1(司城) 第 4 週 障害を有する人の生き方2(司城) 第 5 週 知的障害児の発達(司城) 第 6 週 知的障害児の教育(司城) 第 7 週 発達障害児(学習障害, 自閉症)の発達と教育(石川) 第 8 週 発達障害児(アスペルガー症候群, ADHD)の発達と教育(石川) 第 9 週 通常の学校における特別支援教育1(池本) 第 10 週 通常の学校における特別支援教育2(池本) 第 11 週 肢体不自由児の発達と教育(岡澤) 第 12 週 病弱児の発達と教育(岡澤) 第 13 週 視覚障害児の発達と教育(岡澤) 第 14 週 聴覚障害児の発達と教育(岡澤) 第 15 週 まとめ(岡澤)		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書: 全国特殊学校長会「介護等体験ガイドブック フィリア」、ジアース教育新社		
成績評価の方法/Evaluation	レポート(20%)、試験(80%)の結果を総合して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	特別支援教育専攻の学生及び特別支援学校教員免許取得を考えている学生は、1年次に履修することが望ましい。また、介護等体験に参加する学生はなるべく1年次に履修することが望ましい。本学での介護等体験は附属特別支援学校で実施しているが、障害児のための学校には様々な種類があること、小学校、中学校の通常学級においても、障害による特別な教育的支援を必要とする子ども達が大勢いることに心を留めて欲しい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	生涯学習概論/Introduction to Lifelong Learning		
担当教員(所属)/Instructor	佐々木 英和(地域連携教育研究センター)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G901306
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 木 /Thu 1, 木/Thu 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	佐々木 英和(sasakih@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	佐々木 英和(火曜日11:00-12:00)		
授業の内容/Course Description	教育そのものを根底から問い返すという問題意識を常に背景に置きながら、「生涯学習」が、どのように理解され、どのようにして実践されるべきかについて、受講者自身が考えていけるように講義する。		
授業の達成目標/Course Goals	授業で重視している目標は、①生涯学習および社会教育についての基礎知識の習得、②生涯学習時代への主体的・能動的対応として「考える方法」を考えること、③生涯学習実践の中心的課題として「自分自身を学ぶ」ということの学習、の3点である。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	講義を受けている時間だけが学習時間だと限定してしまうことなく、日常生活の中で普段から、「いつでも、どこでも、だれからでも、なにからでも、どのようにでも」自ら学び取っていく貪欲さを持つこと。		
前提とする知識/Prerequisites	学ぶことに対して受け身の姿勢のままにとどまらずに、様々なことに疑問を持ち、問題意識を醸成しておくこと。また、知識の習得や理解のみならず、探求的センスや問題発見能力および自己表現力などを磨くよう努めてほしい。知識より、学ぶ心がけのほうが前提である。		
関連科目/Related Courses	学ぶことに対して受け身の姿勢のままにとどまらずに、様々なことに疑問を持ち、問題意識を醸成しておくこと。また、知識の習得や理解のみならず、探求的センスや問題発見能力および自己表現力などを磨くよう努めてほしい。知識より、学ぶ心がけのほうが前提である。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講師が学生に伝達する一方向性の講話形式に見える場合においても、意識の上では「参画型学習」を実践するつもりで授業に臨めるように配慮していきたい。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 オリエンテーション 第2週 生涯学習について語り出す前の「前提的議論」 第3週 自己形成論の視点①…「教育」と「形成」 第4週 自己形成論の視点②…メディアによる人間形成 第5週 自己形成論の視点③…「伝達」と「コミュニケーション」 第6週 生涯学習の原理論①…自分史、ライフサイクル論 第7週 生涯学習の原理論②…社会教育・生涯学習の方法・形態 第8週 生涯学習概念の把握方法①…生涯学習・生涯教育、社会教育と学校教育 第9週 生涯学習概念の把握方法②…自己論を軸にした教育理念の問い直し 第10週 自分探しと生涯学習①…欲求・欲望論、自己実現・生きがい論 第11週 自分探しと生涯学習②…自分探しの物語、自分学び・自分育て 第12週 社会教育・生涯学習の歴史…世界史的把握、日本の戦後史 第13週 生涯学習の条件整備①…法制・行財政論 第14週 生涯学習の条件整備②…施設論、援助者論、計画論 第15週 総括および補足 第16週 定期試験		
教科書・参考書等/Textbooks	①香川正弘・鈴木眞理・佐々木英和共編著『よくわかる生涯学習』、ミネルヴァ書房、2008年 ②野村一夫『社会学感覚[増補版]』、文化書房博文社、1998年		
成績評価の方法/Evaluation	最終レポート(10%)を出していることを必要条件として、学期末試験の結果を大元の基準とする(70%)が、出席状況や日常レポート等の出来など(20%)も考慮する。		
学習上の助言/Learning Advice	初回のオリエンテーションのときに、単位取得の条件や成績評価の基準などについて具体的に説明すると同時に、授業の詳細なスケジュール(具体的な日程)等を示した関連資料を配布する予定なので、出席せよ。また、ほぼ毎回、何らかの授業資料を配付する予定である。その中には、単位取得の条件や定期試験の内容に直接関わる重要なものも含まれるが、欠席者等は自らが不利にならないように、各自が自己責任で対処せよ。		
キーワード/Keywords	生涯学習。社会教育。学校教育。コミュニケーション。地域づくり。		
備考/Notes	試験実施可能性などを考慮して、受講制限を行う場合があります。その際には、授業に対するやる気などを基準にして選抜を行います。了承ください。		

授業科目名(英文名) / Course Title	現代福祉事情 / Introduction to Contemporary Welfare		
担当教員(所属) / Instructor	長谷川 万由美(教育学部)		
授業種別 / Type of Class	講義	時間割コード / Registration Code	G901403
開講学期曜日時限 / Period	2016年度 / Academic Year 後期 / Second semester 木 /Thu 5, 木/Thu 6	単位数 / Credits	2単位
科目等履修生の受入 / Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど) / Contact	長谷川 万由美(mayumit@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間) / Office Hours			
授業の内容 / Course Description	社会福祉法では、地域住民の参加による地域福祉の推進や個人の選択に基づくサービス利用への移行が定められている。つまり、ひとりひとりが、地域福祉を作っていく主体であり、また、自分が利用したいサービスを自ら選択していく主体となった。そこで、この授業では、みなさんが、地域福祉を作り、自ら利用する主体として、福祉を考えていく上で必要な知識や考え方を身につけてもらえるような内容で授業をすすめる。		
授業の達成目標 / Course Goals	<ul style="list-style-type: none"> ・福祉を自分の問題として理解し、ニーズに応じた福祉サービスが選択できるための知識を身につける。 ・現代社会で起きている様々な社会的な問題の背景を理解する。 		
学習・教育目標との関連 / Educational Goals	専門科目の学習に必要な現代社会に対する科学的な視点を醸成する。		
前提とする知識 / Prerequisites	とくになし		
関連科目 / Related Courses			
授業の具体的な進め方 / Course Methodologies	講義を中心にビデオなど視聴覚教材も活用していきます。またテーマに沿った行政職員の方などをゲストスピーカーにお呼びして話を聞く機会も作っている。新しく施行された法律や特に新しく社会問題化してきたことを扱うために、内容が変更になることがある。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) / Class Schedule	第1回 社会福祉を取り巻く状況 第2回 日本の福祉の流れ 第3回 社会福祉の仕組みと運営 第4回 社会福祉の機関と施設、人材 第5回 社会保障1～年金 第6回 社会保障2～医療 第7回 公的扶助1～生活保護 第8回 公的扶助2～格差社会 第9回 子ども家庭福祉1～子育て支援 第10回 子ども家庭福祉2～児童虐待 第11回 高齢者福祉1～介護保険 第12回 高齢者福祉2～高齢者のいきがい 第13回 障害者福祉1～総合福祉法の行方 第14回 障害者福祉2～障害者権利条約 第15回 まとめ		
教科書・参考書等 / Textbooks	教科書はとくに使わない参考書『社会福祉をつかむ』有斐閣、『国民の福祉の動向』『国民の衛生の動向』『保険と年金の動向』(いずれも厚生統計協会編集/出版:厚生統計協会)、『見てわかる社会保障法第4版』有斐閣、厚生労働白書、労働経済白書		
成績評価の方法 / Evaluation	ゲストスピーカー感想レポートなど授業内レポート40パーセント 期末試験60パーセント (教室定員の関係で試験が難しい場合にはレポートとする場合がある)		
学習上の助言 / Learning Advice	日ごろから新聞やテレビなどで社会福祉の問題について関心を持ってみることをおすすめします。授業中の私語、携帯電話は謹んでください。他の人の授業を受ける権利を尊重しましょう。		
キーワード / Keywords			
備考 / Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	環境教育/Environmental Education		
担当教員(所属)/Instructor	松居 誠一郎(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G901500
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	松居 誠一郎(matsui@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	松居 誠一郎(火曜日午後5時から5時半 事前にメールで問い合わせてください)		
授業の内容/Course Description	この授業では環境、環境問題および環境教育の基礎について理解を深めます。実習の内容を含めますので受講者数の上限を40名程度にします。初回授業で受講希望者がオーバーした場合は何らかの方法で選抜を行います。この場合、1回目授業に参加しなかった受講希望者は受講できません。		
授業の達成目標/Course Goals	環境問題についての一般的な知識を獲得することと、環境教育の意義と方法について基礎的理解ができるようにします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	現代社会の直面する課題について理解を深め、判断力を養う。		
前提とする知識/Prerequisites	日常的に環境問題に関心がある人を対象に開講します。		
関連科目/Related Courses	日常的に環境問題に関心がある人を対象に開講します。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義形式ですが、多くの回で実習・演習的作業をしてもらいます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1. 環境問題とはなにか 2. 持続可能な発展 3. 持続不可能社会の黙示録 4. 身近な環境問題の分析、予防の重要性 5. 公害問題 6. 地球環境問題 7. 地球温暖化と資源の枯渇 8. 生物多様性 9. 持続可能な発展再論 10. 環境教育の意義 11. まとめ 		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書：初回の授業で指示します。		
成績評価の方法/Evaluation	最終試験および授業中に適宜実施する小テスト、演習に関する提出物を評価の基礎とします。このほか毎回のワークシートの記述内容も評価対象とします。これらの得点によって成績を評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	新聞やテレビニュースなどの報道内容を用いた演習があります。日常的にこうした情報に関心があることが必要です。		
キーワード/Keywords	環境教育 環境問題		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) ／Course Title	情報教育／Information Technology in Education		
担当教員(所属)／Instructor	川島 芳昭(教育学部)		
授業種別／Type of Class	講義	時間割コード／Registration Code	G901608
開講学期曜日時限／Period	2016年度／Academic Year 前期／First semester 木 /Thu 3, 木/Thu 4	単位数／Credits	2単位
科目等履修生の受入／Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)／Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)／Office Hours			
授業の内容／Course Description	小・中・高等学校の全ての教員に必要な情報教育の基礎について講義・演習します。具体的には情報教育の目標・内容、教育の情報化の状況、情報活用能力の育成、情報モラル等について取りあげます。また、教科の学習指導へICTを活用する基礎的な方法について演習します。		
授業の達成目標／Course Goals	本授業の到達目標は、次の通りです。 ・学校教育における情報化の状況と情報教育の目標・内容を説明することができる。 ・学習指導へICTを活用する基礎的な方法が身についている。		
学習・教育目標との関連 ／Educational Goals	教職・教科に関する知識を修得し、発達段階に応じた教材を工夫し、多様な子どもの個性に即した指導や説明ができる。		
前提とする知識／Prerequisites	「情報処理基礎」を受講済みであることを前提とします。		
関連科目／Related Courses	特になし		
授業の具体的な進め方 ／Course Methodologies	本授業は、講義と演習を並行して行います。講義では、学校教育における情報化の現状、学習指導におけるICTや教育用ソフトウェアの活用、情報教育の目標・内容、情報活用能力の育成等について講述します。 演習では、教材の作成、コンピュータやネットワーク、電子黒板などを活用した授業の計画や実践を行います。なお、本授業では、提示資料及び演習課題などをe-Learningシステムを併用して提供します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) ／Class Schedule	<ol style="list-style-type: none"> 1 情報教育導入、e-Learningシステムの利用方法 2 情報とは、社会の情報化、情報化の特徴 3 学習指導要領における教育の情報化、学校教育の情報化の現状 4 教員に求められるICT活用指導力、教育の情報化の枠組み 5 教科の学習指導の支援とICTの活用、学習情報の伝達 6 教材コンテンツの利用、デジタル教科書 7 教育メディア(電子黒板等)の特徴、ICT利用の効果 8 情報教育の目標と意義、情報活用能力の育成、情報モラルの育成 9 教材作成練習 10 自作教材の発表会(1) 11 自作教材の発表会(2)、まとめ 12 情報教育を含めた授業設計練習 13 情報教育を含めた授業設計 14 模擬授業の実施(1) 15 模擬授業の実施(2)、まとめ <p>以上について、講義と演習を織り交ぜて実施します。</p>		
教科書・参考書等／Textbooks	講義または演習に必要な資料は、e-Learningシステムを併用してその都度提供します。		
成績評価の方法／Evaluation	レポート30%、演習課題30%、プロジェクトワーク・発表30%、受講態度10%等を総合して評価します。		
学習上の助言／Learning Advice	<ol style="list-style-type: none"> 1) 授業計画に記述した内容は、授業で取り扱う項目の列挙です。従って、実際の授業時間の配分は、授業計画とは異なることがあります。 2) この授業は、講義だけではなく、各種の教育用ソフトウェアの活用や作成等の演習が含まれます。 3) 施設設備の制約から、1クラスの受講学生数は最大30名とします。特記事項に示したように、あらかじめ(授業開始の約1週間前から)受講申込の受け付けを行い、先着30名で締め切ります。 4) 情報メディアを活用して指導できる力量を持つ教師になることを目標に取り組んでください。 		
キーワード／Keywords			
備考／Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	健康教育/School Health		
担当教員(所属)/Instructor	小宮 秀明(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G901700
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 1, 火/Tue 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	教師として最低限身につけるべき児童生徒の健康と安全についての知識を主体(からだ)、環境、行動の面から総合的に学びます。		
授業の達成目標/Course Goals	本講義の目標は、教師として必要とされる子どもの心身の健康に関する基礎的・基本的な知識を学習し、子どもの健康を守り、育てることができる。また学習した知識を基に学校現場で実践できることを目的とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤教育科目の中の専門導入科目の選択科目であり、将来、教員を目指す学生を対象に小・中・高等学校における児童生徒で問題となっている健康問題や疾病の予防に関する基礎的な知識を養成する。		
前提とする知識/Prerequisites	高等学校までに学習した「保健」に関する知識があれば十分です。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	講義はパワーポイントによる資料の提示と配布するプリント教材を用いて行います。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	<p>第1週ガイダンス本講義は前半の7回を久保、後半の7回を小宮が講義を行う。2名の講義内容について詳細な説明を行う。</p> <p>第2週健康の概念と健康教育</p> <p>第3週ヘルスプロモーションの理念に基づく健康教育とは?</p> <p>第4週青少年の現代的健康課題(危険行動の実態とその防止)</p> <p>第5週行動科学に基づく健康教育①(KABモデル、ヘルス・ビリーフ・モデル等)</p> <p>第6週行動科学に基づく健康教育②(合理的行為理論、変化ステージ理論等)</p> <p>第7週学校における健康教育の実際①(実施形態、教材論)</p> <p>第8週学校における健康教育の実際②(指導方法、評価)</p> <p>第9週子どもの体力の低下</p> <p>第10週子どもの肥満とメタボリックシンドローム</p> <p>第11週子どもの肥満と痩せ</p> <p>第12週子どもの骨折とその応急処置、睡眠の重要性</p> <p>第13週子どもの食育</p> <p>第14週子どもの熱中症予防</p> <p>第15週子どもの食物アレルギー</p>		
教科書・参考書等/Textbooks	特にありませんが、授業のテーマに関わる健康に関連した教養書を読んでおくと思えます。		
成績評価の方法/Evaluation	試験(小宮)50%、レポート(久保)50%計100%で評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	自分が教師になったら、この様な時にどのように判断・行動するかを考えながら授業を受けて下さい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	小学校外国語活動の理論と実践/Education of Creation		
担当教員(所属)/Instructor	山野 有紀(教育学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G901860
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 1, 火/Tue 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	山野 有紀(電子メール: yyamano@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	山野 有紀(火曜日12:00 -13:00)		
授業の内容/Course Description	小学校外国語活動の基礎を理論と実践の両面から学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	小学校外国語活動の実践に必要な基礎的知識を学び、実践授業に関して考察を行い、現実に即した模擬授業を計画・実施し、振り返りを行う。小学校教員としての資質を培う。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	教員養成課程の選択必修の専門教育科目である。教員採用条件として重要視されている小学校外国語活動の指導技術の基礎を身につける。		
前提とする知識/Prerequisites	学校教員養成課程の基礎科目		
関連科目/Related Courses	学校教員養成課程の基礎科目		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	基礎的理論に関する説明、外国語活動実践に必要な知識についての理解、実践授業視聴と考察、模擬授業、グループディスカッションによる振り返り、を通して指導力の基礎を養う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回ガイダンス:授業の目的、内容・方法、成績評価、教材についての説明 第2回外国語教育の意義 第3回学習指導要領:小学校外国語教育でめざすもの 第4回言語習得理論-母語と第2言語習得- 第5回関連領域からの示唆-こどもが外国語を学ぶとは- 第6回小学校外国語活動のための言語技能の指導 第7回小学校外国語活動のための外国語教授法 第8回小学校外国語活動のための教材作成 第9回小学校外国語活動のためのユニバーサルデザイン -外国語活動におけるインクルーシブ教育とは- 第10回評価・目標・内容の一体化をめざした指導計画・指導案作成 第11回学生による模擬授業(1)、振り返り 第12回学生による模擬授業(2)、振り返り 第13回学生による模擬授業(3)、振り返り 第14回小中連携 第15回これからの小学校英語教育・まとめと振り返り		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書は使わず、ハンドアウトを担当教員が用意します。 参考図書は下記の通りです。 1. Cameron, L. 2001. Teaching Languages to Young Learners. CUP. 2. アレン玉井光江. 2010. 『小学校英語の教育法-理論と実践-』大修館書店 3. 岡秀夫・金森強(編著). 2012. 『小学校外国語活動の進め方』成美堂 4. 久埜百合・永井淳子・佐藤玲子・粕谷恭子. 2006. 『ここがポイント!小学校英語』。		
成績評価の方法/Evaluation	出席状況、授業態度と課題への取り組み(40%)、模擬授業とその振り返り(40%)授業内に行う小テスト(20%)で成績評価とします。		
学習上の助言/Learning Advice	小学校教員になるという学生、または子どもたちに「英語で広がる世界」を体験させたいという意欲ある学生の履修を望みます。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	グローバル化と外国人児童生徒教育/Globalization and Teaching for Immigrant Children		
担当教員(所属)/Instructor	小原 一馬(教育学部), 田巻 松雄(国際学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G901938
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 火 /Tue 3, 火/Tue 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	小原 一馬(koharak@cc)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	小原 一馬(原則として水曜・木曜 7-8限だが、教員が研究室にいるときには随時受け付ける)		
授業の内容/Course Description	授業では、①外国人児童生徒教育の意義、②背景、③現状、④論点について講義を行う。		
授業の達成目標/Course Goals	(1) 外国人児童生徒教育の現状と課題がわかる。 (2) 外国人児童生徒教育問題の論点がわかる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	教職に関する共通の・基礎的内容の学習をふまえ、現代的教育課題に的確に対応するための発展的内容であるが、国際的に活動する人材の開発にかかわる内容でもある。		
前提とする知識/Prerequisites	「教育原論」を履修していることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	「教育原論」を履修していることが望ましい。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	下記の授業計画にもとづき、講義を基本として授業を進める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	(1) 各担当者の授業内容の概要説明(全教員) (2) 本授業開講の背景:重点からHANDSへ(田巻) (3) 外国につながる子どもたちとは?(田巻) (4) 年少者日本語教育1:子どもの言語発達と日本語指導(鎌田) (5) 年少者日本語教育2:教科学習に必要な言語能力(鎌田) (6) 諸外国における移民児童生徒に対する言語教育政策(立花) (7) 幼児期の第二言語習得支援-理論と施策(立花) (8) 未定(スエヨシ) (9) 未定(未定) (10) 外国人児童生徒教育現場の実際と抱える問題(若林) (11) これから支援に関わる者がすべきこと(若林) (12) 外国人教育における教師のジレンマと葛藤(小原) (13) 多文化教育の理論:概説(戚傑) (14) 多文化教育への主なアプローチ(戚傑) (15) パネルディスカッション:まとめ・質疑応答・討議(全教員)		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書:①平成19年度宇都宮大学特定重点推進研究グループ編『栃木県における外国人児童生徒教育の明日を考える』(2008年)、②臼井智美『イチからはじめる外国人の子どもの教育』教育開発研究所(2009年)		
成績評価の方法/Evaluation	授業へ出席することを前提とする。成績評価は、授業終了時に課されるレポートにより行う。評価はそれらの合計点にもとづいて行う。		
学習上の助言/Learning Advice	近年、小・中学校において外国人児童生徒が増加しています。戸惑うことなく、的確に対応できるように、関心をもって受講していただければ、と考えています。		
キーワード/Keywords	外国人児童生徒教育、グローバリゼーション、異文化間教育、多文化教育、多文化共生		
備考/Notes	一部「未定」の事項がありますので、授業の初回に授業内容を改めて提示します。		

授業科目名(英文名) /Course Title	微積分学及演習Ⅰ(機械クラス)/Calculus(with Exercise)Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	小池 正史(工学部), 荻原 明信(工学部), 中村 敦(工学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G902017
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6, 金 /Fri 7, 金/Fri 8	単位数/Credits	3単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	小池 正史(陽東キャンパス1号館2階 1-213室) 荻原 明信(ogiwara@sakushin-u.ac.jp) 中村 敦(a24nakamur@mail.goo.ne.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	小池 正史(各講義の備考欄に記載) 中村 敦(月曜と金曜の昼休みに 陽東1号館2階209 で受け付ける。mailでも 随時受け付ける。)		
授業の内容/Course Description	1変数の微積分学を学ぶ。微積分学は連続的に変化する量を扱う基本的な道具立てである。本講義では専門分野への応用に向けて微積分の基本概念、種々の関数の性質、計算技術などを学ぶ。		
授業の達成目標/Course Goals	* 1変数関数の微積分法に習熟すること。 * 数列と級数の扱いに習熟すること。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この科目は機械システム工学科の学習・教育目標Dの達成に寄与する。		
前提とする知識/Prerequisites	高等学校の数学(数学IIIを含む)の理解を前提とする。		
関連科目/Related Courses	微積分学及演習II, 線形代数学及演習I, 線形代数学及演習II, 常微分方程式及演習, 複素関数論及演習, フーリエ解析, 力学など。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	本科目は講義と演習を組として行う。 * 講義: 通常の板書による講義を行う。 * 演習: 2クラスに分けて行う。必要に応じてプリントを補助教材に用いながら演習を交えて授業を進める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	状況に応じて内容を前後・取捨・補足することがある。また、講義と演習の進度が前後することがある。 第1回 導入, 初等関数 第2回 関数の極限 第3回 微分法 第4回 微分法の応用(1) 平均値の定理, 不定形の極限 第5回 数列とその極限 第6回 級数とその極限 第7回 Taylor展開 第8回 微分法の応用(2) 関数の極値と変曲点 第9回 不定積分 第10回 初等関数の不定積分 第11回 定積分 第12回 広義積分 第13回 ガンマ関数とベータ関数 第14回 積分法の応用 第15回 総合復習		
教科書・参考書等/Textbooks	【教科書】 * 吉村善一・岩下弘一『入門講義 微分積分』裳華房 [ISBN 978-4785315436] 【参考書】 * 川村清『キーポイント 微分積分(理工系数学のキーポイント1)』 [ISBN 978-4000078610] * 西本敏彦『微分積分学講義』培風館 [ISBN 978-4563002442]		
成績評価の方法/Evaluation	講義50%, 演習50%の比率で算出した総合成績によって評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	予習・復習を前提とする大学の講義に早く適応し, 学習習慣を身につけること。		
キーワード/Keywords	工学部専門導入科目		
備考/Notes	オフィスアワー: 講義時に相談に応じる。		

授業科目名(英文名) /Course Title	微積分学及演習Ⅰ(電気クラス)/Calculus(with Exercise)Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	上村 佳嗣(工学部), 荻原 明信(工学部), 中村 敦(工学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G902025
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 7, 金/Fri 8, 金 /Fri 9, 金/Fri 10	単位数/Credits	3単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	上村 佳嗣(028-689-6260または6261 gami@is.utsunomiya-u.ac.jp) 荻原 明信(ogiwara@sakushin-u.ac.jp) 中村 敦(a24nakamur@mail.goo.ne.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	上村 佳嗣(可能な限り随時、応じる。 メールで予約していただければ確実です。) 中村 敦(月曜と金曜の昼休みに 陽東1号館2階209 で受け付ける。mailでも随時受け付ける。)		
授業の内容/Course Description	微積分学は、理工学分野において連続関数を扱う数学として種々の専門分野の基礎となる必須の学問である。 〔7-8時限〕 「数列の収束の定義」から始めて、多項式の拡張である「整級数」で種々の関数を表したり定義したりできることを学ぶ。 〔9-10時限〕 1変数関数の微分と不定積分を、今後の物理・工学への応用を視野に入れ、演習を頻繁に行いながら学習する。		
授業の達成目標/Course Goals	〔7-8時限〕 微積分学において収束概念は必須の基礎である。数列、多項式、関数などの極限操作を理解し、それを使いこなすことを目標とする。 〔9-10時限〕 1変数関数の微分と不定積分の考え方を理解し、その計算方法を習得することを目標とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この科目は電気電子工学科の学習・教育目標(E)の達成に寄与する。		
前提とする知識/Prerequisites	高等学校の微積分(数学Ⅲを含む)は既知とする。		
関連科目/Related Courses	「力学」、「微積分学及演習Ⅱ」、「常微分方程式及演習」、「フーリエ解析」、「複素関数論及演習」ほか多数。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	7-8時限はクラス分けせず数列・級数の授業を行い、9-10時限は2クラスに分けて教員ごとに微分・積分の授業を行う。 〔7-8時限〕 基礎的事項を詳しく説明する。ただし、数学の理解には演習が不可欠であり、教科書の問題には詳しい解答もあるので、その都度、自習による演習をすることとする。 〔9-10時限〕 教科書を中心とし、必要に応じてプリントを補助教材に用いながら、講義と演習を交えた形態で授業を進める。また、レポート課題も出すので、それらにも取り組むこと。レポート課題は、以下に記述してあるように成績評価の対象である。		

授業計画（授業の形式、スケジュール等） /Class Schedule	<p>〔7-8時限〕 上村</p> 第1回 オリエンテーション, 解析学の歴史 第2回 数, 上限, 下限(1.2), 数列の収束(1.3) 第3回 収束の基本性質(1.3) 第4回 有界単調列の収束, 単調列の極限, 実数の無限小数表示(1.3) 第5回 種々の数列の極限, 自然対数の底(1.3) 第6回 コーシー列, 収束列の必要十分条件(1.3) 第7回 漸化式で与えられる数列の極限, 不動点定理(1.3) 第8回 級数, 正項級数の収束・発散, 正項級数の並べ換え不変性(1.4) 第9回 絶対収束級数, 収束判定法(1.4) 第10回 2重級数, 交代級数の定理(1.4) 第11回 関数列の収束(1.5) 第12回 関数列の一致収束(1.5), 項別積分可能性(4.6) 第13回 整級数, 収束域, 収束半径, 整級数の絶対収束と広義一致収束(1.6) 第14回 収束半径を求める(1.6) 第15回 演習と解説 <p>〔9-10時限〕 荻原・中村</p> 第1回 1変数関数(逆関数, 双曲線関数など)について 第2回 関数の極限 第3回 関数の連続 第4回 微分可能と導関数 第5回 導関数の計算 第6回 テイラーの定理 第7回 テイラー展開 第8回 微分の応用(1)凸関数 第9回 微分の応用(2)不定形の極限 第10回 不定積分の基本(1)定義, 部分積分, 置換積分 第11回 不定積分の基本(2)部分積分, 置換積分の演習 第12回 有理関数の不定積分 第13回 三角関数を含む関数の不定積分 第14回 無理関数を含む関数の不定積分 第15回 総合演習
教科書・参考書等/Textbooks	教科書： 中島日出雄・矢嶋 徹「微積分学」共立出版 参考書： 高木貞治「解析概論」岩波書店 真貝寿明「徹底攻略 微積分学」共立出版 及川・永井・矢嶋「工学基礎 微分積分」サイエンス社 皆本晃弥「スッキリわかる微分積分演習」近代科学社、ほか 教 材： 随時、資料を配布し、工学部Moodleにもアップロードする。
成績評価の方法/Evaluation	7-8時限と9-10時限の成績を同比率で加えた総合評価により成績をつける。2つの試験の一方でも評価がない場合は不可となる。 〔7-8時限〕 主に期末試験で評価する。 〔9-10時限〕 授業中の演習とレポート(40%)と期末試験(60%)で評価する。
学習上の助言/Learning Advice	〔上村〕 大学の微積分学は厳密な連続性と収束性の概念から始まり、複素関数論でひとまず完結する。難解な議論が苦手な人も多いとは思いますが、辛抱してついてきて欲しい。 〔荻原・中村〕 数学は論理学である。当然のことながら、大学では高校数学の上に、より高度な数学が積み上げられていくので、高校で学んだ事柄を大切にこの授業に臨んでいただきたい。微積分学をより深く理解するために必要な論理の組み立て方と理解の手がかりを身につけてくれることを期待する。
キーワード/Keywords	工学部専門導入科目 電気電子工学科1年
備考/Notes	

授業科目名(英文名) / Course Title	微積分学及演習Ⅰ(応化クラス)/Calculus(with Exercise)Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	矢嶋 徹(工学部),海老原 亨(工学部),津田 求(工学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G902033
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 1, 金/Fri 2, 金 /Fri 3, 金/Fri 4	単位数/Credits	3単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	矢嶋 徹(工学部1-212号室(内線6249)。電子メールは備考欄に記載) 海老原 亨(ebihara@lamp.is.utsumomiya-u.ac.jp) 津田 求(tsuda@sit.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	矢嶋 徹(備考欄に記載) 海老原 亨(火曜日、金曜日のお昼休み(メールを利用すればいつでも可)) 津田 求(授業の際に教室で対応)		
授業の内容/Course Description	<p>微積分は、専門分野における理論的考察や実験データ解析など、様々なところで必要とされる数学の一分野である。この授業では主に1変数の微積分について基礎的な内容を学ぶ。時間帯ごとに特有の内容は次の通りである。</p> <p>[1,2時限] この時間帯では、1変数の微分法、および2変数関数の偏微分の基礎的な計算技法や関連した応用例を学ぶ。</p> <p>[3,4時限] この時間帯では、1変数関数の積分法についての基礎的な部分を学ぶ。応用数学としての計算技術的な面のみならず、純粋数学としての理論的な面についても触れるが、理論的厳密さを強調するのではなく、理論的厳密さとはどういうことかをわかりやすく説明する。</p>		
授業の達成目標/Course Goals	<p>初等関数と呼ばれる一群の関数の諸性質を理解し、関連して1変数の微分や積分、2変数の偏微分の計算が出来るようになることを全体の目標とする。時間帯ごとに特有の目標は次の通りである。</p> <p>[1,2時限] 初等関数の微分法について、今後の専門科目の学習に必要な具体的な計算力を修得することを目指す。同時に関数の極限などの数学的道具の使い方、応用における考え方を学ぶ。</p> <p>[3,4時限] 初等関数に関する初歩的な積分計算ができるようになることを目指す。また、実数の初等関数は複素数の関数に制限を加えたものという立場から、見通しよく実数関数の微分積分を理解し、使えるようになることも目標としたい。</p>		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この科目は応用化学科の学習・教育目標(B-2)の達成に寄与する。		
前提とする知識/Prerequisites	高等学校の数学Ⅰ,Ⅱ,Ⅲ,Ⅳを一通り学習していることを前提とする。また、数学Ⅲの微分積分を学習していると理解に役立つ。		
関連科目/Related Courses	高等学校の数学Ⅲ		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	<p>「授業の内容」で述べた内容の授業を、1,2時限にクラス分けせずに全体で行い、3,4時限に全体を2クラスに分けて教員ごとに行う。クラス分けは掲示によって連絡する。1,2時限の内容と3,4時限の内容の間には直接的な関係はなく、並行したものである。それぞれの時間や担当者に特有の進め方は次の通りである。</p> <p>[1,2時限] 主に講義形式で、別記の授業計画にそって、基礎的事項に重点を置いて解説する。授業中適宜例題の解説を行い、応用や発展事項を説明するとともに、時間があれば演習を行う。</p> <p>[3,4時限] 教科書、参考書や配付資料に基づいて進める。各回の最後にその回の授業に関連する内容の演習課題を出し、次の授業の際に発表してもらう。その後、解答の解説と新しい内容の説明を行う。</p>		

<p>授業計画（授業の形式、スケジュール等） ／Class Schedule</p>	<p>[1,2時限] 1. ガイダンス、微分積分学の歴史、数と関数 2. 逆関数、合成関数、極限值と連続関数 3. 関数とグラフ 4. 導関数（§3） 5. 微分法の公式（§4） 6. べきの微分、三角関数の微分（§5, 6） 7. 指数関数・対数関数の微分、対数微分法（§7, 8） 8. 双曲線関数の微分、逆三角関数の微分（§9, 10） 9. 高階導関数（§11） 10. ライプニッツの公式（§12） 11. 平面上の領域、多変数関数（§21） 12. 2変数関数の極限值（§21） 13. 偏導関数（§22） 14. 高階偏導関数の定義（§24-1） 15. 応用問題の解説</p> <p>[3,4時限] 1. 基本的な関数（多項式、有理関数、指数関数等） 2. 基本的な関数（三角関数、双曲線関数等） 3. 逆三角関数、対数関数など 4. オイラーの公式 5. 不定積分と原始関数 6. 置換積分と部分積分 7. 置換積分と部分積分の演習 8. 有理関数と部分分数展開 9. 有理関数の積分 10. 三角関数の有理式の積分 11. 無理関数の積分 12. 無理関数の積分の演習 13. 微積分学の基本定理 14. 不定積分と定積分 15. 総合演習</p>
<p>教科書・参考書等／Textbooks</p>	<p>[共通] 教科書：水本久夫著「微分積分学の基礎 改訂版」培風館</p> <p>[1,2時限] 参考書：微積分学の書物は非常に多いので、図書館や書店でよく吟味して選ぶとよい。迷う場合には相談に応じる。 教材：講義資料は原則として前日午前中に工学部Moodleにアップロードするので、各自参照しておくこと</p> <p>[3,4時限] 参考書：授業の際に指示する</p>
<p>成績評価の方法／Evaluation</p>	<p>[共通] 1,2時限の成績と3,4時限の成績を同比率で合計し、90%以上、80%以上、70%以上、60%以上の得点の場合をそれぞれ秀、優、良、可とし、1科目として3単位を与えてこれ以外を不可とする。2つの試験の一方でも評価がない場合は不可となる。評価は演習（3,4時限）クラスごとに独立して行う。 なお、応用化学科以外を対象とする「微積分学及演習I」とは内容が異なるので、応用化学科以外の工学部在籍者は受講できません（自動的に不可とします）。 各時間帯ごとの評価は次のように行う。</p> <p>[1,2時限] この授業の評価は期末試験で行い、授業内容の理解に関して70%、応用に関して30%程度を配分する。演習による授業への寄与や、自主的にレポートを提出する等の積極性に対し、その内容に応じて30%程度を上限として加点することがある。</p> <p>[3,4時限・海老原] この授業の評価は期末試験50%、課題の発表及び中間試験の評価50%を合計して行う。</p> <p>[3,4時限・津田] この授業の評価は期末試験70%、課題のレポート評価30%を合計して行う。</p>
<p>学習上の助言／Learning Advice</p>	<p>[矢嶋] 最初から完全な理解を求めるのではなく、一部分しかわからなくても、とにかく手を動かして計算し、前進するのが大切です。高校までの学習とは違って、答を出して安心するのではなく、問題の背後にある考え方に注目しましょう。</p> <p>[海老原] 大学で学ぶ数学は、高校数学で学んだことを違った考え方で定式化し、より複雑な問題にも対処できるようになっています。そのため新しい記号や概念がたくさん出てきます。授業の予習復習をしっかりとし、自分の手で課題を解くことで、大学の数学の考え方に慣れて下さい。</p> <p>[津田] 継続的に講義に集中し、自ら積極的に演習問題を解いて計算や考え方の練習を積んで行くことが大切です。問題の背景にある考え方や意味、いろいろな事柄の関連も意識した視野の広い学習を心がけてください。</p>
<p>キーワード／Keywords</p>	<p>1変数関数の微積分、極限值、初等関数</p>
<p>備考／Notes</p>	<p>電子メール：calc16chem@lamp.is.utsunomiya-u.ac.jp オフィスアワー（矢嶋）：水曜10:30-11:30（工1-212）</p>

授業科目名(英文名) /Course Title	微積分学及演習Ⅰ(情報クラス)/Calculus(with Exercise)Ⅰ		
担当教員(所属)/Instructor	上村 佳嗣(工学部), 荻原 明信(工学部), 中村 敦(工学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G902050
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6, 金 /Fri 9, 金/Fri 10	単位数/Credits	3単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	上村 佳嗣(028-689-6260または6261 gami@is.utsunomiya-u.ac.jp) 荻原 明信(ogiwara@sakushin-u.ac.jp) 中村 敦(a24nakamur@mail.goo.ne.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	上村 佳嗣(可能な限り随時、応じる。 メールで予約していただければ確実です。) 中村 敦(月曜と金曜の昼休みに 陽東1号館2階209 で受け付ける。mailでも随時受け付ける。)		
授業の内容/Course Description	微積分学は、理工学分野において連続関数を扱う数学として種々の専門分野の基礎となる必須の学問である。 [9-10時限] 「数列の収束の定義」から始めて、多項式の拡張である「整級数」で種々の関数を表したり定義したりできることを学ぶ。 [5-6時限] 1変数関数の微分と不定積分を、今後の物理・工学への応用を視野に入れ、演習を頻繁に行いながら学習する。		
授業の達成目標/Course Goals	[9-10時限] 微積分学において収束概念は必須の基礎である。数列、多項式、関数などの極限操作を理解し、それを使いこなすことを目標とする。 [5-6時限] 1変数関数の微分と不定積分の考え方を理解し、その計算方法を習得することを目標とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この科目は情報工学科の学習・教育目標(A)および(E)の達成に寄与する。		
前提とする知識/Prerequisites	高等学校の微分積分(数学Ⅲを含む)は既知とする。		
関連科目/Related Courses	「力学」、「数学基礎」、「応用数学」、「微積分学及演習Ⅱ」、「フーリエ解析」、「常微分方程式及演習」、「複素関数論及演習」ほか多数。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	9-10時限はクラス分けせず数列・級数の授業を行い、5-6時限は2クラスに分けて教員ごとに微分・積分の授業を行う。 [9-10時限] 基礎的事項を詳しく説明する。ただし、数学の理解には演習が不可欠であり、教科書の問題には詳しい解答もあるので、その都度、自習による演習をすることとする。 [5-6時限] 教科書を中心とし、必要に応じてプリントを補助教材に用いながら、講義と演習を交えた形態で授業を進める。また、レポート課題も出すので、それらにも取り組むこと。レポート課題は、以下に記述してあるように成績評価の対象である。		

授業計画（授業の形式、スケジュール等） /Class Schedule	<p>〔9-10時限〕 上村</p> 第1回 オリエンテーション, 解析学の歴史 第2回 数, 上限, 下限(1.2), 数列の収束(1.3) 第3回 収束の基本性質(1.3) 第4回 有界単調列の収束, 単調列の極限, 実数の無限小数表示(1.3) 第5回 種々の数列の極限, 自然対数の底(1.3) 第6回 コーシー列, 収束列の必要十分条件(1.3) 第7回 漸化式で与えられる数列の極限, 不動点定理(1.3) 第8回 級数, 正項級数の収束・発散, 正項級数の並べ換え不変性(1.4) 第9回 絶対収束級数, 収束判定法(1.4) 第10回 2重級数, 交代級数の定理(1.4) 第11回 関数列の収束(1.5) 第12回 関数列の一致収束(1.5), 項別積分可能性(4.6) 第13回 整級数, 収束域, 収束半径, 整級数の絶対収束と広義一致収束(1.6) 第14回 収束半径を求める(1.6) 第15回 演習と解説 <p>〔5-6時限〕 荻原・中村</p> 第1回 1変数関数(逆関数, 双曲線関数など)について 第2回 関数の極限 第3回 関数の連続 第4回 微分可能と導関数 第5回 導関数の計算 第6回 テイラーの定理 第7回 テイラー展開 第8回 微分の応用(1)凸関数 第9回 微分の応用(2)不定形の極限 第10回 不定積分の基本(1)定義, 部分積分, 置換積分 第11回 不定積分の基本(2)部分積分, 置換積分の演習 第12回 有理関数の不定積分 第13回 三角関数を含む関数の不定積分 第14回 無理関数を含む関数の不定積分 第15回 総合演習
教科書・参考書等/Textbooks	教科書： 中島日出雄・矢嶋 徹「微積分学」共立出版 参考書： 高木貞治「解析概論」岩波書店 真貝寿明「徹底攻略 微積分学」共立出版 及川・永井・矢嶋「工学基礎 微分積分」サイエンス社 皆本晃弥「スッキリわかる微分積分演習」近代科学社、ほか 教 材： 随時、資料を配布し、工学部Moodleにもアップロードする。
成績評価の方法/Evaluation	9-10時限と5-6時限の成績を同比率で加えた総合評価により成績をつける。2つの試験の一方でも評価がない場合は不可となる。 〔9-10時限〕 主に期末試験で評価する。 〔5-6時限〕 授業中の演習とレポート(40%)と期末試験(60%)で評価する。
学習上の助言/Learning Advice	〔上村〕 大学の微積分学は厳密な連続性と収束性の概念から始まり、複素関数論でひとまず完結する。難解な議論が苦手な人も多いと思うが、辛抱してついてきて欲しい。 〔荻原・中村〕 数学は論理学である。当然のことながら、大学では高校数学の上に、より高度な数学が積み上げられていくので、高校で学んだ事柄を大切にこの授業に臨んでいただきたい。微積分学をより深く理解するために必要な論理の組み立て方と理解の手がかりを身につけてくれることを期待する。
キーワード/Keywords	工学部専門導入科目 情報工学科1年
備考/Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	微積分学及演習II(機械クラス)/Calculus(with Exercise)II		
担当教員(所属)/Instructor	小池 正史(工学部), 荻原 明信(工学部), 中村 敦(工学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G902513
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 7, 金/Fri 8, 金 /Fri 9, 金/Fri 10	単位数/Credits	3単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	小池 正史(陽東キャンパス1号館2階 1-213室) 荻原 明信(ogiwara@sakushin-u.ac.jp) 中村 敦(a24nakamur@mail.goo.ne.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	小池 正史(各講義の備考欄に記載) 中村 敦(月曜と金曜の昼休みに 陽東1号館2階209 で受け付ける。mailでも 随時受け付ける。)		
授業の内容/Course Description	多変数の微積分学を学ぶ。これは多くの専門科目で使われる手法である。ベクトル解析, 微分方程式, 複素関数論などの進んだ数学的手法の基礎ともなる。		
授業の達成目標/Course Goals	多変数関数の微積分法を理解し, 応用できること。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この科目は機械システム工学科の学習・教育目標Dの達成に寄与する。		
前提とする知識/Prerequisites	* 高等学校の数学(数学IIIを含む)の理解を前提とする。 * 「微積分学及演習I」の内容の理解を前提とする。		
関連科目/Related Courses	微積分学及演習I, 線形代数学及演習I, 線形代数学及演習II, ベクトル解析, 常微分方程式及演習, 偏微分方程式, 複素関数論及演習, フーリエ解析, 力学など。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	本科目は講義と演習を組として行う。 * 講義: 通常の板書による講義を行う。 * 演習: 2クラスに分けて行う。必要に応じてプリントを補助教材に用いながら演習を交えて授業を進める。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	状況に応じて内容を前後・取捨・補足することがある。また, 講義と演習の進捗が前後することがある。 第1回 多変数関数と偏微分 第2回 高次偏導関数 第3回 全微分 第4回 合成関数の偏微分 第5回 Taylor展開 第6回 極値判定 第7回 逆関数定理 第8回 陰関数定理 第9回 拘束条件つき停留値問題 第10回 2重積分 第11回 2重積分の変数変換 第12回 広義重積分 第13回 3重積分 第14回 重積分法の応用 第15回 総合復習		
教科書・参考書等/Textbooks	【教科書】 * 吉村善一・岩下弘一『入門講義 微分積分』裳華房 [ISBN 978-4785315436] 【参考書】 * 川村清『キーポイント 微分積分(理工系数学のキーポイント1)』 [ISBN 978-4000078610] * 西本敏彦『微分積分学講義』培風館 [ISBN 978-4563002442]		
成績評価の方法/Evaluation	講義50%, 演習50%の比率で算出した総合成績によって評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	予習・復習を前提とする大学の講義に早く適応し, 学習習慣を身につけること。		
キーワード/Keywords	工学部専門導入科目		
備考/Notes	オフィスアワー: 講義時に相談に応じる。		

授業科目名(英文名) / Course Title	微積分学及演習Ⅱ(電気クラス)/Calculus(with Exercise)Ⅱ		
担当教員(所属)/Instructor	上村 佳嗣(工学部), 荻原 明信(工学部), 中村 敦(工学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G902521
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 7, 金/Fri 8, 金 /Fri 9, 金/Fri 10	単位数/Credits	3単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	上村 佳嗣(028-689-6260または6261 gami@is.utsunomiya-u.ac.jp) 荻原 明信(ogiwara@sakushin-u.ac.jp) 中村 敦(a24nakamur@mail.goo.ne.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	上村 佳嗣(可能な限り随時、応じる。 メールで予約していただければ確実です。) 中村 敦(月曜と金曜の昼休みに 陽東1号館2階209 で受け付ける。mailでも 随時受け付ける。)		
授業の内容/Course Description	微積分学は、理工学分野において連続関数を扱う数学として種々の専門分野の基礎となる必須の学問である。 〔9-10時限〕 複数の独立変数の関数における微分法の応用について主に2変数関数を例として解説する。テイラーの定理、極値問題、逆関数定理、陰関数定理、拘束条件付停留値問題等を取り上げる。 〔7-8時限〕 多変数関数の定積分は、専門課程での物理・工学への応用(ベクトル解析・微分方程式・複素関数等)を理解するのに必要な知識と能力である。この授業では、多変数関数の定積分を、演習等を行いながら習得する。		
授業の達成目標/Course Goals	〔9-10時限〕 多変数関数における微分法、偏微分、全微分について理解すると共に、計算力の習得を目標とする。 〔7-8時限〕 多変数関数、特にその定積分を理解し、専門課程での物理・工学への応用(ベクトル解析・微分方程式・複素関数等)を理解するに足る能力を習得することを目標とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この科目は電気電子工学科の学習・教育目標(E)の達成に寄与する。		
前提とする知識/Prerequisites	前期「微積分学及演習Ⅰ」の内容を習得していること。線形代数の知識もあることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	「力学」、「電気電子数学及演習」、「ベクトル解析」、「電気磁気学A」、「電気磁気学及演習」、「複素関数論及演習」、「偏微分方程式」ほか多数。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	9-10時限はクラス分けせず微分範囲の授業を行い、7-8時限は2クラスに分けて教員ごとに積分範囲の授業を行う。 〔9-10時限〕 基礎的事項を詳しく説明する。ただし、数学の理解には演習が不可欠であり、教科書の問題には詳しい解答があるので、その都度、自習による演習をすることとする。 〔7-8時限〕 教科書を中心とし、必要に応じてプリントを補助教材に用いながら、講義と演習を交えた形態で授業を進める。また、レポート課題も出すので、それらにも取り組むこと。レポート課題は、以下に記述してあるように成績評価の対象である。		

授業計画（授業の形式、スケジュール等） /Class Schedule	<p>〔9-10時限〕 上村</p> 第1回 多変数関数の連続性と偏微分(3.1) 第2回 高次偏導関数と偏微分の可換性(3.1) 第3回 全微分可能性とグラフの接平面(3.2) 第4回 合成関数の微分法, 極座標でのラプラシアン(3.2) 第5回 演算子, 波動方程式(3.2) 第6回 2変数関数のテイラーの定理(3.3) 第7回 テイラーの定理復習, 極値問題(3.3-3.4) 第8回 極値判定の定理(3.4) 第9回 2次形式の振る舞い, n変数関数について(3.4-3.5) 第10回 逆関数定理(3.6) 第11回 座標変換(3.6) 第12回 陰関数定理(3.7) 第13回 各種陰関数定理(3.7) 第14回 拘束条件付停留値問題, ラグランジュ未定乗数法(3.8) 第15回 演習と解説 <p>〔7-8時限〕 荻原・中村</p> 第1回 積分可能と定積分の定義 第2回 定積分の性質 第3回 広義積分 第4回 広義積分の演習 第5回 Γ 関数とB関数 第6回 曲線の長さ 第7回 2重積分 第8回 積分変数の変換 第9回 積分変数の変換の演習 第10回 広義重積分 第11回 広義重積分の演習 第12回 3重積分 第13回 3次元での積分変数の変換 第14回 3次元の積分の応用 第15回 総合演習
教科書・参考書等/Textbooks	教科書： 中島日出雄・矢嶋 徹「微積分学」共立出版 参考書： 高木貞治「解析概論」岩波書店 真貝寿明「徹底攻略 微積分学」共立出版 及川・永井・矢嶋「工学基礎 微分積分」サイエンス社 皆本晃弥「スッキリわかる微分積分演習」近代科学社、ほか 教 材： 随時、資料を配布し、工学部Moodleにもアップロードする。
成績評価の方法/Evaluation	9-10時限の成績と7-8時限の成績を同比率で加えた総合評価により成績をつける。2つの試験の一方でも評価がない場合は不可となる。 〔9-10時限〕 主に期末試験で評価する。 〔7-8時限〕 授業中の演習とレポート（40%）と期末試験（60%）で評価する。
学習上の助言/Learning Advice	〔上村〕 数学の効率的な学習には、集中して講義の解説を聞いた上で自らの頭と手を動かす演習を含む復習が大切である。教員はこのような自律学習者のための援助者であり、質問は大いに歓迎する。 〔荻原・中村〕 高校時代とは異なった定積分の定義から始めるので戸惑わないように。後半は、専門分野の問題に微積分学で得た知識を応用出来るよう、演習を多くする。
キーワード/Keywords	工学部専門導入科目 電気電子工学科1年
備考/Notes	

授業計画（授業の形式、スケジュール等） /Class Schedule	<p>[1, 2時限]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 定積分の計算（方程式や漸化式への帰着） 2. パラメーター表示された積分 3. 積分の応用—面積，体積，曲線の長さ 4. 重積分の定義と累次積分 5. 重積分の計算 6. 重積分と変数変換 7. 総合演習(1) 8. 1階微分方程式（変数分離形） 9. 1階微分方程式（同次形） 10. 1階微分方程式（定数変化法） 11. 1階微分方程式（完全形，積分因子） 12. 2階線型同次方程式 13. 2階線型非同次方程式 14. 微分方程式の解の存在と一意性 15. 総合演習(2) <p>[3, 4時限]</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. ガイダンス，1変数の微分と2変数の偏微分の復習 2. ロールの定理および平均値の定理（§13, 14） 3. 不定形の極限值，ロピタルの定理（§15） 4. テイラーの定理および初等関数への応用（§16, 17） 5. 無限級数とべき級数の性質（§59, 63） 6. テイラー展開，初等関数のテイラー展開（§18, 19） 7. 1変数関数の極値（§20） 8. 2変数関数の全微分可能性（§23） 9. 2変数関数の偏微分順序交換の可能性（§24-2） 10. 2変数関数の合成関数の微分（§25） 11. 2変数関数の平均値の定理とテイラーの定理（§26, 28, 29） 12. 陰関数（§27） 13. 2変数関数の極値（§31） 14. 条件つき極値問題（§24-1） 15. 応用問題の解説
教科書・参考書等/Textbooks	<p>[共通]</p> <p>教科書：水本久夫著「微積分学の基礎 改訂版」培風館</p> <p>[1, 2時限]</p> <p>参考書：授業の際に指示する</p> <p>[3, 4時限]</p> <p>参考書：微積分学の書物は非常に多いので，図書館や書店でよく吟味して選ぶとよい。迷う場合には相談に応じる。</p> <p>教材：講義資料は原則として前日午前中に工学部Moodleにアップロードするので，各自参照しておくこと</p>
成績評価の方法/Evaluation	<p>[共通]</p> <p>1, 2時限の成績と3, 4時限の成績を同比率で合計し，90%以上，80%以上，70%以上，60%以上の得点の場合をそれぞれ秀，優，良，可とし，1科目として3単位を与えてこれ以外を不可とする。2つの試験の一方でも評価がない場合は不可となる。評価は演習（1, 2時限）のクラスごとに独立して行う。</p> <p>なお，応用化学科以外を対象とする「微積分学及演習I」とは内容が異なるので，応用化学科以外の工学部在籍者は受講できません（自動的に不可とします）。</p> <p>各時間帯ごとの評価は次のように行う。</p> <p>[1, 2時限・海老原]</p> <p>この授業の評価は期末試験50%，課題の発表及び中間試験の評価50%を合計して行う。</p> <p>[1, 2時限・津田]</p> <p>この授業の評価は期末試験70%，課題のレポート評価30%を合計して行う。</p> <p>[3, 4時限]</p> <p>この授業の評価は期末試験で行い，授業内容の理解に関して70%，応用に関して30%程度を配分する。演習による授業への寄与や，自主的にレポートを提出する等の積極性に対し，その内容に応じて30%程度を上限として加点することがある。</p>
学習上の助言/Learning Advice	<p>[矢嶋]</p> <p>「微積分学及演習I」をさらに発展した内容で，工学の応用問題の考察に必須です。抽象的な内容も入ってきますが，土台である「微積分I」をよく復習しておきましょう。</p> <p>[海老原]</p> <p>後期の授業では前期以上に抽象的な概念や公式・計算方法が出てきます。自分の手を動かして納得いくまで考え，わからなければ友人たちと議論してみましょう。答えをすぐに求めずに，自分で考えることが理解への近道です。</p> <p>[津田]</p> <p>微積分学の発展的内容・応用を学びます。常に考え方の基本に立ち返り，やっていることの意味を見失わないよう，演習問題を繰り返し解いて，内容を理解，習得してください。</p>
キーワード/Keywords	1変数の微積分の応用，多変数関数の微積分およびその応用
備考/Notes	電子メール：calc16chem@lamp.is.utsunomiya-u.ac.jp オフィスアワー（矢嶋）：金曜14:00-15:00（工1-212）

授業科目名(英文名) / Course Title	微積分学及演習Ⅱ(情報クラス)/Calculus(with Exercise)Ⅱ		
担当教員(所属)/Instructor	上村 佳嗣(工学部), 荻原 明信(工学部), 中村 敦(工学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G902556
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6, 金 /Fri 7, 金/Fri 8	単位数/Credits	3単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	上村 佳嗣(028-689-6260または6261 gami@is.utsunomiya-u.ac.jp) 荻原 明信(ogiwara@sakushin-u.ac.jp) 中村 敦(a24nakamur@mail.goo.ne.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	上村 佳嗣(可能な限り随時、応じる。 メールで予約していただければ確実です。) 中村 敦(月曜と金曜の昼休みに 陽東1号館2階209 で受け付ける。mailでも随時受け付ける。)		
授業の内容/Course Description	微積分学は、理工学分野において連続関数を扱う数学として種々の専門分野の基礎となる必須の学問である。 〔7-8時限〕 複数の独立変数の関数における微分法の応用について主に2変数関数を例として解説する。テイラーの定理、極値問題、逆関数定理、陰関数定理、拘束条件付停留値問題等を取り上げる。 〔5-6時限〕 多変数関数の定積分は、専門課程での物理・工学への応用(ベクトル解析・微分方程式・複素関数等)を理解するのに必要な知識と能力である。この授業では、多変数関数の定積分を、演習等を行いながら習得する。		
授業の達成目標/Course Goals	〔7-8時限〕 多変数関数における微分法、偏微分、全微分について理解すると共に、計算力の習得を目標とする。 〔5-6時限〕 多変数関数、特にその定積分を理解し、専門課程での物理・工学への応用(ベクトル解析・微分方程式・複素関数等)を理解するに足る能力を習得することを目標とする。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	この科目は情報工学科の学習・教育目標(A)および(E)の達成に寄与する。		
前提とする知識/Prerequisites	前期「微積分学及演習Ⅰ」の内容を習得していること。線形代数の知識もあることが望ましい。		
関連科目/Related Courses	「力学」、「基礎電磁気学」、「応用数学」、「ベクトル解析」、「複素関数論及演習」、「偏微分方程式」ほか多数。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	7-8時限はクラス分けせず微分範囲の授業を行い、5-6時限は2クラスに分けて教員ごとに積分範囲の授業を行う。 〔7-8時限〕 基礎的事項を詳しく説明する。ただし、数学の理解には演習が不可欠であり、教科書の問題には詳しい解答があるので、その都度、自習による演習をすることとする。 〔5-6時限〕 教科書を中心とし、必要に応じてプリントを補助教材に用いながら、講義と演習を交えた形態で授業を進める。また、レポート課題も出すので、それらにも取り組むこと。レポート課題は、以下に記述してあるように成績評価の対象である。		

授業計画（授業の形式、スケジュール等） /Class Schedule	<p>〔7-8時限〕 上村</p> 第1回 多変数関数の連続性と偏微分(3.1) 第2回 高次偏導関数と偏微分の可換性(3.1) 第3回 全微分可能性とグラフの接平面(3.2) 第4回 合成関数の微分法, 極座標でのラプラシアン(3.2) 第5回 演算子, 波動方程式(3.2) 第6回 2変数関数のテイラーの定理(3.3) 第7回 テイラーの定理復習, 極値問題(3.3-3.4) 第8回 極値判定の定理(3.4) 第9回 2次形式の振る舞い, n変数関数について(3.4-3.5) 第10回 逆関数定理(3.6) 第11回 座標変換(3.6) 第12回 陰関数定理(3.7) 第13回 各種陰関数定理(3.7) 第14回 拘束条件付停留値問題, ラグランジュ未定乗数法(3.8) 第15回 演習と解説 <p>〔5-6時限〕 荻原・中村</p> 第1回 積分可能と定積分の定義 第2回 定積分の性質 第3回 広義積分 第4回 広義積分の演習 第5回 Γ 関数とB関数 第6回 曲線の長さ 第7回 2重積分 第8回 積分変数の変換 第9回 積分変数の変換の演習 第10回 広義重積分 第11回 広義重積分の演習 第12回 3重積分 第13回 3次元での積分変数の変換 第14回 3次元の積分の応用 第15回 総合演習
教科書・参考書等/Textbooks	教科書： 中島日出雄・矢嶋 徹「微積分学」共立出版 参考書： 高木貞治「解析概論」岩波書店 真貝寿明「徹底攻略 微積分学」共立出版 及川・永井・矢嶋「工学基礎 微分積分」サイエンス社 皆本晃弥「スッキリわかる微分積分演習」近代科学社、ほか 教 材： 随時、資料を配布し、工学部Moodleにもアップロードする。
成績評価の方法/Evaluation	7-8時限の成績と5-6時限の成績を同比率で加えた総合評価により成績をつける。2つの試験の一方でも評価がない場合は不可となる。 〔7-8時限〕 主に期末試験で評価する。 〔5-6時限〕 授業中の演習とレポート（40%）と期末試験（60%）で評価する。
学習上の助言/Learning Advice	〔上村〕 数学の効率的な学習には、集中して講義の解説を聞いた上で自らの頭と手を動かす演習を含む復習が大切である。教員はこのような自律学習者のための援助者であり、質問は大いに歓迎する。 〔荻原・中村〕 高校時代とは異なった定積分の定義から始めるので戸惑わないように。後半は、専門分野の問題に微積分学で得た知識を応用出来るよう、演習を多くする。
キーワード/Keywords	工学部専門導入科目 情報工学科1年
備考/Notes	

授業科目名(英文名) /Course Title	応用化学基礎(応化)/Fundamental Applied Chemistry		
担当教員(所属)/Instructor	大庭 亨(工学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G902811
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 月 /Mon 5, 月/Mon 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	高校で学ぶ化学と大学で学ぶ化学との間には、本質的なギャップがある。そこで、このギャップについて学び、大学の化学をよりスムーズに理解できるように自主的に対策することがこの授業の目的である。		
授業の達成目標/Course Goals	(1) 原子や分子の成り立ちを理解し、説明できる。(2) 自主的な活動により、情報分析やコミュニケーション、プレゼンテーションのスキルを身につける。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	応用化学科学習・教育目標B-1の達成に寄与する。		
前提とする知識/Prerequisites	高校化学をしっかり学んであること。なお、この授業は無機化学基礎(1年前期)、有機化学基礎Ⅰ(1年後期)、物理化学Ⅰ、Ⅱ(2年次)などの学習に関連する。		
関連科目/Related Courses	高校化学をしっかり学んであること。なお、この授業は無機化学基礎(1年前期)、有機化学基礎Ⅰ(1年後期)、物理化学Ⅰ、Ⅱ(2年次)などの学習に関連する。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	アクティブラーニングで行う。原子の構造や共有結合に関するテーマについてグループで探求し、発表してもらう。途中で4回の達成度確認を行う。達成度確認がすべて合格だった場合には期末試験を免除する。探求テーマ等の詳細については、ガイダンスで説明する。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	(注意:進捗などに応じて変更する場合がある) ①ガイダンス・アイスブレイク ②③第1クール(問題の理解・問題の発見) ④第1クールの達成度の確認 ⑤⑥第2クール(問題の整理) ⑦第2クールの達成度の確認 ⑧⑨第3クール(問題の展開) ⑩第3クールの達成度の確認 ⑪⑫第4クール(問題の探求+プレゼンテーションのスキル) ⑬第4クールの達成度の確認 ⑭全般に渡る達成度の確認(第1回) ⑮全般に渡る達成度の確認(第2回) ⑯期末試験		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書:奥山「有機化学ワークブック」丸善、「ジョーンズ有機化学(上)」、東京化学同人。		
成績評価の方法/Evaluation	上記目標が達成され、大学で学ぶ自主性と基礎力を有するかどうかを評価する。評点の配分は、小テスト・レポート課題(50%)、プレゼンテーション(50%)とし、総合60%以上を合格とする。(総合60%以上が「可」であり、70%以上が「良」、80%以上が「優」、90%以上が「秀」の目安である)		
学習上の助言/Learning Advice	大学での学習や研究は、まず自前の疑問をもち、それについて探求することによって達成される。探求には情報の正しい取捨選択が必要であり、探求の成果は他者に向けて発信しなければならない。情報分析やコミュニケーション、プレゼンテーションのスキルは、大学卒業後の職業生活でも必須の技術である。自主性もまた本講義の評価対象となる基礎力であるから、受身な姿勢をとらずに、自分にとってのサイエンスの楽しさを自分の力で発見してほしい。 なお、「有機化学ワークブック」と「ジョーンズ有機化学」は有機化学基礎Ⅰ(1年後期)でも使用する。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	農業と環境の科学/Introduction to agronomy and environmental science		
担当教員(所属)/Instructor	齋藤 潔(農学部農業経済学科)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G903010
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 火 /Tue 1, 火/Tue 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	齋藤 潔(農学部2号館南(農業経済学科棟)4階齋藤研究室 saitok@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	齋藤 潔(随時(メールで在室日時を確かめてください。))		
授業の内容/Course Description	この授業は農学部1年生を対象として、それぞれの専門課程に進むに当たって必要な農学の基礎的素養を修得するコア科目と位置づけられている。近代農学は食料生産効率の向上など目覚ましい実績を上げてきたが、そのなかで学問領域の専門分化が進み、農学研究に共通するパラダイムが失われていると指摘する声もある。また、近代農学が地球環境に大きな負荷を与えている面も見逃せなくなってきた。 この授業では農学大系の全体像を示すことを目的として、農業の歴史と現状、農業と地球環境の関係性について、日本と世界の視点をクロスさせながら講義を進める。さらに、先端技術を用いたバイオテクノロジーの研究動向を踏まえた農学研究を紹介するとともに、研究の社会的責任、研究ルールという研究倫理についても触れる。		
授業の達成目標/Course Goals	農学はさまざまな研究分野の複合領域として成立している。その農学の総合性を理解するとともに、農学が実践的な学問であり、社会で発生している諸問題の解決に貢献できることを学ぶ。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	持続的農業生産、環境の保全と修復、生命科学の発展と応用を共通の目標においた研究・教育を通して。地域社会ならびに国際社会に貢献できる人材を育成する。		
前提とする知識/Prerequisites	この授業をよりよく理解するために必要な学習スキルは、広範な知識欲に加え、聴く力、疑問力、質問力、論理思考力である。これらの学習スキルを授業を通して強化してほしい。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	この授業は、農学部の農業経済学科、農業環境工学科、応用生命科学科の3学科6人の教員が担当し、講義形式で行う。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 農耕の起源、農学のあり方を考える 第2回 中世ヨーロッパの森と土壌 第3回 産業革命と農業革命が世界を変えた 第4回 日本と政界の農業を知る(以上齋藤潔) 第5回 農業の付加価値としての環境 第6回 環境の基礎としての物質循環(以上後藤章) 第7回 地球の環境問題とは 第8回 地球温暖化(以上松井宏之) 第9回 人口爆発と食料問題 第10回 大気汚染と酸性雨(以上齋藤高弘) 第11回 バイオレメディエーション1-微生物を活用した環境の計測 第12回 バイオレメディエーション2-微生物を活用した環境の修復と保全(以上上田俊策) 第13回 バイオテクノロジーの可能性1 第14回 バイオテクノロジーの可能性2(以上飯郷雅之) 第15回 宇都宮大学で学んだことを社会でどのように生かすのか?研究倫理(齋藤潔) 第16回 試験(会場は2つに沸かれます。詳細は第15回授業で告知します)		
教科書・参考書等/Textbooks	この授業では各教員が作成したテキスト冊子を受講生に配布する。参考図書などは授業中に紹介する。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への出席状況、試験、レポートなどで総合的に成績評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	この授業ではそれぞれの授業において、特定のテーマを取り上げるが、より深い関心を抱いたときには、自分で調べてみるほか、各教員の研究室を訪ねて、それぞれの教員からアドバイスを受けるなど教員を積極的に活用してほしい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	農学部コア実習(資源)/Agricultural core training		
担当教員(所属)/Instructor	長尾 慶和(農学部), 居城 幸夫(農学部), 柏寄 勝(農学部), 高橋 行継(農学部), 福森 理加(農学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G903100
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 通年/Year-long 金/Fri 5, 金/Fri 6, 金/Fri 7, 金/Fri 8, 金/Fri 9, 金/Fri 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	<p>長尾 慶和(農学部附属農場 (0285-84-1321, ynagao@cc.utsunomiya-u.ac.jp)) 居城 幸夫(「居城幸夫」 E-mail: ijiro@cc.utsunomiya-u.ac.jp Tel: 0285-84-1254) 柏寄 勝(農学部附属農場 Tel 0285-84-1338(研究室) mkashiwa@cc.utsunomiya-u.ac.jp) 高橋 行継(電話0285-84-1206、 e-mail: takahashi@cc.utsunomiya-u.a</p>		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	<p>長尾 慶和(毎週火曜日午前中(できるだけ事前にメールで連絡を下さい)) 居城 幸夫(曜日と時間帯: 月曜日、水曜日および木曜日の12時から13時 場所: 附属農場居城研究室 この曜日や時間帯以外にEメールや電話予約も可能) 柏寄 勝(柏寄は峰キャンパスに研究室等がありませんので、e-mail等で質問等を受け付けます。) 高橋 行継(前期は毎週月・木・金曜日、後期は水・木・金曜日の昼休み (12:20~13:10)。 ただし、所用で不在の場合もあるので、事前にメール等で連絡、確認のこと。上記時間帯に限らず適宜対応も可能。)</p>		
授業の内容/Course Description	附属農場におけるフィールド実習を通じて、農学を学ぶ上で基盤となる「食」「生命」「環境」に関して体験的に学び、私たちの生活を支える食、食を支える農業、農業を支える生命、そして農業と環境の関連、について理解を深める。		
授業の達成目標/Course Goals	宇都宮大学農学部では総合科学としての農学について教育・研究を行っていくにあたり、フィールドワークを重視しています。本カリキュラムでは農業の現場などを実際に体験し、農学に対する基礎的な理解を深めることを目的としています。全国的にもトップクラスの内容と規模を誇る附属農場を最大限に活用した幅広い実習を通して、現場から発想し、現場に貢献する視点を養います。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	農学部のすべての学科の学習・教育の基礎として、基盤教育科目の中の専門導入科目として位置づけられています。標準履修年次は1年次です。		
前提とする知識/Prerequisites	知識・経験は問いません。		
関連科目/Related Courses	知識・経験は問いません。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	峰正門前のバスの乗降場所を12:50に出発し、約20分で附属農場へ到着します。講義室でその日の実習内容に関する事前説明を受けた後、果樹園や水田、牛舎へ向かい、実習を行います。実習終了後は講義室へ戻り、当日の実習の振り返りレポートを作成し、16:30をめぐりに峰キャンパスへ向けて出発します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	作物分野: 水稻播種・移植・収穫、ジャガイモ収穫など 園芸分野: 果樹摘果・袋掛け・栽培管理・収穫など 畜産分野: ウシの給餌・搾乳・哺乳、ヒツジの毛刈りなど 機械分野: 農業機械操作		
教科書・参考書等/Textbooks	参考書: 農学部編「農業実習ハンドブック」 農学部編「実験・実習における安全の手引き」		
成績評価の方法/Evaluation	実習レポートの採点結果をベースに、実習態度を加味して評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	「実験・実習における安全の手引」に準拠した<実習に相応しい>服装、すなわち作業着(タイプは問いません)と長靴を用意して下さい。		
キーワード/Keywords	食、環境、生命、自然、農業		

授業科目名(英文名) /Course Title	農学部コア実習(生命)/Agricultural core training		
担当教員(所属)/Instructor	東 徳洋(農学部応用生命化学科)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G903200
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester /Mon 5, 月/Mon 6, 月 /Mon 7, 月/Mon 8, 月 /Mon 9, 月/Mon 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	東 徳洋(内線5478 azuma@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	東 徳洋(金) 16:00-18:00 食品生化学教員研究室 I)		
授業の内容/Course Description	この実習では、農林業体験や食品成分の取り扱いに関する実習さらに、食品・製菓関連の製造現場(工場)の訪問学習などの幅広い体験をすることにより、農学部で学んだ知識が実際にどのような形で社会貢献へとつながるのかを学んでいきます。		
授業の達成目標/Course Goals	本カリキュラムでは農林業や製造業の現場を実際に体験し、実際に企業がどのように厳しく安全管理に気を遣っているかを体験することが授業の目標の一つ。また、食品を多面的に取り扱ってみることで食品成分の特性を体験的に習得することも目標としています。幅広い体験を通して現場から発想し、現場に貢献するという視点を養います。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	農学部のすべての学科の学習・教育の基礎として、基盤教育科目の中の専門導入科目としての位置づけであると同時に食品衛生監視員、食品衛生管理者任用資格取得の必須の科目でもあります。生命・食品・環境に関する基礎的な知識を組み合わせることで物質の流れを把握し、実習での目的や結果を説明するためのプレゼンテーションおよびコミュニケーション能力を身につけてほしい。		
前提とする知識/Prerequisites	特になし		
関連科目/Related Courses	特になし		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	工場見学と食品成分の取り扱い実習が主であり、レポート提出を毎回課します。決められた期限内に提出すること。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回ガイダンスおよびHACCPに関する講義と演習 第2回農場実習(1)ウシ飼養管理・アイスクリーム製造実習 第3回農場実習(2)果樹摘果および水稲移植実習 第4回製造工場見学(1)大豆加工品 第5回演習林実習間伐・伐採実習 第6回製造工場見学(2)育児用食品 第7回製造工場見学(3)野菜加工品 第8回製造工場見学(4)製菓 第9回製造工場見学(5)製菓 第10回製造工場見学(6)サニタリー製品 第11回製造工場見学(7)食品製造機械 第12回食品成分取り扱い実習(1)食品加工実習 第13回食品成分取り扱い実習(2)食品成分解析実習 第14回食品成分取り扱い実習(3)物性解析実習 第15回食品成分取り扱い実習(4)香り成分合成実習		
教科書・参考書等/Textbooks	必要な資料は適宜配布する。		
成績評価の方法/Evaluation	出席状況・実習態度(50%)およびレポート内容(50%)により総合評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	この授業では時間、期日の厳守、工場での迅速な動きなど、規律ある行動の重要性を体得してほしい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	農学部コア実習(農環)/Agricultural core training		
担当教員(所属)/Instructor	齋藤 高弘(農学部農業環境工学科), 松井 宏之(農学部農業環境工学科)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G903300
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 通年/Year-long 水/Wed 5, 水/Wed 6, 水/Wed 7, 水/Wed 8, 水/Wed 9, 水/Wed 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	この授業は、皆さんが宇都宮大学農学部で修業する重要な共通コア科目の一つです。宇都宮大学農学部では、総合科学としての農学について教育・研究を行っていくにあたり、フィールドワークを重視しています。附属農場、附属演習林における農作業や、農業関連施設等への見学を行い、農学に関する幅広い体験実習を行います。		
授業の達成目標/Course Goals	本カリキュラムは農林業の現場などを実際に体験することを目的としています。そのため、附属農場・附属演習林での実習などに加えて、アグリビジネスや研究所の訪問学習など農林業に関連した幅広い体験をし、現場から発想し、現場に貢献するという視点を養うことが目標です。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	学修・教育目標の(A)「広く地球的視野から農業・農学の役割について学ぶ」ことに対応しています。		
前提とする知識/Prerequisites	知識・経験は問いません。		
関連科目/Related Courses	知識・経験は問いません。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	実習および学外施設見学後レポートを課し、受講生にこれらの見学や実習について理解を深めてもらい、農林業現場に関連した幅広い体験を通して、宇都宮大学農学部で学ぶ各科目への興味が持てるよう促します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. 実習ガイダンス 2. 学外見学 3. 水稲播種 4. 温室果菜管理(キュウリ芽かき・誘引) 5. 果樹結実管理(ナシ摘果他) 6. 学外見学 7. 水稲移植 8. 温室花卉管理(シクラメン鉢替え他) 9. 家畜飼養管理 10. 学外見学 11. 機械操作/大豆播種・定植, 畜産環境実習 12. 畜産環境実習, 機械操作・大豆定植 13. 学外環境関連実習 14. スイートコーン収穫 15. 果実品質向上技術(ブドウ摘粒・摘房他) 16~17. 林業体験(枝打ち・徐間伐) 18~19. A班: 宿泊実習(園芸・畜産) 20. 温室花卉管理(シクラメン葉組み他) 21. 果樹収穫(クリ・リンゴ他) 22. 葉菜収穫(ハクサイ他) 23. ソバ打ち 24. 根菜収穫(ダイコン他) 25. 学外見学 26. 黒大豆選別・調製 27. 学外見学 28. 農用林管理 29. 1年の振り返り(レポート)		
教科書・参考書等/Textbooks	「農業実習ハンドブック」を配布します。その他、実習に応じて資料を配付します。「ハンドブック」は毎回の実習に持参し、あらかじめその回の内容を読んでおくことが望まれる。		
成績評価の方法/Evaluation	受講態度(20%)、前期終了時および後期終了時に課すレポート各1報(80%)により評価します。		
学習上の助言/Learning Advice	「実験・実習における安全の手引き」に準拠した服装、持ち物を用意して下さい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	農学部コア実習(農経)/Agricultural core training		
担当教員(所属)/Instructor	加藤 弘二(農学部農業経済学科)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G903500
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 通年/Year-long 水/Wed 5, 水/Wed 6, 水/Wed 7, 水/Wed 8, 水/Wed 9, 水/Wed 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	この授業は、皆さんが宇都宮大学農学部で修業する重要な共通コア科目の一つです。宇都宮大学農学部では、総合科学としての農学について教育・研究を行っていくにあたり、フィールドワークを重視しています。本カリキュラムでは農林業の現場などを実際に体験することを目的としています。そのため、附属農場・附属演習林での実習などに加えて、アグリビジネスや研究所の訪問学習など農林業に関連した幅広い体験をし、現場から発想し、現場に貢献するという視点を養います。		
授業の達成目標/Course Goals	1. 農作業体験や見学実習によるフィールドワークへの心構えの修得 2. フィールドワークによる新鮮な問題意識の醸成と課題意識の獲得 3. 協同して作業する楽しさや達成感の獲得		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	基盤科目(専門導入科目)である。主に農学に関する基礎知識を講義で受けるが、本講義では、フィールドワーク重視の実習科目であり、現場から体験的に学習する姿勢を身につけ、その後の専門講義の基礎体験の実習科目に位置づけられる		
前提とする知識/Prerequisites	知識・経験は問いません。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	実習および学外施設見学後レポートを課し、受講生にこれらの見学や実習について理解を深めてもらい、農林業現場に関連した幅広い体験を通して、宇都宮大学で学ぶ各科目への興味を持てるよう促します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	1. 県農業概況説明; 2. 学外見学; 3. 温室果菜管理; 4. 水稻播種; 5. 学外見学; 6. 日光演習林; 7. トウモロコシ播種; 8. 水稻移植; 9. 温室花卉管理; 10. 果実結実管理; 11. 家畜飼養管理; 12. 果実品質向上技術; 13. 学外見学; 14. 機械関連実習; 15. 経済関連実習; 16. 農場宿泊実習; 17. 船生演習林(枝打ち); 18. サツマイモ収穫; 19. 学外見学; 20. 温室花卉管理; 22. 根菜収穫; 23. ラッカセイ調整; 24. 船生演習林(間伐); 25. 葉菜収穫; 26. ソバ打ち; 27. 農用林管理; 28. 演習総括 詳細は第1回の授業の際に説明します。		
教科書・参考書等/Textbooks	「農業実習ハンドブック」授業開始時に配布します。実習時には毎回持参すること。 その他、必要に応じて資料を配付します。 農作業に必要な服装、長靴。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への参加態度(70%), レポート(30%)		
学習上の助言/Learning Advice	「実験・実習における安全の手引き」に準拠した服装、持ち物を用意して下さい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	農学部コア実習(森林)/Agricultural core training		
担当教員(所属)/Instructor	執印 康裕(農学部森林科学科)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G903700
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 通年/Year-long 水/Wed 1, 水/Wed 2, 水/Wed 3, 水/Wed 4, 水/Wed 5, 水/Wed 6, 水/Wed 7, 水 /Wed 8, 水/Wed 9, 水 /Wed 10	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	執印 康裕(電話:028-649-5544 電子メール: shuin@cc.utsunomiya-u.ac.jp)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	執印 康裕(火曜日16:00~17:00)		
授業の内容/Course Description	本実習は、宇都宮大学農学部で修業する重要な共通コア科目の一つです。附属演習林及び附属農場などへ実際に赴き、農林業の現場を体験します。		
授業の達成目標/Course Goals	宇都宮大学農学部では、総合科学としての農学について教育・研究を行っていきにあたり、フィールドワークを重視しています。本実習では農林業の現場などを実際に体験することを目的とします。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	本実習は、森林科学科の学習・教育目標の(B)「栃木県内に展開する林業生産現場や演習林を活用し、森林の育成・管理から、生産・加工利用にいたる一連の生産活動の流れと森林の持つ多面的な機能を理解する。さらに、森林における生産活動が社会及び自然環境に及ぼす影響を総合的に理解し、評価する能力を身につける。」に関連しています。		
前提とする知識/Prerequisites	知識、経験は問いません。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	実習および学外施設見学後、レポートを課し、受講生にこれらの見学や実習について理解を深めてもらい、農林業現場に関連した幅広い体験を通して、宇都宮大学農学部で学ぶ各科目への興味が持てるように促します。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 演習林踏査・技術者倫理講義(船生演習林、1泊2日) 第2週 キノコの種駒打ち(船生演習林) 第3週 田植え(附属農場) 第4週 植え付け作業(船生演習林) 第5週 日光演習林の見学(日光演習林) 第6週 針葉樹人工林下刈り作業(船生演習林) 第7週 作物の収穫(附属農場) 第8週 木材市場・製材所見学 第9週 技術者倫理学内講義 第10週 針葉樹人工林間伐作業(船生演習林) 第11週 足尾緑化工事等見学および野生動物観察 第12週 キノコ栽培用の原木採取(船生演習林) 第13週 針葉樹人工林枝打ち作業(船生演習林)		
教科書・参考書等/Textbooks	教科書: 森林科学科実習・実験ガイド(学科ガイダンスで配布) 参考書: 特にありません。 教材: 学内における事前説明や毎回の実習の際に資料を配布します。		
成績評価の方法/Evaluation	授業への取組(40%)およびレポート等(60%)から評価し、総合点が、80点以上を「優」、70点以上80点未満を「良」、60点以上70点未満を「可」、60点未満を「不可」とします。		
学習上の助言/Learning Advice	「実験・実習における安全の手引き」に準拠した服装、持ち物を用意して下さい。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	地域デザイン学序論A		
担当教員(所属)/Instructor	原田 淳(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G904101
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 前期/First semester 金 /Fri 5, 金/Fri 6	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	原田 淳(5521, harada@cc)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	原田 淳(木曜日3-4時限)		
授業の内容/Course Description	地域社会分野の地域分析の基礎を学習するため、社会システム、地域資源、地域生活などを分析する学問の序論を解説する。専門分野ごとに初学者向けに解りやすく紹介・解説する。		
授業の達成目標/Course Goals	(1) 地域社会の制度・社会資源・文化の全体像を俯瞰し、実社会の課題解決や専門分野相互のつながりについて理解する。 (2) コミュニティデザインの専門分野を通して、地域の課題に興味を持ち、種々の観点から自分の考えをまとめることができる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	学部共通の学習・教育目標「(B)科学技術とデザインに関する共通のリテラシーを身につけている。」に寄与する。		
前提とする知識/Prerequisites	前程とする知識、経験は特に必要としない。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	コミュニティデザイン学科の教員がオムニバス形式で、それぞれの専門分野に関する実社会の課題や研究内容などについて、初学者にわかりやすく説明する。必要に応じて資料などを配付する。 毎回の授業で他学科学生との少人数ディスカッションを実施しレポートを戻出させる。 AL20: 学部学生が合同で学際的に学修する。異分野の交流をもたらすディスカッション、グループワークを取り入れる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1回 ガイダンス 第2回 食育学の視座と方法 第3回 心理学の視座と方法 第4回 観光地理学の視座と方法 第5回 地域生態学の視座と方法 第6回 文化マネジメントの視座と方法 第7回 社会教育学の視座と方法 第8回 農村マネジメントの視座と方法 第9回 社会学の視座視座と方法 第10回 社会福祉学の視座と方法 第11回 まちづくり論の視座と方法 第12回 公共マネジメントの視座と方法 第13回 公共政策論の視座と方法 第14回 行政学の視座と方法 第15回 経済学の視座と方法、まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	特になし		
成績評価の方法/Evaluation	毎回の授業で、授業内容および少人数ディスカッションに関するレポートを提出させ、これを評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	この授業を受講することで、さまざまな専門分野の積み重ねから、社会が成り立っていることがわかると思います。 そして近い将来に、卒業論文や修士論文に携わり、さらに将来、社会での活動に参画することも見据えて、自分たちが大学で学ぶべきことを見出し、今後の勉学に活かしてください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	地域デザイン学序論B		
担当教員(所属)/Instructor	佐藤 栄治(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G904102
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 1, 金/Fri 2	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入可(出願前面談有)		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact	佐藤 栄治(e-satoh@cc.utsunomiya-u.ac.jp, 028-689-6202)		
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours	佐藤 栄治(e-mail等で予約を取って質問, 相談に応じる)		
授業の内容/Course Description	建築と地域デザインに関するトピックスを手掛かりとして、人間の居住環境としての建築や都市・地域を建設、維持管理、更新・再生していく上でのハードテクノロジー、ソフトテクノロジーについて、初学者向けにわかりやすく解説する。		
授業の達成目標/Course Goals	本講義の達成目標は、建築都市分野と地域デザインとの関わりについて理解を深め、他の分野と合わせて複眼的な視点から地域を見ることができるようになることにあります。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	建築都市デザイン学科の学修・教育目標(1)デザイン科学とデザイン科学に対する共通のリテラシーを身に付ける		
前提とする知識/Prerequisites	前提とする知識、経験は特に必要ない。		
関連科目/Related Courses	地域デザイン科学序論A、地域デザイン科学序論Cおよび新入生セミナーを修得していることが望ましい。 また、この科目は建築都市デザイン学科の専門科目につながる基礎的な科目です。		
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	授業はオムニバス形式で進めます。初回のオリエンテーションにおいて全体像を提示し流れを示します。下記計画のように、毎回の講義において1つづつテーマを取りあげ解説します。なお講義形式ですが、各回とも授業の一部の時間を使用して、学生同士のグループワーク・討議を行う、あるいは演習的な課題に取り組むなど、主体的な学びを工夫します。議論した結果をグループごとに発表させたり、演習課題の解説を行うことで、建築都市分野の地域デザインに果たす役割を学び、講義内容の理解を深めます。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第01回: ガイダンス 第02回: 地域のコミュニティ開発と再生 第03回: 都市・地域の成長管理 第04回: 建築デザインと都市・地域 第05回: 建築空間と環境心理 第06回: 建築の環境性能評価 第07回: 室内環境制御技術 第08回: 建築設備の進化 第09回: 建築構造技術の進化 第10回: 鉄骨構造の技術進化 第11回: C L Tの動向と普及 第12回: 建築材料の高機能化 第13回: 建築材料の長寿命化 第14回: 建築リサイクル 第15回: まとめ		
教科書・参考書等/Textbooks	特に定めない		
成績評価の方法/Evaluation	授業出席回数3分の2以上の受講者を対象に、授業の達成目標について一定のレベルに達しているかどうか、期末試験において課題を課し、その解答内容と出席状況、受講態度などを総合的に勘案して成績を評価します。原則として、90点以上を秀、80点以上を優、70点以上を良、60点以上を可とします。		
学習上の助言/Learning Advice	本講義を受けることで、建築は人間の生活にとって必要不可欠であること、建築はいろいろな専門分野の技術が統合してつくられていること、そして建築個々が都市・地域の構成要素として人間生活の必要性を満たすためには、建築を超えるレベルでのソフト・テクノロジーによる地域デザインが必要となることを学んで下さい。		
キーワード/Keywords	地域デザイン, 建築, 都市		
備考/Notes			

授業科目名(英文名) /Course Title	地域デザイン学序論C		
担当教員(所属)/Instructor	山岡 暁(地域デザイン科学部)		
授業種別/Type of Class	講義	時間割コード/Registration Code	G904103
開講学期曜日時限/Period	2016年度/Academic Year 後期/Second semester 金 /Fri 3, 金/Fri 4	単位数/Credits	2単位
科目等履修生の受入/Acceptance of Credited Auditors	受入不可		
連絡先(研究室、電話番号、電子メールなど)/Contact			
オフィスアワー(自由質問時間)/Office Hours			
授業の内容/Course Description	社会基盤整備による良好な社会環境の実現およびそのための社会基盤技術について、専門分野ごとに初学者向けに解りやすく紹介・解説する。		
授業の達成目標/Course Goals	(1) 社会基盤整備の全体像を俯瞰し、実社会の課題解決や専門分野相互のつながりについて理解する。 (2) 社会基盤デザインの専門分野を通して、地域の課題に興味を持ち、種々の観点から自分の考えをまとめることができる。		
学習・教育目標との関連 /Educational Goals	社会基盤デザイン学科の学習・教育目標： (B) 科学技術と地域デザインに関する共通のリテラシーを身につけているに寄与する(社会基盤デザイン学科の学習・教育目標については履修案内(地域デザイン科学部)等を参照)。		
前提とする知識/Prerequisites	前提とする知識、経験は特に必要としない。		
関連科目/Related Courses			
授業の具体的な進め方 /Course Methodologies	社会基盤デザイン学科の教員がオムニバス形式で、それぞれの専門分野に関する実社会の課題や研究内容などについて、初学者にわかりやすく説明する。必要に応じて、資料などを配布する。毎回の授業で他学科学生との少人数ディスカッションを実施しレポートを提出させる。 AL20：学部学生が合同で学際的に学修する。毎回の授業で異分野の交流をもたらすディスカッション、グループワークを取り入れる。		
授業計画(授業の形式、スケジュール等) /Class Schedule	第1週 ガイダンス 第2週 橋梁と構造力学 第3週 河川と治水 第4週 地盤工学序論 第5週 身近な建設材料 第6週 未来都市の創造 第7週 橋梁構造物の耐震 第8週 海岸防災工学序論 第9週 地下空間の有効利用 第10週 コンクリートの高機能化 第11週 水域生態系と社会基盤整備 第12週 建設材料のリサイクル 第13週 交通計画と土地利用 第14週 防災マネジメント地域デザイン 第15週 海外における地域課題と社会基盤		
教科書・参考書等/Textbooks	特になし		
成績評価の方法/Evaluation	毎回の授業で、授業内容および少人数ディスカッションに関するレポートを提出させ、これを評価する。		
学習上の助言/Learning Advice	この授業を受講することで、さまざまな専門分野の積み重ねから、社会が成り立っていることがわかると思います。そして近い将来に、卒業論文や修士論文に携わり、さらに将来、社会での活動に参画することも見据えて、自分たちが大学で学ぶべきことを見出し、今後の勉学に活かしてください。		
キーワード/Keywords			
備考/Notes			